

知的障がい教育における 教育課程の適切な実施に関する研究 (特別支援学校小学部)

- 「各教科等を合わせた指導」での目標, 内容, 方法, 学習評価の一体化を通して-

知的障がい特別支援学校における

各教科等を合わせた指導での目標・内容・方法・学習評価の一体化を目指す

授業づくりガイドブック

～児童の主体的な姿を目指して～



令和2年2月14日
岩手県立総合教育センター
長期研修生
所属校 岩手県立花巻清風支援学校
武田夕加里

はじめに

平成 29 年 4 月に特別支援学校小学部・中学部学習指導要領が公示され、第 2 章第 1 節には、各教科等の指導内容間の関連が記されており、教育課程の柔軟な編成と実施について、より具体的に示されています。

知的障がい教育においては、児童生徒の障がいの状態等に応じた弾力的な教育課程が編成できるようになっており、教科等横断的な視点で展開される効果的な指導形態として、各教科等の全部または一部を合わせた指導（「各教科等を合わせた指導」）を教育課程の中心に据え、生活に密着した学習を行っています。

しかしながら、「各教科等を合わせた指導」を行う場合に、各教科等の目標や内容を意識した単元構想及び授業づくりが漠然としたものになってしまったり、分析的な評価や多面的な評価につながりにくかったりする現状があります。

「各教科等を合わせた指導」で、教科等の目標・内容を踏まえた学習活動の視点を示し、指導における重点を明確にすること、そして、単元や授業における評価を共有し、目標や内容、手立てを見直し、授業の改善につなげることが必要と考え、これらを一体化して授業を行うことができるよう「PDCAシート」を作成しました。

また、単元に複数の教科内容を含む「各教科等を合わせた指導」を行う際には、学習指導要領に示される各教科の内容を具体化して指導内容を設定する必要があると考え、各教科の目標や各段階の目標、内容から具体的な内容の例を、教科別段階別に整理し、「各教科の目標・各段階の目標・内容の一覧及び具体的な内容の例」を作成しました。

本ガイドブックは、「各教科等を合わせた指導」での目標、内容、方法（授業の手立て）、学習評価を一体化させるため、「PDCAシート」と「各教科の目標・各段階の目標・内容の一覧及び具体的な内容の例」を活用した授業づくりについて解説することで、指導する先生方の授業づくりに役立てていただくことを目的とするものです。

目次

第1章 知的障がいのある児童生徒に関する基本的事項

- 1 知的障がいの特徴について・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- 2 知的障がいのある児童生徒の学習上の特性について・・・・・・・・ 3
- 3 知的障がいのある児童生徒の教育的対応の基本について・・・・・・・・ 4

第2章 知的障がい特別支援学校(小学部)の教育課程の構造と分類

- 1 知的障がい特別支援学校の教育課程の編成について・・・・・・・・ 5
- 2 「各教科等を合わせた指導」の形態と各教科との関連について・・・・・・・・ 6
- 3 各教科の目標・各段階の目標・内容の一覧および具体的な内容の例の概要・・・・・・・・ 7
- 4 PDCAシートの概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9
- 5 知的障がい特別支援学校の教育課程例
 - (1) 「各教科等を合わせた指導」を中心に行う教育課程・・・・・・・・ 10
 - (2) 「各教科等を合わせた指導」+自立活動を時間割に位置付けて行う教育課程・・・・・・・・ 10
 - (3) 自立活動を主として行う教育課程・・・・・・・・・・・・・・・・ 11

第3章 授業づくりガイド

- 1 「各教科等を合わせた指導」の授業づくりについて・・・・・・・・ 12
- 2 「各教科等を合わせた指導」の授業づくりの手順及び留意点・・・・・・・・ 13
 - <手順①> 単元・題材名及び単元の目標を設定する・・・・・・・・ 18
 - <手順②> 児童の実態把握をし、単元における個人の目標を設定する・・・・・・・・ 19
 - <手順③> 単元の目標に基づいた指導計画を設定する・・・・・・・・ 20
 - <手順④> 単元の計画を推進するための展開案を検討する・・・・・・・・ 21
 - <手順⑤> 学習活動への手立て・支援を検討する・・・・・・・・ 23
 - <手順⑥> 評価・改善をしながら単元を進める・・・・・・・・ 24
 - <手順⑦> 単元全体を通しての評価を行い、次の単元につなげる・・・・・・・・ 25

参考資料

- ・ PDCAシート様式&PDCAシート記入例・・・・・・・・・・・・・・・・ 28
- ・ 各教科の目標・各段階の目標・内容の一覧および具体的な内容の例(小学部)・・・・・・・・ 36
- ・ 引用・参考文献等・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 87

1 知的障がいの特徴について

知的障がいのある児童生徒に対する教育を行う場合は、知的障がいの特徴を理解しておく必要があります。特別支援学校小学部・中学部学習指導要領（2017）解説では、「知的障害とは、**知的機能の発達に明らかな遅れと、適応行動の困難性を伴う状態が、発達期に起こるもの**」とされています。

Q 「知的機能の発達に明らかな遅れ」がある状態とは…？

A 認知や言語などに関わる精神機能のうち、情緒面とは区別される知的面に、同年齢の児童生徒と比較して平均的水準より有意な遅れが明らかな状態のことです。

Q 「適応行動の困難性」とは…？

A 他人との意思の疎通、日常生活や社会生活、安全、仕事、余暇利用などについて、その年齢段階に標準的に要求されるまでには至っていないことであり、適応行動の習得や習熟に困難があるために、実際の生活において支障をきたしている状態のことです。



Q 「伴う状態」とは…？

A 「知的機能の発達に明らかな遅れ」と「適応行動の困難性」の両方が同時に存在する状態を意味しています。

知的機能の発達の遅れの原因は、概括的に言えば、中枢神経系の機能障害であり、適応行動の困難性の背景は、周囲の要求水準の問題などの心理的、社会的、環境的要因等が関係しています。

Q 「発達期に起こる」とは…？

A この障害の多くは、胎児期、出生時及び出生後の比較的早期に起こることを表しています。発達期の規定の仕方は、必ずしも一定ではありませんが、成長期（おおむね18歳）までとすることが一般的です。

第1章 知的障がいのある児童生徒に関する基本的事項

適応行動の面において、生じやすい困難さについては、特別支援学校学習指導要領解説 各教科等編（小学部・中学部）において、以下のように示されています。

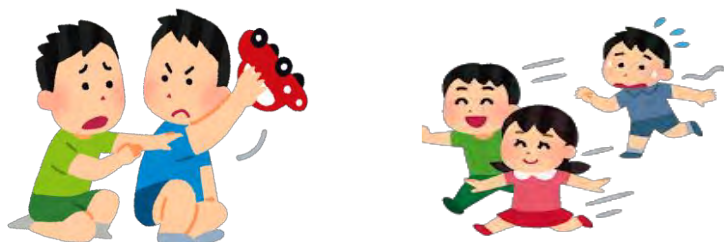
<概念的スキルの困難性>

- ・言語発達：言語理解，言語表出能力など
- ・学習技能：読字，書字，計算，推論など



<社会的スキルの困難性>

- ・対人スキル：友達関係など
- ・社会的行動：社会的ルールの理解，集団行動など



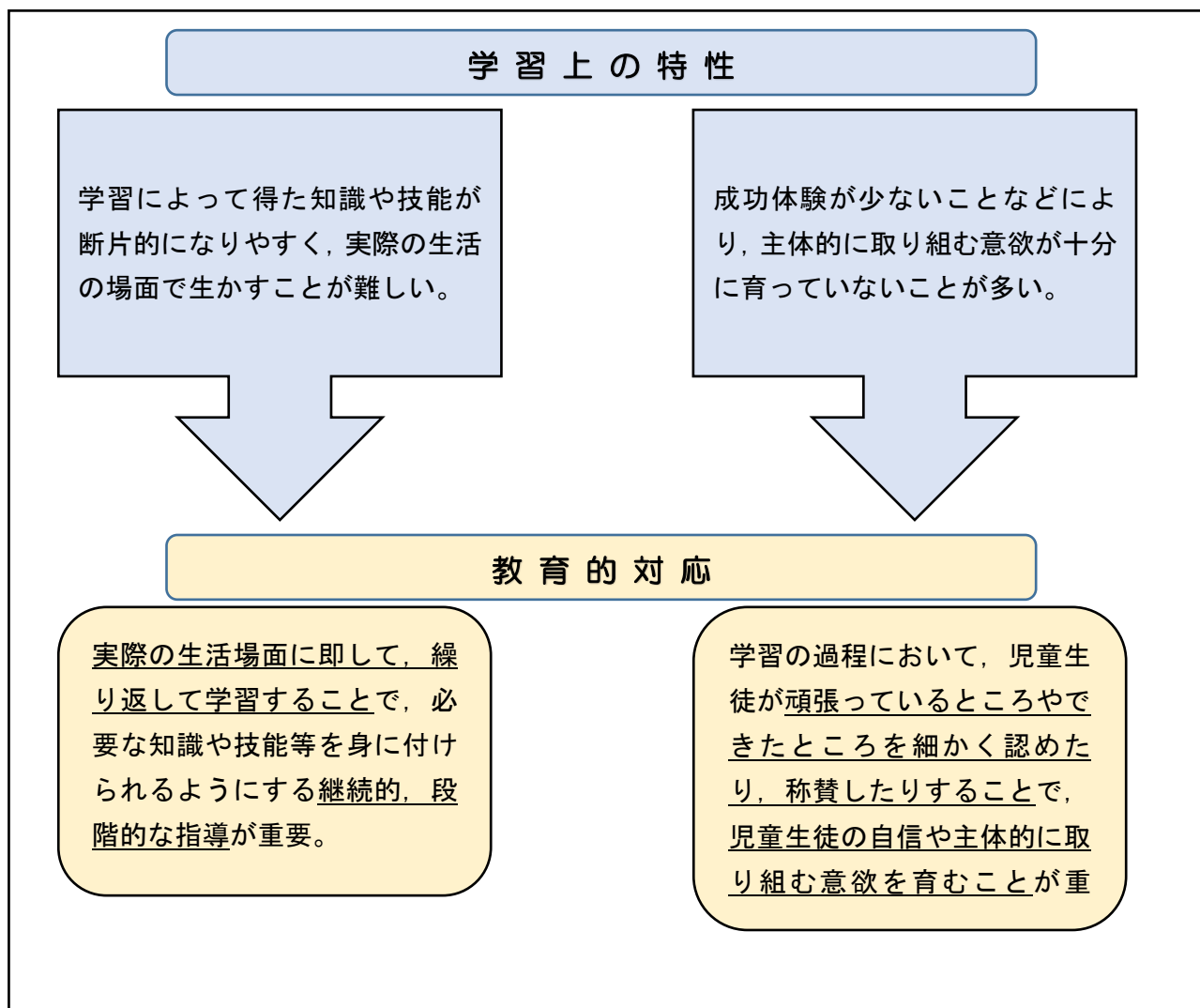
<実用的スキルの困難性>

- ・日常生活習慣行動：食事，排泄，衣服の着脱，清潔行動など
- ・ライフスキル：買い物，乗り物の利用，公共機関の利用など
- ・運動機能：協調運動，運動動作技能，持久力など



上記のような知的障がいの特徴や適応行動の困難さ等を踏まえて、知的障がいのある児童生徒に対する教育を行う特別支援学校の各教科等については、学校教育法施行規則第126条第2項において規定されています。

2 知的障がいのある児童生徒の学習上の特性について



更に、抽象的な内容の指導よりも、実際的な生活場面の中で（例えば、券売機にお金を入れて切符を購入する活動等）、具体的に思考や判断、表現できるようにする指導が効果的です。



3 知的障がいのある児童生徒の教育的対応の基本について

- (1) 児童生徒の知的障害の状態，生活年齢，学習状況や経験等を考慮して教育的ニーズを的確に捉え，育成を目指す資質・能力を明確にし，指導目標を設定するとともに，指導内容のより一層の具体化を図る。
- (2) 望ましい社会参加を目指し，日常生活や社会生活に生きて働く知識及び技能，習慣や学びに向かう力が身に付くよう指導する。
- (3) 職業教育を重視し，将来の職業生活に必要な基礎的な知識や技能，態度及び人間性等が育つよう指導する。その際に，多様な進路や将来の生活について関わりのある指導内容を組織する。
- (4) 生活の課題に沿った多様な生活経験を通して，日々の生活の質が高まるよう指導するとともに，よりよく生活を工夫していこうとする意欲が育つよう指導する。
- (5) 自発的な活動を大切にし，主体的な活動を促すようにしながら，課題を解決しようとする思考力，判断力，表現力等を育むよう指導する。
- (6) 児童生徒が，自ら見通しをもって主体的に行動できるよう，日課や学習環境などを分かりやすくし，規則的でまとまりのある学校生活が送れるようにする。
- (7) 生活に結びついた具体的な活動を学習活動の中心に据え，実際の状況下で指導するとともに，できる限り児童生徒の成功経験を豊富にする。
- (8) 児童生徒の興味や関心，得意な面に着目し，教材・教具，補助用具やジグ等を工夫するとともに，目的が達成しやすいように，段階的な指導を行うなどして，児童生徒の学習活動への意欲が育つよう指導する。
- (9) 児童生徒一人一人が集団において役割が得られるよう工夫し，その活動を遂行できるようにするとともに，活動後には充実感や達成感，自己肯定感が得られるように指導する。
- (10) 児童生徒一人一人の発達の側面に着目し，意欲や意思，情緒の不安定さなどの課題に応じるとともに，児童生徒の生活年齢に即した指導を徹底する。

「特別支援学校学習指導要領解説 各教科等編（小学部・中学部）第4章第2節2」より

知的障がい教育においては，これらの特徴を理解しておくことが重要となります。

1 知的障がい特別支援学校の教育課程の編成について

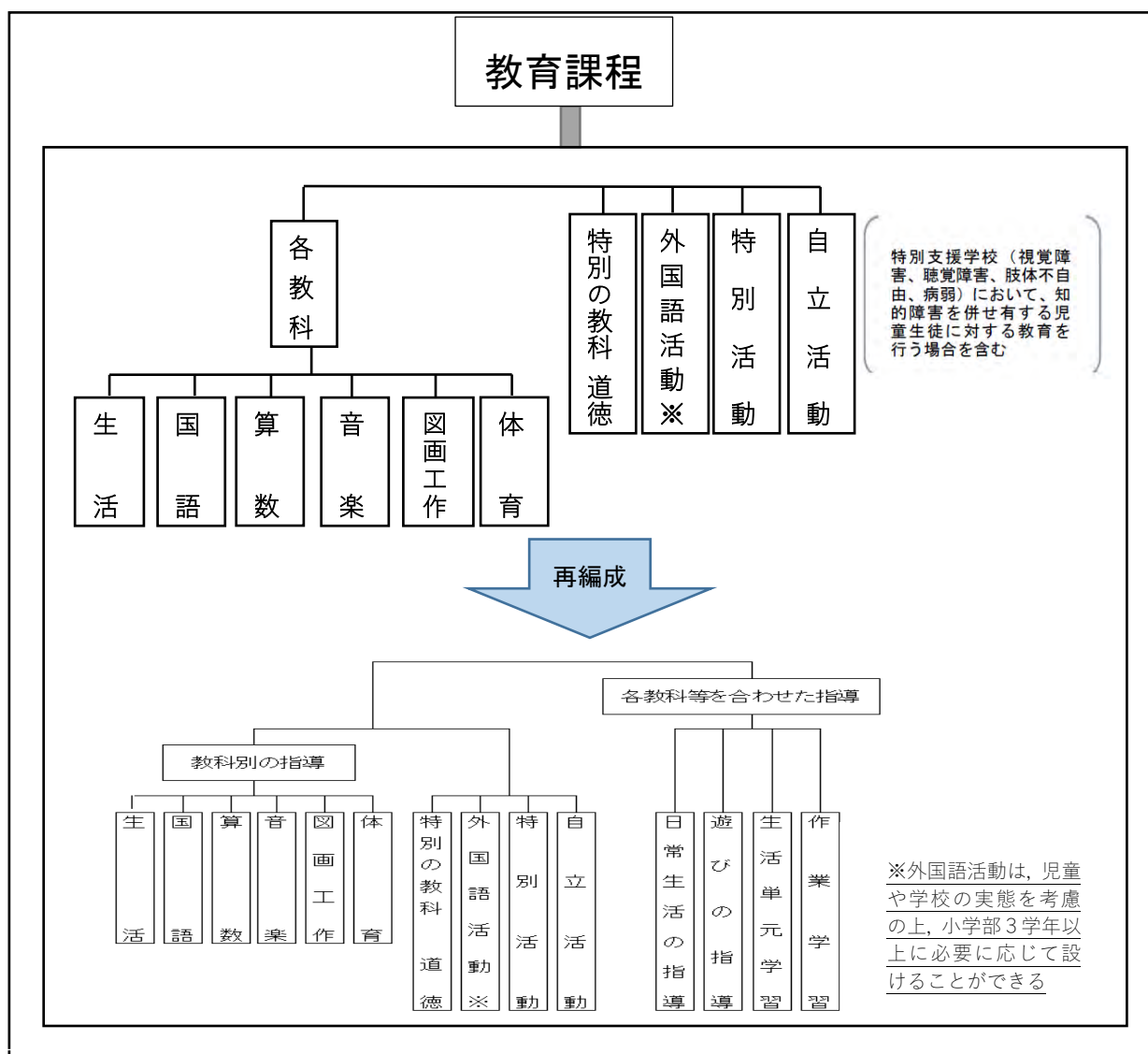
特別支援学校では、障がいのある児童の実態に応じた効果的かつ弾力的な教育課程が編成されています。知的障がいのある児童生徒に対する教育を行う特別支援学校小学部の各教科等については、学校教育法施行規則第126条において以下のように規定されています。

○学校教育法施行規則第126条

特別支援学校の小学部の教育課程は、国語、社会、算数、理科、生活、音楽、図画工作、家庭、体育及び外国語の各教科、特別の教科である道徳、外国語活動、総合的な学習の時間、特別活動並びに自立活動によって編成するものとする。

2 前項の規定にかかわらず、知的障害者である児童を教育する場合は、生活、国語、算数、音楽、図画工作及び体育の各教科、特別の教科である道徳、特別活動並びに自立活動によって教育課程を編成するものとする。ただし、必要がある場合には、外国語活動を加えて教育課程を編成することができる。

知的障がい特別支援学校の教育課程は、児童生徒の知的障がいの状態や程度等、実態等に即した指導を進めるため、指導内容を再編成して、指導形態で表すことができます。【図1】



【図1】 知的障害特別支援学校の教育課程の基本的構造について（文部科学省 中央教育審議会 教育課程部会，2016の図を一部改変）

知的障がい特別支援学校で行われている指導形態は、以下の三つです。

- 教科別の指導（教科毎の時間を設けて指導を行います。）
- 特別の教科 道徳や外国語活動，特別活動，自立活動の時間を設けて指導を行う場合（従前は、領域別の指導と示されていました。）
- 各教科等を合わせた指導（各教科，道徳科，特別活動，自立活動及び小学部においては外国語活動の一部又は全部を合わせて指導を行います。）

指導形態は、指導内容を児童生徒に教えるための方法であり、これらの指導形態が相互に関連しながら、効果的かつ弾力的な教育課程が編成されています。どの指導形態を中心に取り入れるかによって教育課程は異なります。

2 「各教科等を合わせた指導」の形態と各教科との関連について

	指導の形態について	各教科との関連について
日常生活の指導	日常生活の指導は、児童生徒の日常生活が充実し、高まるように日常生活の諸活動を適切に指導するものです。	生活科の内容だけでなく、広範囲に各教科等の内容が取り扱われます。
遊びの指導	遊びを学習活動の中心に据えて、身体活動を活発にし、仲間とのかかわりを促し、意欲的な活動をはぐくみ、心身の発達を促していくものです。	生活科の内容をはじめ、各教科等にかかわる広範囲の内容が扱われます。
生活単元学習	児童生徒が生活上の目標を達成したり、課題を解決したりするために、一連の活動を組織的に経験することによって、自立的な生活に必要な事柄を実際の・総合的に学習するものです。	広範囲に各教科等の内容が扱われます。
作業学習	作業活動を学習活動の中心にしながら、児童生徒の働く意欲を培い、将来の職業生活や社会自立に必要な事柄を総合的に学習するものです。	職業・家庭科の内容だけでなく、広範囲に各教科等の内容が扱われます。

【図2】「各教科等を合わせた指導」の形態および各教科との関連
（文部科学省 中央教育審議会 教育課程部会 特別支援教育部会（2016）の図を一部改編）

「各教科等を合わせた指導」は、【図2】で示したように、広範囲に各教科等の内容が含まれています。単元を構想する際は、予定している学習活動がどのような教科と関連しているのかを意識してみましょう。



3 各教科の目標・各段階の目標・内容の一覧および具体的な内容の例(小学部)の概要

学習指導要領の改訂において、各段階における育成を目指す資質・能力を明確にするため、段階ごとの目標が新設され、小学部は三つの段階、中学部及び高等部は二つの段階での目標が示されています。また、各段階の目標を達成するために必要な内容を、児童生徒の生活年齢を基盤として、知的能力や適応能力及び概念的な能力等を考慮しながら段階毎に配列されています。

「各教科の指導に当たっては、各教科の段階に示す内容を基に、児童又は生徒の知的障害の状態や経験等に応じて、具体的に指導内容を設定するものとする。」と記されており、更に、第1章第3節第3(3)において、「各教科、道徳科、外国語活動、特別活動及び自立活動の一部又は全部を合わせて指導を行う場合、各教科、道徳科、外国語活動、特別活動及び自立活動に示す内容を基に、児童又は生徒の知的障害の状態や経験等に応じて、具体的に指導内容を設定するものとする。」と記されています。これらのことから、「教科別の指導」や「各教科等を合わせた指導」を行う際には、児童の実態に合わせて、学習指導要領に示される各教科の内容を具体化して、指導内容を設定する必要があります。

この「各教科の目標・各段階の目標・内容の一覧及び具体的な内容の例」(【図4】、【図5】)は、教科における児童の実態を把握したり、目安にしたりすることができ、指導内容を検討する際や、個別の指導計画の目標設定の際に活用することも可能です。

2 国語			
<教科の目標>			
小学部			
教科の目標	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で理解し表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す		
知識及び技能	(1) 日常生活に必要な国語について、その特質を理解し使うことができるようにする。		
思考力、判断力、表現力等	(2) 日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を身に付け、思考力や想像力を養う。		
学びに向かう力、人間性等	(3) 言葉で伝え合うよさを感じるとともに、言語感覚を養い、国語を大切にしてその能力の向上を図る態度を養う。		
<各段階の目標>			
	小学部1段階	小学部2段階	小学部3段階
知識及び技能	ア 日常生活に必要な身近な言葉が分かり使うようになるとともに、いろいろな言葉や我が国の言語文化に触れることができるようにする。	ア 日常生活に必要な身近な言葉を身に付けるとともに、いろいろな言葉や我が国の言語文化に触れることができるようにする。	ア 日常生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に触れ、親しむことができるようにする。
思考力、判断力、表現力等	イ 言葉をイメージしたり、言葉による関わりを受け止めたりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合い、自分の思いをもつことができるようにする。	イ 言葉が表す事柄を想起したり受け止めたりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合い、自分の思いをもつことができるようにする。	イ 出来事の順序を思い出す力や感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を身に付け、思い付いたり考えたりすることができるようにする。
学びに向かう力、人間性等	ウ 言葉で表すことやそのよさを感じるとともに、言葉を使おうとする態度を養う。	ウ 言葉がもつよさを感じるとともに、読み聞かせに親しみ、言葉でのやり取りを聞いたり伝えたりしようとする態度を養う。	ウ 言葉がもつよさを感じるとともに、図書に親しみ、思いや考えを伝えたり受け止めたりしようとする態度を養う。
<内容>			
	小学部1段階	小学部2段階	小学部3段階
知識及び技能	ア 言葉の特徴や使い方に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。	ア 言葉の特徴や使い方に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。	ア 言葉の特徴や使い方に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
	(ア) 身近な人の話し掛けに慣れ、言葉が事物の内容を表していることを感じる。	(ア) 身近な人の話し掛けや会話などの話し言葉に慣れ、言葉が、気持ちや要求を表していることを感じる。	(ア) 身近な人との会話や読み聞かせを通して、言葉には物事の内容を表す働きがあることに気付くこと。
	—	—	(イ) 姿勢や口形に気を付けて話すこと。

各教科の目標や各段階の目標、内容を段階別に整理したものを載せています。

【図4】各教科の目標・各段階の目標・内容(国語)(特別支援学校小学部・中学部学習指導要領(2017)より引用し、作成)

各教科の目標や各段階の目標、内容から、具体的な内容の例を教科別、段階別に整理したものを載せています。

＜具体的内容＞			
	小学部1段階 知識及び技能	小学部2段階 知識及び技能	小学部3段階 知識及び技能
言葉の特徴や使い方に関する事項	<ol style="list-style-type: none"> 1 日常生活や遊びの中で、声や音のする方に振り向いたり、耳を傾けたりする。 2 教師の話し掛けに表情や身振りで応じる。 3 教師の話し掛けに音声模倣などによる発声や発語で応じる。 4 教師や友達と一緒に声を出したり、手を叩いたりして、言葉のもつ音やリズムに関心をもつ。 	<ol style="list-style-type: none"> 1 教師や友達など、生活の中で関わる様々な人の話し言葉に聞き慣れる。 2 テレビやラジオなどの媒体を通した音声の口調や速度に聞き慣れる。 3 言葉を用いることで、気持ちや要求が相手に伝わるのがわかる。 4 平仮名に関心をもつ。 5 平仮名で書かれた自分の名前がわかる。 6 平仮名で書かれた友達の名前がわかる。 7 平仮名で書かれた動物の名前がわかる。 8 身近な人との会話の中で、物の名前や動作等、いろいろな種類の言葉を聞いたり、話したりする。 	<ol style="list-style-type: none"> 1 教師や友達との会話や読み聞かせを通して、物事の内容を表す言葉の働きに関心をもつ。 2 背筋を伸ばし、落ち着いた気持ちで話す。 3 唇や舌などを適切に使って発音する。 4 絵本や易しい読み物、わらべ歌、テレビやコンピューターの画面に出てくる促音、長音等の含まれた語句や短い文を正しく読む。 5 平仮名を読む。 6 片仮名を読む。 7 簡単な漢字を認める。 8 動物や果物の名前を表す語句や、色や形を表す語句など、相互に関係のある語句として意味によるまとまりがあることに関心をもつ。 9 2語文から3語文において、主語や助詞が変わることで、意味が変わることがわかる。 10 なるべく正しい姿勢で文章を読む。 11 なるべく明瞭な発音で文章を読む。 12 ひとまとまりの語や文として音読する。 13 言葉の響きやリズムなどに注意して音読する。

【図5】 具体的内容例(国語)(全国特別支援学校知的障害教育校長会編著「新しい教育課程と学習活動Q&A特別支援教育 知的障害教育」(2010)の巻末資料「知的障害特別支援学校における各教科の具体的な内容の例」を引用及び参考に作成)

4 PDCAシートの概要

「各教科等を合わせた指導」では、単元に含まれる教科の内容を意識したり、指導における重点を明確にしたりして授業を行うことや、教師間で児童への支援や手立て、評価を共有して授業の改善につなげることが重要です。PDCAシート【図6】に、単元の目標や児童一人一人の1単位時間の目標、学習内容、手立て・支援、評価、手立て・支援の改善案を記入することで、どのような手立てが有効なのか、何がどこまでできるようになっているのか、現在の手立てや支援方法は有効なのかを教師間で共通理解しながら、単元を展開することができます。

項目1 単元全体に関わる内容		単元・題材名		授業者	
目指す主体的な姿					
単元の目標	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等		
振り返り・改善点					

項目2 対象児童生徒の実態に関わる内容		年	名前
本単元に関連する教科及び各教科等の主な様子			

項目3 対象児童生徒の指導に関わる内容		目指す主体的な姿			
単元の目標	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等		
小単元名	目 標 ※ 〈 〉 は関連する教科	学習内容	手立て・支援 ○：適切、▲：改善が必要	評価	手立て・支援の改善案

項目4 対象児童生徒の評価に関わる内容		知識・技能		思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度

項目5 対象児童生徒の達成状況の振り返り（各教科等別）に関わる内容					
-----------------------------------	--	--	--	--	--

【図6】PDCAシート

5 知的障がい特別支援学校の教育課程例

特別支援学校は、学習指導要領において弾力的な教育課程の編成ができることが示されており、特に知的障がい特別支援学校では、児童生徒の実態等に応じて指導内容を具体化することができますようになってきています。知的障がい特別支援学校小学部において、「各教科等を合わせた指導」を中心に行う教育課程、「各教科等を合わせた指導」に加えて自立活動を時間割に位置付けて行う教育課程、自立活動を中心に行う教育課程の三つの例を挙げて説明します。

(1) 「各教科等を合わせた指導」を中心に行う教育課程

知的障がい者に対する教育を行う特別支援学校の「各教科等を合わせた指導」を中心に行う教育課程です。自立活動と特別の教科 道徳については教育活動全体の中で行い、「各教科等を合わせた指導」については、児童の実態に合わせて「日常生活の指導」、「遊びの指導」、「生活単元学習」を取り入れています。小学部1年、3年、5年の週授業時数の例【表1】を示します。

【表1】週授業時数の例

	各教科等を合わせた指導			教科別の指導				特別の教科 道徳	特別活動	自立活動	合計
	日常生活の指導	遊びの指導	生活単元学習	国語・算数	図画工作	音楽	体育				
小学部1年	10	2	3	5	1	2	2	教育活動 全体の中で 行う	1	教育活動	26
小学部3年	11		6	5	1	2	2		1	全体の中で	28
小学部5年	11		7	5	1	2	2		1	行う	29

(2) 「各教科等を合わせた指導」＋自立活動を時間割に位置付けて行う教育課程

知的障がい者に対する教育を行う特別支援学校の各教科等に加え、自立活動を時間割に位置付けた教育課程です。知的障がいのある児童生徒は、全般的な知的発達や適応行動の状態に比較して、言語、運動、動作、情緒等の特定の分野に、顕著な発達の遅れや特に配慮を必要とする様々な状態が知的障がいに随伴して見られます。このような状態等に応じて、各教科の指導などの他に、自立活動の内容の指導を行うことが必要です。このため、児童の実態等に応じて、自立活動の時間を適切に設定し、個人あるいは小集団で指導を行うなど、効果的に指導を進めることが重要です。特別の教科 道徳については、教育活動全体の中で行い、「各教科等を合わせた指導」については、児童の実態に合わせて「日常生活の指導」、「遊びの指導」、「生活単元学習」を取り入れています。小学部1年、3年、5年の週授業時数の例【表2】を示します。

【表2】週授業時数の例

	各教科等を合わせた指導			教科別の指導				特別の教科 道徳	特別活動	自立活動	合計
	日常生活の指導	遊びの指導	生活単元学習	国語・算数	図画工作	音楽	体育				
小学部1年	5	2	3	5	1	2	2	教育活動 全体の中で 行う	1	5	26
小学部3年	6		6	5	1	2	2		1	5	28
小学部5年	6		7	5	1	2	2		1	5	29

(3) 自立活動を主として行う教育課程

「自立活動」に関して、重複障害者のうち、障害の状態により特に必要がある場合において以下のように述べられています。

重複障害者のうち、障害の状態により特に必要がある場合には、各教科、道徳科、外国語活動、若しくは特別活動の目標及び内容に関する事項の一部又は各教科、外国語活動若しくは総合的な学習の時間に替えて、自立活動を主として指導を行うことができるものとする。

特別支援学校小学部・中学部学習指導要領(2017)(第1章第8節の4)

児童の実態や障がいの状態等に応じて、自立活動の時間を適切に設定し、個人あるいは小集団で指導を行うなど、効果的に指導を進めることが重要です。特別の教科 道徳については、教育活動全体の中で行い、児童の実態に合わせて教科別の指導については「音楽」を、「各教科等を合わせた指導」については、「日常生活の指導」を取り入れています。小学部1年、3年、5年の週授業時数の例【表3】を示します。

【表3】週授業時数の例

	各教科等を合わせた指導			教科別の指導				特別の教科道徳	特別活動	自立活動	合計
	日常生活の指導	遊びの指導	生活単元学習	国語・算数	図画工作	音楽	体育				
小学部1年	5	/	/	/	/	2	/	教育活動全体の中で行う	1	18	26
小学部3年	5	/	/	/	/	2	/		1	20	28
小学部5年	5	/	/	/	/	2	/		1	21	29

ここがポイント

自立活動の内容は、「人間としての基本的な行動を遂行するために必要な要素と、障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服するために必要な要素を検討して、その中の代表的なものを項目として六つの区分の下に分類・整理したもの」(「特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編 2018」)とされています。ここでいう六つの区分とは、**1 健康の保持**、**2 心理的な安定**、**3 人間関係の形成**、**4 環境の把握**、**5 身体の動き**、**6 コミュニケーション**を示しています。

自立活動の指導は、学校の教育活動全体を通じて行うものであることから、特設された自立活動の時間はもちろん、各教科、道徳科、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動の指導を通じて適切に行う必要があります。特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編(2018)第6章では、自立活動の内容について解説されており、具体的な指導内容の例と留意点等が記されています。自立活動を指導する際には、必ず目を通しておきましょう。



1 「各教科等を合わせた指導」の授業づくりについて

「各教科等を合わせた指導」の授業づくりについて、下図7のPDCAシートの記入の仕方と併せて解説していきます。(※P16より手順を記載しています。PDCAシートについては、関連する項目を「PDCAシート」で示し、関連する手順の番号を下図に記載しています。)

1 全体について					
①, ⑦		単元・題材名		授業者	
目指す主体的な姿					
単元の目標	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等		
振り返り・改善点					
2 対象児童・生徒について					
②		年	名前		
本単元に関連する教科及び各教科等の主な様子					
目指す主体的な姿					
②, ③, ④, ⑤, ⑥		思考力、判断力、表現力等		学びに向かう力、人間性等	
小単元名	目標 ※ () は関連する教科	学習内容	手立て・支援 ○：適切、▲：改善が必要	評価	手立て・支援の改善案
4 対象児童・生徒に対する単元の目標は達成できたか。					
⑦		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
5 単元・題材学習後の対象児童・生徒の姿（単元を通して対象児童・生徒にどんな力が身に付いたか）					
⑦					

【図7】PDCAシート

2 「各教科等を合わせた指導」の授業づくりの手順及び留意点

ここでは、「各教科等を合わせた指導」の中から、生活単元学習における授業づくりについて、解説します。

児童の実際の生活から発展した単元を構想する

- ・「各教科等を合わせた指導」は、各教科等の内容を学ぶための指導の形態の一つです。このため、学習指導要領において目標や内容は定められていません。
- ・学校生活や家庭生活、社会生活に直接結び付くような学習を設定することが重要です。
- ・単元は、児童生徒の知的障がいの状態や生活年齢等及び興味や関心を踏まえたものであり、個人差の大きい集団にも適合するものであることが必要です。

上記の点を踏まえ、生活単元学習における単元を構想する際のポイントとなる点を示します。併せて単元例も示していますので、参考にしてください。

単元を構想する際のポイント

(1) 児童生徒だけでなく、教師自身も本気で取り組めるテーマになっていますか？

生活単元学習において、重要なのは「単元のテーマ」であり、「単元名」です。児童生徒の興味関心を踏まえ、子ども達が本気で取り組めるものになっているかどうかに加え、一緒に活動する教師も含めて、「やってみたい！取り組んでみたい！」と思えるテーマになっているか検討する必要があります。

(2) 活動する全員が楽しめる活動になっていますか？

単元を構想する際には、学校生活や家庭生活、社会生活に直接結び付くような学習であることが大切です。授業で一緒に活動する児童生徒や教師全員が楽しめる活動であるかどうかを検討する必要があります。児童生徒の様子を思い浮かべながら、子どもたちと一緒に取り組んでみたい！と思える活動であることが重要です。

授業づくりの際は、(1)と(2)について、確認してみましょう。

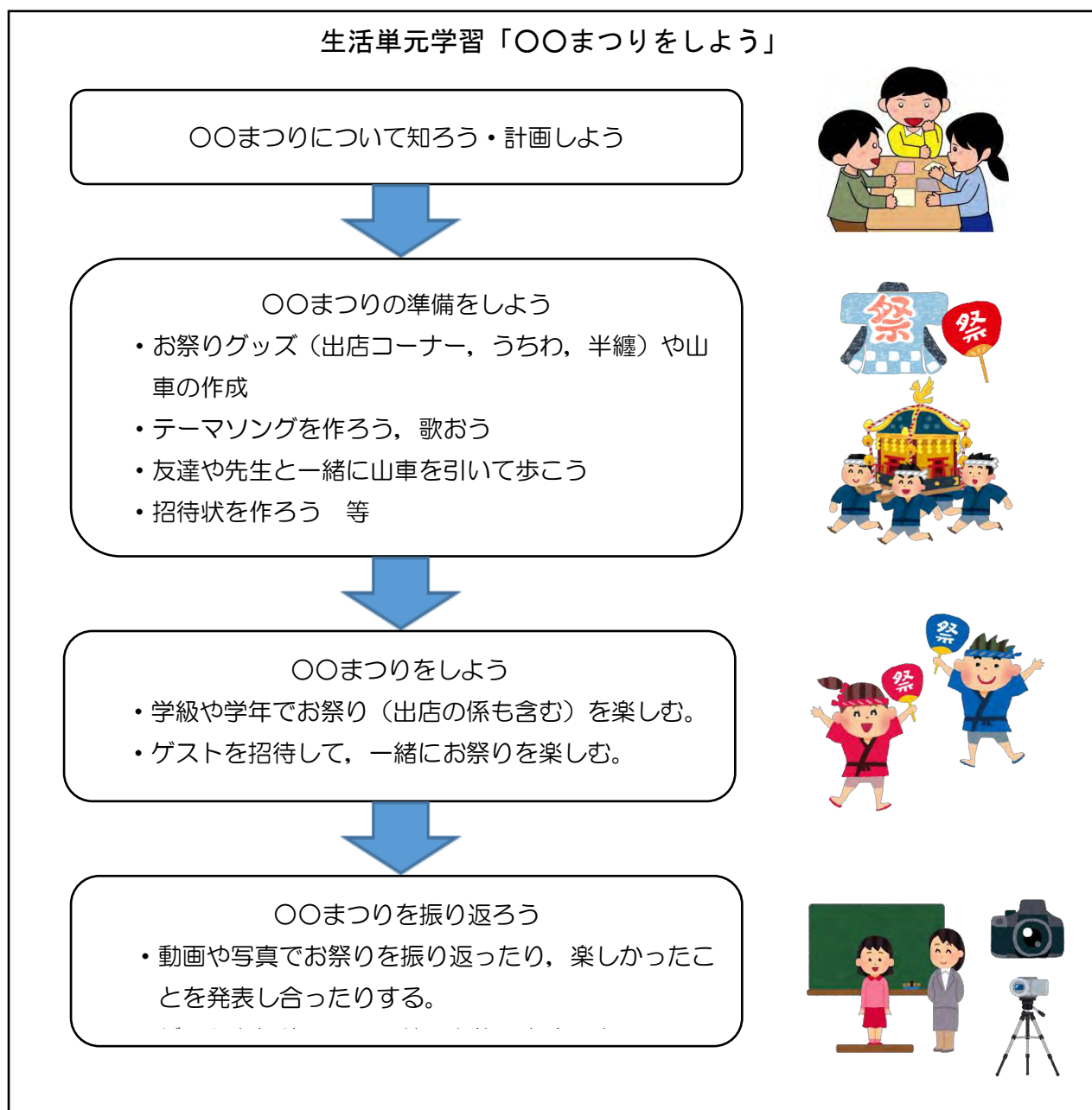
(3) 目標や日程、活動内容等、単元計画の具体化

単元について(1)及び(2)でテーマが決定したら、児童生徒にどんなことをねらっていくか、日程はどのようにするか、主となる活動や児童生徒一人一人の活動内容をどう設定するか等、構想した内容を具体化します。ここで具体化したものを、授業者間で検討します。その際に、全員が満足感や達成感を味わうことができる単元になっているかを検討することが大切です。

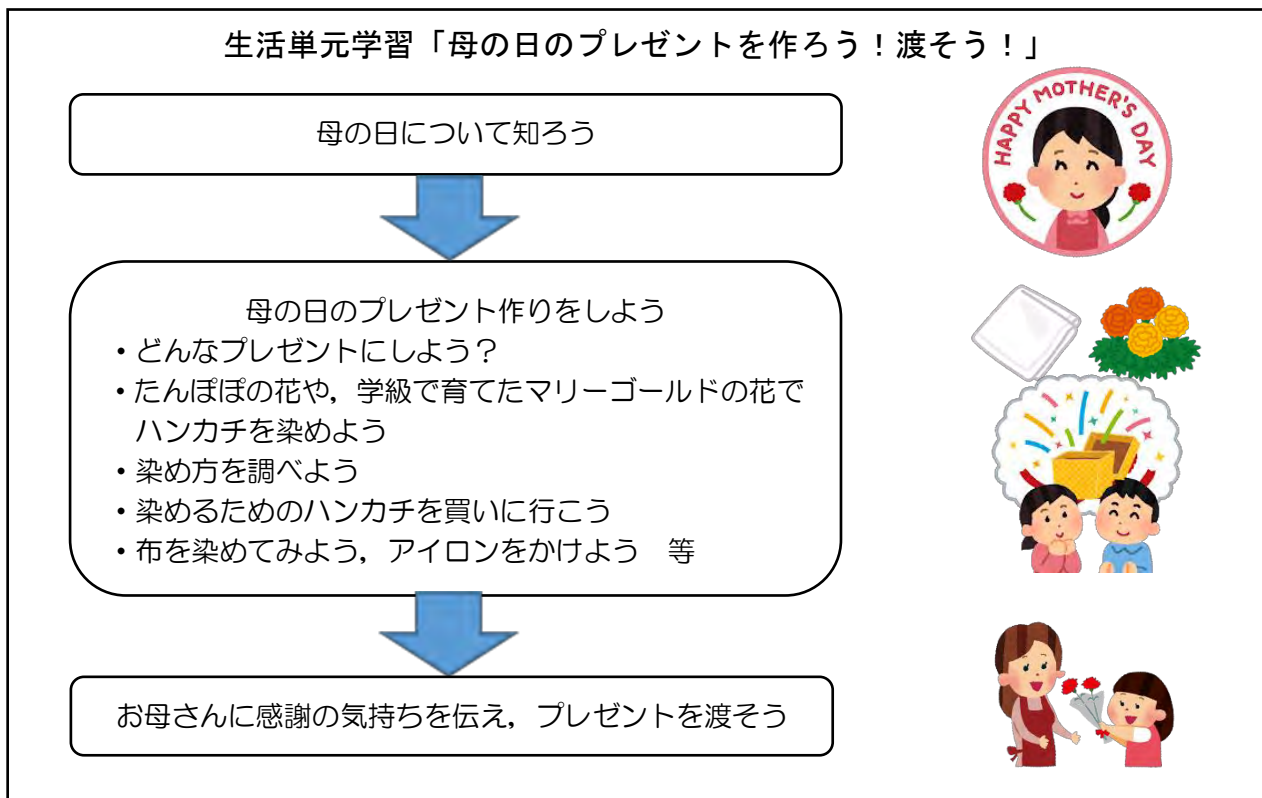
生活単元学習の単元の例

生活単元学習の単元は、実際の生活から発展したものであることから、様々な単元が考えられます。ここでは、一例として遊びを中心に据えた単元、ものづくりを活動の中心に据えた単元、運動会や宿泊学習など行事を単元化したものの中から三つの例を挙げ、大きな流れについて記載しています。単元構想の際の参考にしてください。

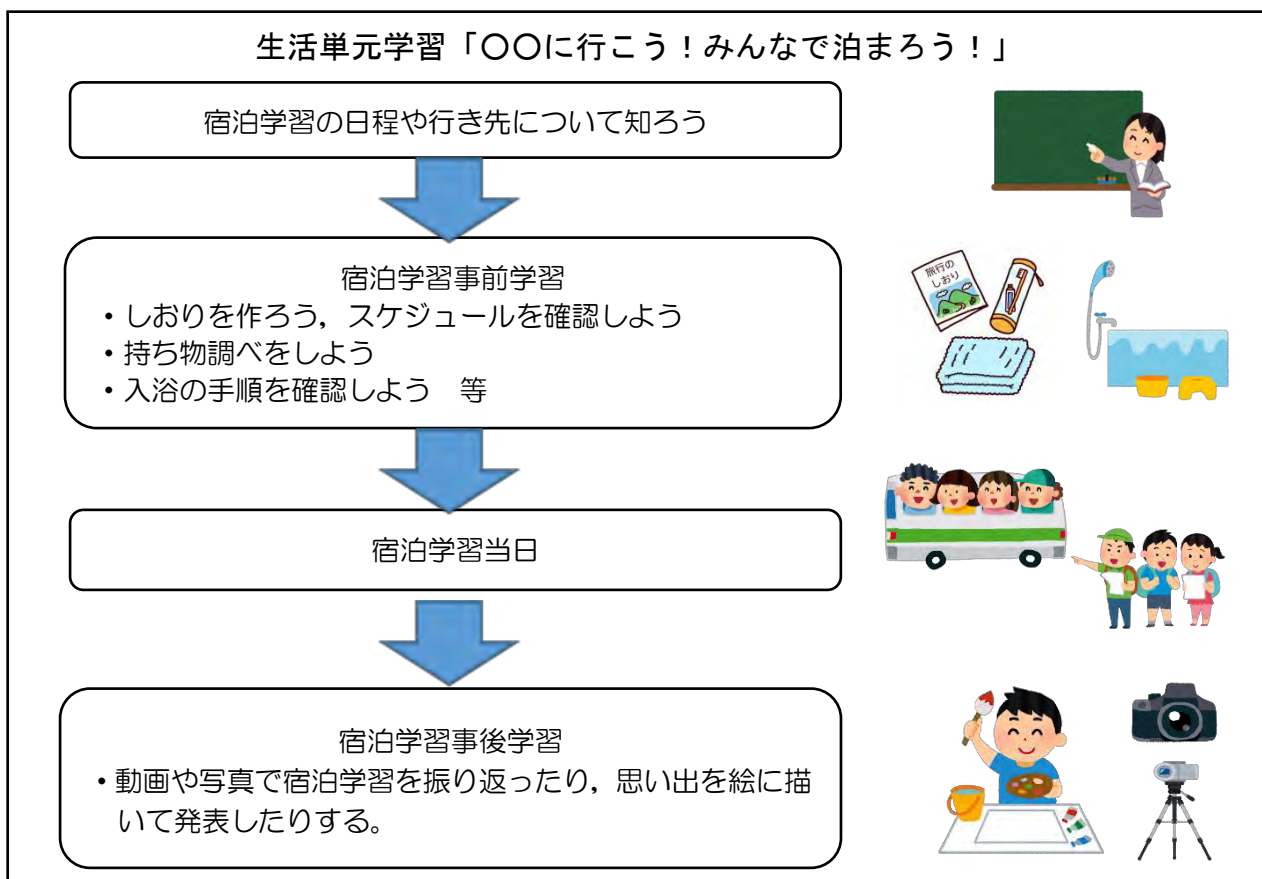
<遊びをテーマにした単元>



<ものづくりをテーマにした単元>



<行事をテーマにした単元>



下記に記載した手順に沿って、授業づくりを進めていきます。P12に示したPDCAシートに関連する項目をPDCAシートで示しています。

① 単元・題材名及び単元の目標を設定する (18 ページ)

- ・単元題材名を設定します。単元名は生活のテーマであり、児童が単元の目標や大まかな学習の内容を端的に把握する役割を担っていることを意識して設定する必要があります。
- ・単元で行う活動によって、生活に則した形での目標や課題が達成できるような目標を設定します。

PDCAシート 1 全体について

② 児童の実態把握をし、単元における個人の目標を設定する (19 ページ)

- ・単元に関わる児童の実態を把握するため、これまでの学習の様子を振り返って確認します。どのような学習活動に興味関心があるのか、苦手な活動はどのようなものなのか等、授業を行う職員間で共通理解しておく必要があります。

PDCAシート 2 対象児童生徒について

3 単元・題材の指導計画と主たる学び

③ 単元の目標に基づいた指導計画を設定する (20 ページ)

- ・中心になる活動を繰り返す計画にすることで、活動を積み重ねることが可能になり、児童が見通しを持って活動することにつながります。

PDCAシート 3 単元・題材の指導計画と主たる学び

④ 単元の計画を推進するための展開案を検討する (21 ページ)

- ・児童一人一人が存分に活動できるような学習内容を盛り込みます。
- ・T1が授業の大きな流れや活動内容の共通理解を図るための学習指導案を作成します。

PDCAシート 3 単元・題材の指導計画と主たる学び

⑤ 学習活動への手立て・支援を検討する (23 ページ)

- ・教材教具や場の設定，教師の支援方法など，児童の実態や予想される行動から，どのような手立てや支援方法で授業を展開していくかを職員間で検討し，共有することが大切です。

PDCAシート 3 単元・題材の指導計画と主たる学び

⑥ 評価・改善をしながら単元を進める (24 ページ)

- ・児童の学習の様子や手立て等の評価，改善等を職員間で共有し，PDCAサイクルを回して授業を行うことが大切です。

PDCAシート 3 単元・題材の指導計画と主たる学び

⑦ 単元全体を通しての評価を行い，次の単元につなげる (25 ページ)

- ・単元終了後に，児童の学習の様子等から変容を見取り，記録しておくことで，次の単元につなげやすくなる。
- ・単元を振り返り，「各教科等を合わせた指導」において，どのような教科としての力が身に付いたかを振り返り，教科別の指導との関連を図る。

PDCAシート 1 全体について， 4 単元・題材の指導計画と主たる学び，
5 単元・題材学習後の対象児童・生徒の姿

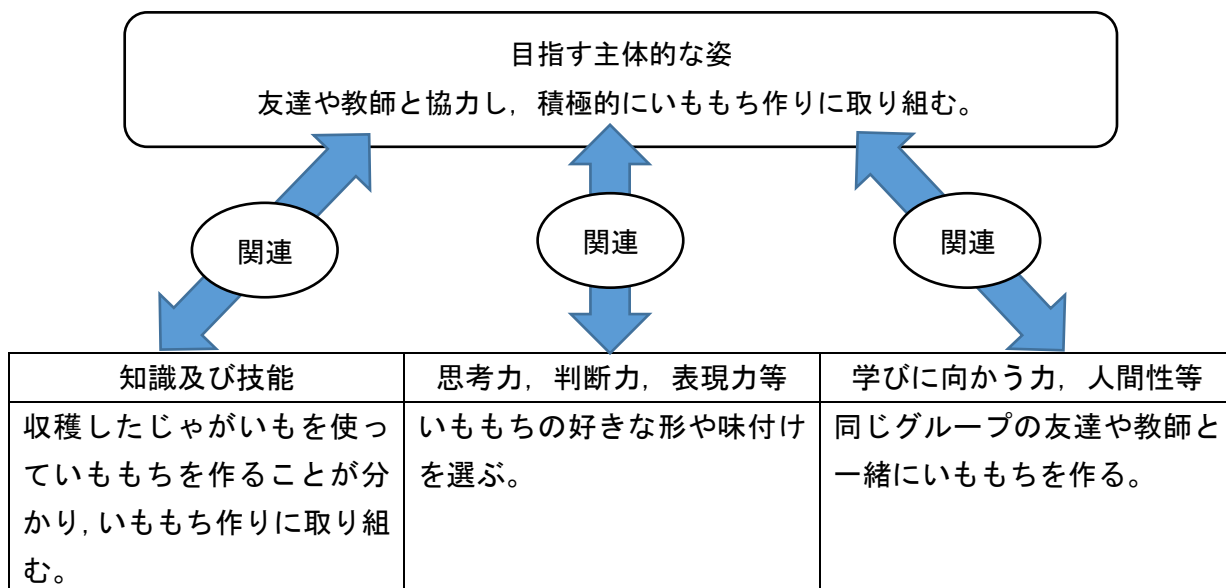
① 単元・題材名及び単元の目標を設定する

単元の構想がまとまったら、単元・題材名を設定し、次に単元の目標を設定します。単元において、児童にどんな主体的な姿をねらうか、どんな主体的な姿を目指していくかという視点で目標を検討します。PDCAシートでは、「1 全体について」の部分にあたります。

1 全体について			
学部	学年	単元・題材名	授業者
小学部		友達や先生と一緒にいももちを作って食べよう	
目指す主体的な姿			
友達や教師と協力し、積極的にいももち作りに取り組む。			
単元の目標	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
	収穫したじゃがいもを使っていももちを作ることが分かり、いももち作りに取り組む。	いももちの好きな形や味付けを選ぶ。	同じグループの友達や教師と一緒にいももちを作る。

ここでは、生活単元学習の例として「友達や先生と一緒にいももちを作って食べよう」という単元を挙げて説明します。この単元は、学校の畑に野菜の苗を植え、水やりや草取り、育てた野菜の収穫等、畑に関する学習活動を通して、児童に収穫後の活動への期待感がみられること、児童全員が食べることへの興味関心が高いという実態から、収穫したじゃがいもを使用した調理活動を行う単元を構想しました。

この単元では、児童の実態等から、集団として「目指す主体的な姿」として、「友達や教師と協力し、積極的にいももち作りに取り組む」という姿を大きな目標としています。この姿を目指して、資質・能力の三つの柱に沿って単元の目標を設定することになります。つまり、単元で目指す主体的な姿と資質・能力の三つの柱に沿った目標はそれぞれ関連しており、「目指す主体的な姿」を3つの側面から捉えた目標となります。



② 児童の実態把握をし、単元における個人の目標を設定する

児童の実態把握として、これまでの学習の様子や児童の興味関心、得意なことや苦手なこと等を振り返ります。PDCAシートでは、「2 対象児童・生徒について」の部分にあたります。

「単元に関わる児童生徒の実態」、「本単元に関連する教科及び各教科等の主な様子」に、単元を構想した際に関連が予想される教科としての実態をまとめておくことで、手立てや支援を検討する際の目安になります。

2 対象児童・生徒について		年	名前
単元に関わる児童生徒の実態	・食べ物に対する興味関心が高い。 ・教師の手本を真似して混ぜることや潰すことを一人で取り組むことができる。		
本単元に関連する教科及び各教科等の主な様子			
音楽	リズムの特徴を感じ取り、曲に合わせて身体を動かすことができる。		
自立活動	自分の気持ちを身ぶり手ぶりを使いながら、言葉で相手に伝えることができる。		

「2 対象児童・生徒について」を記入し、児童の実態を把握してから、個人の目標を設定します。PDCAシートでは、「3 単元・題材の指導計画と主たる学び」の部分にあたります。単元における児童一人一人の「目指す主体的な姿」に沿った形で、単元の目標を設定します。

下記の【図8】は、食べ物に対する興味関心が高いことや、教師の様子を見たり、声かけを受けながら、混ぜたりつぶしたりすることができるという児童の実態から目標を設定した例です。学級の友達や教師と一緒に調理活動に楽しく取り組んでほしいという願いから、単元における「目指す主体的な姿」を「友達や教師と楽しみながら、積極的にいももちを作ることができる」とし、この目指す姿と関連づけながら、「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の資質・能力の三つの柱に沿った目標を設定しました。

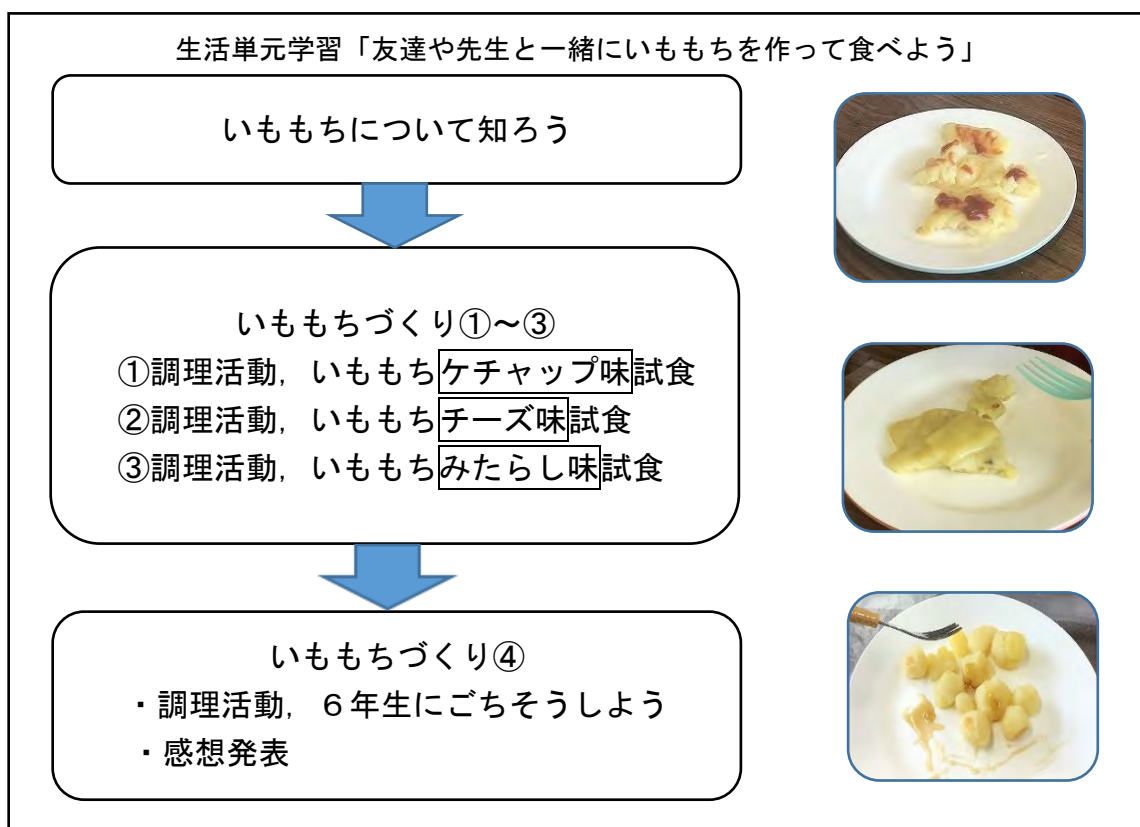
3 単元・題材の指導計画と主たる学び			
	目指す主体的な姿		
	友達や教師と楽しみながら、積極的にいももちを作ることができる。		
単元の目標	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
	じゃがいもを潰して、いももち作りに取り組む。	友達や教師と一緒にいももちを好きな形に成型したり、味付けを選ぶ。	同じグループの友達や教師と楽しみながら、いももち作りに取り組む。

【図8】PDCAシート 目標設定の例

③ 単元の目標に基づいた指導計画を設定する

指導計画を設定する際には、単元の目標に基づいているかどうかを確認して設定する必要があります。単元としてまとまりがあるかどうか、発展性のある計画になっているかどうかについてもここで検討します。PDCAシートでは、「3 単元・題材の指導計画と主たる学び」の部分にあたります。

「友達や先生と一緒にいももちを作って食べよう」という単元では、「友達や教師と協力し、積極的にいももち作りに取り組む」姿を目指すため、単元の指導計画として、導入部分では、畑のじゃがいもを収穫している様子を写真で振り返ったり、実際に教師と一緒に作ったり食べたりする活動を取り入れ、児童の「いももち」に対する興味関心につなげる活動を設定しました。また、グループに分かれて「いももち作り」という調理活動を中心的な活動に位置づけました。児童の好きな「食べる活動」を盛り込みながら、自分たちが収穫したじゃがいもを使用した調理活動を繰り返し、様々な味のいももちを作ることで、日々の期待感につなげるような計画としました。最終日に6年生にごちそうすることで、達成感や充実感を味わうことができるような指導計画を設定しています。



単元の指導計画が完成したら、PDCAシートの「小単元名」の部分に単元計画に沿って記入していきます。単元によっては、PDCAシートが1枚で収まる場合や、長期間での単元の場合はシートが複数枚にわたる場合も考えられます。単元に応じて活用してください。

④ 単元の計画を推進するための展開案を検討する

単元の計画を基に、設定した目標と学習内容を盛り込んだ形での展開案を検討します。PDCAシートにおいて、児童の単元における目標や、学習内容等が記入されることから、学習指導略案【図9】を作成し、授業の大きな流れや活動内容を職員間で共通理解を図ることが必要となります。

PDCAシートでは、「3 単元・題材の指導計画と主たる学び」の部分にあたります。

学習内容（時間）	学習活動	支援上の留意点	教具等
1 挨拶 (1)	○はじめの挨拶をする。	○T2, T3はT1に注目するよう気付きを促す。	
2 ジャがいも収穫の振り返り (6)	○収穫したジャがいもを見たり触れたりする。 ○スライドで水やりの様子や収穫時の写真を見る。	○T2, T3は画面に注目するよう気付きを促す。	・PC, TV ・ジャがいも
3 学習内容の確認 (3)	○いももちカレンダーで今日の学習内容を確認する。	○児童が学習内容を予想したり、期待感を持ったりするように、いももちと書かれている部分は上から紙を貼って隠しておく。 ○T2, T3はカレンダーに注目するよう気付きを促す。	・カレンダー ・色付の枠 ・ホワイトボード ・マグネット
4 いももちの作り方と自分の係を知る (10)	○T2がいももちを食べる様子を見る。 ○スライドでいももちの作り方や自分の係を確認する。	○T2に注目するよう気付きを促す。 ○T1は、2名ずつのグループで活動すること、自分の顔写真がどの工程に出てくるのかを注目してスライドを見るよう声を掛ける。	・いももち ・PC, TV
5 教師と一緒にいももちを作る (35)	○レシピをもとにT1～T3がいももちを作る様子を見たり、活動の一部を一緒に行ったりする。 ○ホットプレート以外の片付けを全員で協力して行う。	○自分のグループの工程の一部を、教師と一緒に体験的に行う。 ○こねたジャがいもを丸めて成形する際は、ビニール手袋を使用するよう声を掛ける。 ○休憩に入る前に、机と椅子を給食時の配置にするよう声を掛ける。	・エプロン, 三角巾 ・ジャがいも, 片栗粉, 塩, 油 ・耐熱ボウル, 包丁, まな板, マッシャー, ピーラー, フライ返し, 計量スプーン, 軍手, ビニール手袋, 型抜き

【図9】学習指導略案の例

まず初めに、T1が示す授業の大きな流れをもとにして、単元における1単位時間の目標を設定します。次に、生活単元学習としての目標を、教科の内容と関連があるのではないかという視点で捉えます。そして、学習内容については、「各教科の目標・各段階の目標・内容の一覧及び具体的な内容の例」を参考にして、教科の内容との関連をPDCAシートに記入します。

①は、目標と教科との関連部分です。「いももちに興味を持つ」という目標は、生活や音楽と関連があるという視点で捉え、目標に続けてカッコ書きで教科名を記入します。

②は、学習内容と教科の内容との関連部分です。「畑で収穫したじゃがいもの調理について、活動内容を知る」という学習内容を「各教科の目標・各段階の目標・内容の一覧及び具体的な内容の例」に照らし合わせていくと、「生活 ウ日課・予定1段階の1」の「教師と一緒に、日課に沿って行動し、学校生活に簡単な見通しをもつ」に関連していると考えられます。また、「自分のグループの工程の一部を教師と一緒に体験的に行う」という学習内容は、「生活 キ手伝い・仕事1段階の1」に、「いももちのテーマソングを歌う」という学習内容は、「音楽 A表現2段階の19」に関連していると考えられ、「各教科の目標・各段階の目標・内容の一覧及び具体的な内容の例」を参考にして、教科の内容との関連をシートに記入します。

目 標	学習内容
※ () は関連する教科	
○知識・技能 ・畑で収穫したじゃがいもを使っていももちを作ることや、自分の係分担が分かる。 (生活)	・畑で収穫したじゃがいもの調理について、活動内容を知る。(生活1段階,ウ1) ・自分のグループを知る。(生活1段階,ウ1)
○思考力・判断力・表現力等 ・いももちに興味をもつ。 (生活) (音楽)	・畑で収穫したじゃがいもの調理について、活動内容を知る。(生活1段階,ウ1) ・自分のグループの工程の一部を教師と一緒に体験的に行う。(生活1段階,キ1) ・いももちのテーマソングを歌う(音楽2段階19)

想定している学習内容が「具体的な内容の例」に記載されていない場合は、学習指導要領や「具体的な内容の例」に記載されている目標・内容の一覧を参考にして、学習内容を記入してください。



生活 ウ 日課・予定 (1段階)
1 教師と一緒に、日課に沿って行動し、学校生活に簡単な見通しをもつ。

生活 キ 手伝い・仕事 (1段階)
1 教師と一緒に、配布物を配ったり、教材等を運搬したりする。

音楽 A 表現 (2段階)
19 覚えやすい特徴のあるリズムの曲を聴き、繰り返し身体を動かすことで、リズムの特徴を身体で感じる。

⑤ 学習活動への手立て・支援を検討する

児童が学習内容を行うためにどのような手立てや支援を行うかを検討し、一貫した指導を行うために、授業者間で共通理解を図ることが必要です。

PDCAシートでは、「3 単元・題材の指導計画と主たる学び」の部分にあたります。目標や学習内容をシートに記入したら、児童の実態に応じ、学習活動を行うための手立てや支援方法を検討します。

「畑で収穫したじゃがいもの調理について、活動内容を知る」という活動に対する手立て・支援は、例に挙げている児童の実態として、視覚的な支援が有効であることから、「視覚的に理解できるように、スライドの写真などを見せる」としています。あわせて、児童の実態や、予想される行動等から、教師の支援方法や教材教具の検討を行います。

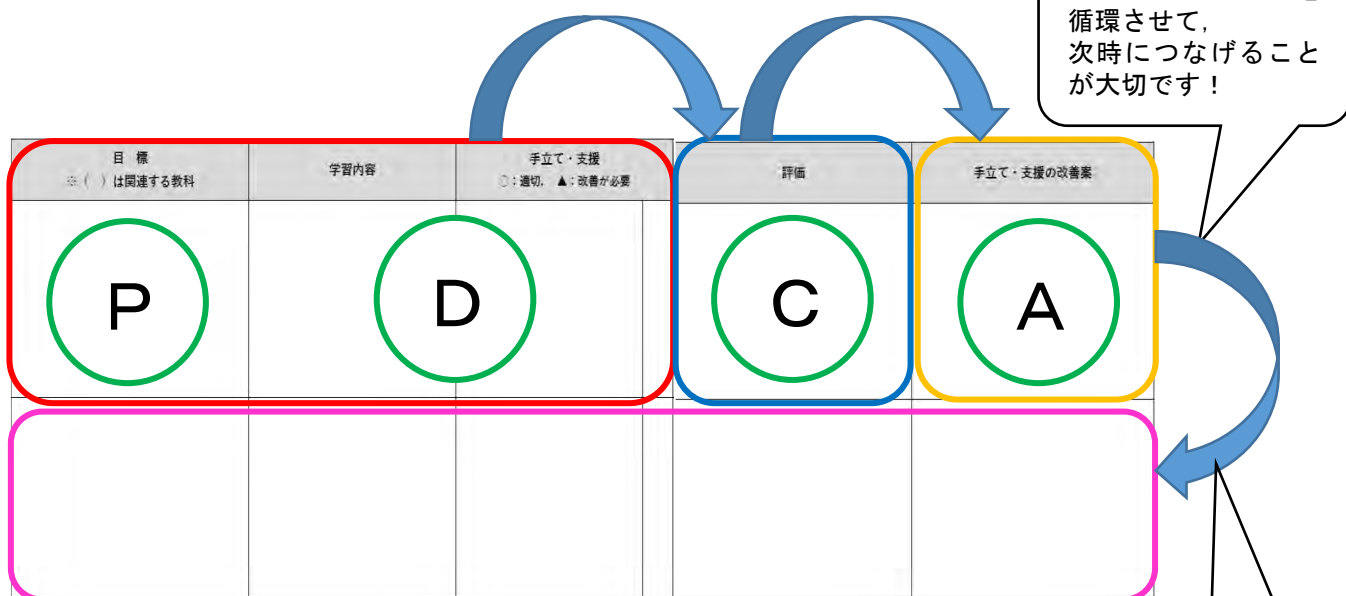
学習内容	手立て・支援 ○：適切， ▲：改善が必要
<ul style="list-style-type: none"> ・畑で収穫したじゃがいもの調理について、活動内容を知る。（生活1段階，ウ1） ・自分のグループを知る。（生活1段階，ウ1） 	<ul style="list-style-type: none"> ・視覚的に理解できるように、スライドの写真などを見せる。 ・実際に試食することや教師の言葉がけによって見通しを持たせる。
<ul style="list-style-type: none"> ・畑で収穫したじゃがいもの調理について、活動内容を知る。（生活1段階，ウ1） ・自分のグループの工程の一部を教師と一緒に体験的に行う。（生活1段階，キ1） ・いももちのテーマソングを歌う（音楽2段階19） ・自分のグループの工程の一部を教師と一緒に体験的に行う。（生活1段階，キ1） 	<ul style="list-style-type: none"> ・視覚的に理解できるように、スライドの写真などを見せる。 ・実際に試食することや教師の言葉がけによって見通しを持たせる。 ・教師がテーマソングを歌ったり動きの見本を示したりする。 ・グループの友達をや教師を意識できるように、グループ用レシピに顔写真を入れる。 ・教師が手本を見せ、その後一緒に活動することで取り組みのイメージを持たせる。慣れてきた場合は一人で取り組むように声掛けをする。

【図10】PDCAシート

⑥ 評価・改善をしながら単元を進める

授業に入る教員全員で、授業における共通の目標に基づいて各授業時ごとの評価を共有するというPDCAサイクルを回し、児童の手立てや支援の改善案を検討したり、目標や学習内容の見直しを図ったりしながら、授業の改善を行っていきます。

PDCAシートでは、「3 単元・題材の指導計画と主たる学び」の部分にあたります。1単位時間ごとに目標や学習内容の評価とあわせて、手立てや支援の評価をシートに記入します。評価や手立て・支援の変更点については、授業者間で確認し、共通理解して次時の授業を行うことが大切です。



下記のPDCAシート【図11】は、手立て・支援を授業後に評価し、改善を行った例です。じゃがいもを潰す際に、床や机上にじゃがいもが落ちてしまうため、「じゃがいもをラップに包んで潰す」という手立てを講じましたが、「潰しているうちにラップが緩んだ」という結果から、手立ての改善が必要であると記号による評価（▲）がなされています。これを受け、次時に向けて改善案を授業者間で検討し、「フリーザーバッグに入れて、じゃがいもを潰す」という手立てに変更されています。

「PDCAサイクルを循環させる＝学習内容や手立てだけでなく、教材教具も変化していく」ということです。修正する可能性を念頭に置いた教材づくりを！

手立て・支援 ○：適切、▲：改善が必要	手立て・支援の改善案
<ul style="list-style-type: none"> ・じゃがいもをこぼさず潰すために、ラップに包んでから潰すようにする。▲ ・教師が最初に手本を見せてから、いももち作りに取り組む。 ・教師もいももちを成形し、児童と一緒に食べる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・潰しているうちにラップがゆるみ、じゃがいもがこぼれてしまったので、フリーザーバッグに入れて潰す。

【図11】PDCAシート

⑦ 単元全体を通しての評価を行い、次の単元につなげる

単元を通して、児童の活動の様子から、単元の目標を三つの観点で記述式で評価をします。PDCAシートでは、「4 対象児童・生徒に対する単元の目標は達成できたか」の部分にあたります。これまでPDCAシートに記入してきた1単位時間ごとの評価を参考にしたり、授業者間で評価を共有し合うことが大切です。

4 対象児童・生徒に対する単元の目標は達成できたか。		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
自分からいももちを潰していた。	自分で考えていももちを好きな形に成型していた。複数ある味付けの中からチーズとケチャップを選んでいった。	自分から「焼きたい」と言い、友達や教師のいももちをひっくり返した。グループ発表やいももちを食べた後に自分から教師にハイタッチをしていた。潰すことや成型することを一人で取り組み、自分から進んでいももち作りに取り組んでいた。

評価の記入が終わったら、「各教科等を合わせた指導」の単元を通して、児童にどんな力が身に付いたかを振り返ることが大切です。「各教科等を合わせた指導」に関連する教科として、こんな力が身に付いたということ、「各教科の目標・各段階の目標・内容の一覧及び具体的な内容の例」を参考に、児童の活動の様子を各教科に置き換えて、PDCAシートの「5 単元・題材学習後の対象児童・生徒の姿」に記入します。このことにより、「各教科等を合わせた指導」の単元に、どのような教科が含まれていたかということを確認することができます。

5 単元・題材学習後の対象児童・生徒の姿（単元を通して対象児童・生徒にどんな力が身に付いたか）	
生活	1段階ウ1 ・実物のじゃがいもやスライドの写真を見て、「じゃがいも」「いももち」と言っていた。 ・振り返りのときに「潰す・レンジグループの人?」という教師の問いかけに手を挙げていた。
	1段階カ2 ・教師が手本を見せた後、一人でマッシャーでじゃがいもを潰すことができた。そのあとに、手で細かくこねることができた。 ・教師が、5秒数えたあとにじゃがいもを潰し終えることができた。流れを理解して一人でじゃがいもを潰すことができた。 ・教師の手本がなくても、流れを理解して一人でじゃがいもを潰すことができた。 ・流れを理解して一人でじゃがいもを潰すことができた。
	1段階キ1 ・自分から「いもを潰したい」と教師に伝えて、じゃがいもを潰すことに意欲的に取り組んでいた。
	2段階カ5 ・友達で潰している姿を見て「俺も」と言い、前時よりもたくさんじゃがいもを潰していた。 ・ケチャップ味のいももちを食べ、友達、教師に「おいしい」と言っていた。 ・チーズ味のいももちを食べ、教師に「おいしい」と伝えていた。 ・教師が成型したいももちを指差して、「〇〇先生の」と伝えていた。教師のいももちをひっくり返したいと話しており、楽しそうに取り組んでいた。 ・教師が成型したいももちを指差して「おー」と言っていた。教師と一緒にじゃがいもを潰すことで、自分が潰したじゃがいも友達や教師に見せていた。
音楽	2段階A表現19 ・テーマソングでは、「いももち」と声に出しながら手話をしていた。
国語	2段階思考表現 聞く話すエ ○「潰したい」や「焼きたい」と自分の気持ちを言葉で教師に意思表示していた。教師の見本を見て、「いももち」と身ぶり手ぶりで表していた。
自立活動	コミュニケーション ○「潰したい」や「焼きたい」と自分の気持ちを言葉で教師に意思表示していた。教師の見本を見て、「いももち」と身ぶり手ぶりで表していた。 ○成型したじゃがいもを「ぼろぼろ」と教師に伝えた。
図工	2段階A3,4 ○じゃがいもを潰したあと、フォークで好きな形に成型していた。 ○じゃがいもを潰したあとに、フォークで刺し、好きな形に成型していた。

「・」は、単元に含まれることを予想していた教科や児童の様子について、
「○」は、単元を通して、児童の主体的な活動から、教師の予想を超えて見られた児童の姿や教科について記述しています。

第3章 授業づくりガイド

最後に、行った単元全体を振り返り、良かった点や改善が必要であった点等を、PDCAシートの「1 全体について」の「振り返り・改善点」に記入し、まとめます。単元ごとにまとめておくことで、次の単元につなげやすくなり、単元を発展させる際の参考にすることができます。

1 全体について			
学部	学年	単元・題材名	授業者
小学部		友達や先生と一緒にいももちを作って食べよう	
目指す主体的な姿			
友達や教師と協力し、積極的にいももち作りに取り組む。			
単元の目標	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
	収穫したじゃがいもを使っていももちを作ることが分かり、いももち作りに取り組む。	いももちの好きな形や味付けを選ぶ。	同じグループの友達や教師と一緒にいももちを作る。
振り返り・改善点	自分の活動内容が分かり、どの児童も意欲的に取り組むことができた。「いももちを作る」という活動を通して、友達を意識したり、自然な形で子供たちのやり取りが見られるようになってきている。また、当初は型を抜いていももちを作る予定だったが、時間的なことや児童の主体性を引き出すという点を重視し、今回は丸めたりつぶしたりしながら児童の好きな形に成型することとした。活動に慣れ、いももちをスムーズに作る事が可能であれば、実態に合わせて型抜きを使用することを検討したい。		



※「友達や先生と一緒にいももちを作って食べよう」という単元において、児童が意欲的に取り組むことができていたこと、6年生にいももちをごちそうしたという経験等から、単元を発展させた形で、「ゲストを招待して、いももちをごちそうしよう」という単元の設定も可能です。おいしいいももちを作って、多くの人に食べてほしいという児童の思いが、より主体的な活動につながっていきます。

ここがポイント 

生活単元学習の単元は、児童生徒の学習活動が生活的な目標や課題に沿って組織されることが大切です。生活単元学習の指導における留意点として、以下の6点が挙げられています。生活単元学習の単元を構想する際は、下記の点に留意しながら、単元を構想する必要があります。

- ①単元は、実際の生活から発展し、児童生徒の知的障害の状態や生活年齢等及び興味や関心を踏まえたものであり、個人差の大きい集団にも適合するものであること。
- ②単元は、必要な知識や技能の習得とともに、思考力、判断力、表現力等や学びに向かう力、人間性等の育成を図るものであり、生活上の望ましい態度や習慣が形成され、身に付けた指導内容が現在や将来の生活に生かされるようにすること。
- ③単元は、児童生徒が指導目標への意識や期待を持ち、見通しをもって、単元の活動に意欲的に取り組むものであり、目標意識や課題意識、課題の解決への意欲等を育む活動をも含んだものであること。
- ④単元は、一人一人の児童生徒が力を発揮し、主体的に取り組むとともに、学習活動の中で様々な役割を担い、集団全体で単元の活動に協働して取り組めるものであること。
- ⑤単元は、各単元における児童生徒の指導目標を達成するための課題の解決に必要なかつ十分な活動で組織され、その一連の単元の活動は、児童生徒の自然な生活としてのまとまりのあるものであること。
- ⑥単元は、各教科等に係る見方・考え方を生かしたり、働かせたりすることのできる内容を含む活動で組織され、児童生徒がいろいろな単元を通して、多種多様な意義のある経験ができるよう計画されていること。

特別支援学校小学部・中学部学習指導要領（2017）解説より

参 考 資 料

資料1 PDCAシート様式

資料2 PDCAシート記入例①, ②

資料3 各教科の目標・各段階の目標・内容の一覧および具体的な内容の例(小学部)
引用・参考文献等



資料1 PDCA シート様式

1 全体について					
学部	学年	単元・題材名		授業者	
目指す主体的な姿					
単元の目標	知識及び技能		思考力、判断力、表現力等		学びに向かう力、人間性等
振り返り・改善点					
2 対象児童・生徒について				年	名前
単元に関わる児童生徒の実態					
本単元に関連する教科及び各教科等の主な様子					
3 単元・題材の指導計画と主たる学び					
目指す主体的な姿					
単元の目標	知識及び技能		思考力、判断力、表現力等		学びに向かう力、人間性等
小単元名	目標 ※ () は関連する教科	学習内容	手立て・支援 ○：適切、▲：改善が必要	評価	手立て・支援の改善案

4 対象児童・生徒に対する単元の目標は達成できたか。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度

5 単元・題材学習後の対象児童・生徒の姿（単元を通して対象児童・生徒にどんな力が身に付いたか）

--

資料2 PDCA シート記入例①

1 全体について			
字 部	学 年	単元・題材名	授業者
小学部		友達や先生と一緒にいもちを作って食べよう	
目指す主体的な姿			
友達や教師と楽しみながら、積極的にいもち作りに取り組む。			
単元の目標	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
	収穫したじゃがいもを使っていもちを作ることが分かり、いもち作りに取り組む。	いもちの好きな形や味付けを選ぶ。	同じグループの友達や教師と一緒にいもちを作る。
振り返り・改善点	自分の活動内容が分かり、どの児童も意欲的に取り組むことができた。「いもちを作る」という活動を通して、友達を意識したり、自然な形で子供たちのやり取りが見られるようになってきている。また、当初は型を抜いていもちを作る予定だったが、時間的なことや児童の主体性を引き出すという点を重視し、今回は丸めたりつぶしたりしながら児童の好きな形に成形することとした。活動に慣れ、いもちをスムーズに作る事が可能であれば、実態に合わせて型抜きを使用することを検討したい。		

2 対象児童・生徒について			
	年	名 前	
単元に関わる児童生徒の実態	<ul style="list-style-type: none"> ・食べ物に対する興味関心が高い。 ・教師の手本を真似して混ぜることや潰すことを一人で取り組むことができる。 		
本単元に関連する教科及び各教科等の主な様子			
音楽	リズムの特徴を感じ取り、曲に合わせて身体を動かすことができる。		
自立活動	自分の気持ちを身ぶり手ぶりを使いながら、言葉で相手に伝えることができる。		

3 単元・題材の指導計画と主たる学び			
目指す主体的な姿			
友達や教師と楽しみながら、積極的にいもち作りに取り組む。			
単元の目標	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
	じゃがいもを潰して、いもち作りに取り組む。	友達や教師と一緒にいもちを好きな形に成型したり、味付けを選ぶ。	同じグループの友達や教師と楽しみながら、いもち作りに取り組む。

小単元名	目 標 ※ () は関連する教科	学習内容	手立て・支援 ○：適切、▲：改善が必要	評価	手立て・支援の改善案
いもちを知ろう (9/12 3・4校時)	<ul style="list-style-type: none"> ○知識・技能 <ul style="list-style-type: none"> ・畑で収穫したじゃがいもを使っていもちを作ることや、自分の係分が分かる。(生活) ○思考力、判断力、表現力等 <ul style="list-style-type: none"> ・いもちに興味をもつ。(生活) (音楽) ○学びに向かう力、人間性等 <ul style="list-style-type: none"> ・教師と一緒にいもち作りを楽しむ。(生活) 	<ul style="list-style-type: none"> ・畑で収穫したじゃがいもの調理について、活動内容を知る。(生活1段階、ウ1) ・自分のグループを知る。(生活1段階、ウ1) ・畑で収穫したじゃがいもの調理について、活動内容を知る。(生活1段階、ウ1) ・自分のグループの工程の一部を教師と一緒に体験的に行う。(生活1段階、キ1) ・いもちのテーマソングを歌う(音楽2段階19) ・自分のグループの工程の一部を教師と一緒に体験的に行う。(生活1段階、キ1) 	<ul style="list-style-type: none"> ・視覚的に理解できるように、スライドの写 真などを見せる。 ・実際に試食することや教師の言葉がけによって見通しを持たせる。 ・視覚的に理解できるように、スライドの写 真などを見せる。 ・実際に試食することや教師の言葉がけによって見通しを持たせる。 ・教師がテーマソングを歌ったり動きの見本を示したりする。 ・グループの友達や教師を意識できるようグループ用レシビに顔写真を入れる。 ・教師が手本を見せ、その後一緒に活動することで取り組みのイメージを持たせる。慣れてきた場合は一人で取り組むように声掛けをする。 ・いもち作りの活動中や終了後に、たくさん称賛する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○・実物のじゃがいもやスライドの写真を見て、「じゃがいも」「いもち」と言っていた。 ○・振り返りのときに「潰す・レンジグループの人？」という教師の問いかけに手を挙げていた。 ○・テーマソングでは、「いもち」と声に出しながら手話をしていた。 ○・いもちを食べた感想発表をしたときにもう少しおいしく作りたかったと発表していた。 ○・グループのメンバーを発表されたとき、同じグループの教師にハイタッチを求めてきた。 ○・マッシャーで潰す活動のみでは、潰すことが難しく飽きてしまった。 ▲・待ち時間があ、集中力が切れてしまった。 ○・自分から「いもちを潰したい」と教師に伝えて、じゃがいもを潰すことに意欲的に取り組んでいった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・マッシャーで潰す活動だけだと、潰すことが難しく飽きてしまった。マッシャーで軽く潰したあとに手でじゃがいもをこねるようにする。 ・待ち時間があ、集中力が切れてしまったため、じゃがいもを潰す回数を増やす。

<p>いももちを作ろう① (9/13 3・4校 時)</p>	<p>○知識・技能 ・じゃがいもを潰し、いももちを作る。(生活)</p> <p>○思考力、判断力、表現力等 ・好きな形にいももちを成型する。(生活)</p> <p>○学びに向かう力、人間性等 ・友達や教師と楽しみながら、できるだけ一人でいももち作りに取り組む。(生活)</p>	<p>・じゃがいもを潰す。(生活1段階、カ2)</p> <p>・潰したじゃがいもを好きな形にする。</p> <p>・グループ用レシピをもとに、いももちを友達や教師と一緒に作る。(生活2段階、カ5)</p>	<p>・最初に潰す手本を見せ、その後一人で行うように促す。 ・手順表とあわせて、活動の流れに沿って手順の声掛けをする。 ・じゃがいもが潰しにくくなったら、教師がじゃがいもをほぐす。 ・潰しているときや終了後に、たくさん称賛する。 ・集中力が切れないようにじゃがいもの潰す回数を具体的に設定する。 ・教師が最初に手本を見せ、活動の見通しを持たせる。 ・友達の活動を見るように促し、活動の見通しを持たせる。 ・いももち作りをしているときにたくさん称賛する。</p>	<p>○ ▲ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○</p> <p>・教師が手本を見せた後、一人でマッシャーでじゃがいもを潰すことができた。そのあとに、手で細かくこねることができた。 ・じゃがいもを潰した際に、机の周りに飛んだじゃがいもを気にする様子が見られた。</p> <p>・自分から「潰す」と言い、いももちを潰した形に成型していた。また、一人で細長い形に成型していた。 ・友達が潰している姿を見て「俺も」と言い、前時よりもたくさんじゃがいもを潰していた。 ・クチャップ味のいももちを食べ、友達や教師に「おいしい」と言っていた。</p>	<p>マッシャーや手でじゃがいもを潰したときに、机の周りに飛んだじゃがいもを床に落とそうとし、集中力が切れることがあった。衛生面を考え、机にラップをつけ、机に飛んだじゃがいもは、職員がボウルに戻し、活動する。</p>
<p>いももちを作ろう② (9/17 3・4校 時)</p>	<p>○知識・技能 ・じゃがいもを潰し、いももちを作る。(生活)</p> <p>○思考力、判断力、表現力等 ・好きな形にいももちを成型する。(生活)</p> <p>○学びに向かう力、人間性等 ・友達や教師と楽しみながら、できるだけ一人でいももち作りに取り組む。(生活)</p>	<p>・じゃがいもを潰す。(生活1段階、カ2)</p> <p>・潰したじゃがいもを好きな形にする。</p> <p>・グループ用レシピをもとに、いももちを友達や教師と一緒に作る。(生活2段階、カ5)</p>	<p>・じゃがいもを潰す時間の終わりを示すために、教師が5秒数える。 ・手順表とあわせて、活動の流れに沿って手順の声掛けをする。 ・じゃがいもが潰しにくくなったら、教師がじゃがいもをほぐす。 ・潰しているときや終了後に、たくさん称賛する。 ・集中力が切れないようにじゃがいもの潰す回数を具体的に設定する。 ・活動の見通しを持てるように、教師が最初に手本を見せる。 ・いももち作りをしているときにたくさん称賛する。</p>	<p>○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○</p> <p>・教師が5秒数えたあとに、じゃがいもを潰し終えることができた。流れを理解して一人でじゃがいもを潰すことができた。</p> <p>・一人でじゃがいもを手のひらで潰し、成型していた。 ・チーズ味のいももちを食べ、教師に「おいしい」と伝えていた。</p>	
<p>いももちを作ろう③ (9/18 3・4校 時)</p>	<p>○知識・技能 ・じゃがいもを潰し、いももちを作る。(生活)</p> <p>○思考力、判断力、表現力等 ・好きな形にいももちを成型する。(生活)</p> <p>○学びに向かう力、人間性等 ・友達や教師と楽しみながら、できるだけ一人でいももち作りに取り組む。(生活)</p>	<p>・じゃがいもを潰す。(生活1段階、カ2)</p> <p>・潰したじゃがいもを好きな形にする。</p> <p>・グループ用レシピをもとに、いももちを友達や教師と一緒に作る。(生活2段階、カ5)</p>	<p>・じゃがいもを潰す時間の終わりを示すために、教師が5秒数える。 ・手順表とあわせて、活動の流れに沿って手順の声がけをする。 ・じゃがいもが潰しにくくなったら、教師がじゃがいもをほぐす。 ・集中力が切れないようにじゃがいもの潰す回数を具体的に設定する。 ・活動の見通しを持てるように、教師が最初に手本を見せる。 ・活動の見通しを持てるように、友達や教師が最初に手本を見せる。</p>	<p>○ ▲ ○ ○ ○ ○ ○ ○</p> <p>・教師の手本がなくても、流れを理解して一人でじゃがいもを潰すことができた。</p> <p>・じゃがいもを潰したあとにフォークで刺し、好きな形に成型していた。成型したじゃがいもを「ぼろぼろ」と教師に伝えていた。 ・教師が成型したいももちを指差して、「○○先生の」と伝えていた。教師のいももちをひっくり返したいと話しており、楽しそうに取り組んでいた。</p>	<p>・手袋を何回もはずすことをなくすために、次時は教師がマッシャーで潰し、そのあとに児童が手で潰す。</p>
<p>いももちを作ろう④ (9/19 3・4校 時)</p>	<p>○知識・技能 ・じゃがいもを潰し、いももちを作る。(生活)</p> <p>○思考力、判断力、表現力等 ・好きな形にいももちを成型する。(生活)</p> <p>○学びに向かう力、人間性等 ・友達や教師と楽しみながら、できるだけ一人でいももち作りに取り組む。(生活)</p>	<p>・じゃがいもを潰す。(生活1段階、カ2)</p> <p>・潰したじゃがいもを好きな形にする。</p> <p>・グループ用レシピをもとに、いももちを友達や教師と一緒に作る。(生活2段階、カ5)</p>	<p>・じゃがいもが潰しにくくなったら、教師がじゃがいもをほぐす。 ・活動の見通しを持てるように、教師が最初に手本を見せる。 ・活動の見通しを持てるように、友達や教師が最初に手本を見せる。 ・教師もいももちを成型し、児童と一緒に食べる。</p>	<p>○ ○ ○ ○ ○ ○</p> <p>・流れを理解して一人でじゃがいもを潰すことができた。</p> <p>・じゃがいもを潰した後、フォークで好きな形に成型していた。</p> <p>・教師が成型したいももちを指差して「おー」と声を出した。教師と一緒にじゃがいもを潰すことで、自分が潰したじゃがいもを友達や教師に見せていた。</p>	

4 対象児童・生徒に対する単元の目標は達成できたか。		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
自分からいもちを潰していた。	自分で考えていもちを好きな形に成型していた。複数ある味付けの中からチーズとケチャップを選んでいた。	自分から「焼きたい」と言い、友達や教師のいもちをひっくり返した。グループ発表やいもちを食べた後に自分から教師にハイタッチをしていた。潰すことや成型することを一人で取り組み、自分から進んでいもち作りに取り組んでいた。

5 単元・題材学習後の対象児童・生徒の姿（単元を通して対象児童・生徒にどんな力が身に付いたか）	
生活	1段階 ウ1 ・実物のじゃがいもやスライドの写真を見て、「じゃがいも」「いもち」と言っていた。 ・振り返りのときに「潰す・レンジグループの人？」という教師の問いかけに手を挙げていた。
	1段階 カ2 ・教師が手本を見せた後、一人でマッシャーでじゃがいもを潰すことができた。そのあとに、手で細かくこねることができた。 ・教師が、5秒数えたあとにじゃがいもを潰し終えることができた。流れを理解して一人でじゃがいもを潰すことができた。 ・教師の手本がなくても、流れを理解して一人でじゃがいもを潰すことができた。 ・流れを理解して一人でじゃがいもを潰すことができた。
	1段階 キ1 ・自分から「いもを潰したい」と教師に伝えて、じゃがいもを潰すことに意欲的に取り組んでいた。
	2段階 カ5 ・友達が潰している姿を見て「俺も」と言い、前時よりもたくさんじゃがいもを潰していた。 ・ケチャップ味のいもちを食べ、友達、教師に「おいしい」と言っていた。 ・チーズ味のいもちを食べ、教師に「おいしい」と伝えていた。 ・教師が成型したいいもちを指差して、「〇〇先生の」と伝えていた。教師のいもちをひっくり返したいと話しており、楽しそうに取り組んでいた。 ・教師が成型したいいもちを指差して「おー」と言っていた。教師と一緒にじゃがいもを潰すことで、自分が潰したじゃがいも友達や教師に見せていた。
音楽	2段階 A表現 19 ・テーマソングでは、「いもち」と声に出しながら手話をしていた。
国語	2段階 「思 判表、 思 聞く話 すエ 」 ○「潰したい」や「焼きたい」と自分の気持ちを言葉で教師に意思表示していた。教師の見本を見て、「いもち」と身ぶり手ぶりで表していた。
自立活動	コミュニケーション ○「潰したい」や「焼きたい」と自分の気持ちを言葉で教師に意思表示していた。教師の見本を見て、「いもち」と身ぶり手ぶりで表していた。 ○成型したじゃがいもを「ぼろぼろ」と教師に伝えた。
図工	2段階 A3, 4 ○じゃがいもを潰したあと、フォークで好きな形に成型していた。 ○じゃがいもを潰したあとに、フォークで刺し、好きな形に成型していた。

資料2 PDCA シート記入例②

1 全体について			
学部	学年	単元・題材名	授業者
小学部		友達や先生を招待して、いもちパーティーをしよう	
目指す主体的な姿			
パーティーの成功に向け、友達や教師と協力して準備に取り組む。			
単元の目標	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
	パーティーでいもちをごちそうすることが分かり、いもち作りに取り組む。	招待する相手を意識しながら、いもち作りに取り組む。	友達や教師と協力して、いもちを作る。
振り返り・改善点	本単元を通して、「パーティー」のイメージを持つことができた。また、6年生という身近な異年齢集団との関わりを持つことができたのがよかった。国語の授業時間に招待状作りや次第を書く学習、図工の時間に装飾作り、朝の会や帰りの会でテーマソングの練習を行いながらパーティーに向けての学習を5日間で行った。招待状を渡す時間や飾りを作る時間を考えると、時間数が足りなかったため授業時間については要検討。		

2 対象児童・生徒について		年	名前
単元に関わる児童生徒の実態	<ul style="list-style-type: none"> ・食べ物に対する興味関心が高い。 ・教師の手本を真似して混ぜることや潰すことを一人で取り組むことができる。 		
本単元に関連する教科及び各教科等の主な様子			
国語	平仮名で書かれた単語を読むことができる。		
自立活動	自分の気持ちを身ぶり手ぶりを使いながら、言葉で相手に伝えることができる。		

3 単元・題材の指導計画と主たる学び					
目指す主体的な姿					
友達や教師と楽しみながら、パーティーの準備やパーティーに意欲的に取り組む。					
単元の目標	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等		
	パーティーに向けて、じゃがいもを潰していもち作りをする。	いもちを好きな形に成形したり、招待する相手に食べてほしいいもちを作る。	友達や教師と楽しみながら、パーティーの準備やパーティーに取り組む。		
小単元名	目標 ※（ ）は関連する教科	学習内容	手立て・支援 ○：適切、▲：改善が必要	評価	手立て・支援の改善案
いもちパーティーの準備をしよう① (10/7 3校時)	・パーティーに興味をもつ。(生活)(自立)	・パーティーの内容や招待したい人を考える。(生活2段階、オ2)	・見てイメージできるように写真カードやスライドの写真を示す。	○ ・「いもち」とジェスチャーをしながら話していたり、「パーティー」と言っており、パーティーをやることが分かっていた。 ・パーティーの内容を考えたときに、友達が「歌」「ゲーム」「ダンス」と発言した中から「ダンス」と真似して言っていた。 ・友達がいもちを食べ、「おいしい」とジェスチャーをしたときに、真似をして教師に伝えていた。	

<p>いもちパーティーの準備をしよう② (10/8 3・4校時)</p>	<p>・友達や教師と楽しみながら、できるだけ一人でいもち作りに取り組む。(生活)(自立)</p>	<p>いもちを友達や教師と一緒に作る。(生活2段階、カ5)</p>	<p>・じゃがいもをこぼさず潰すために、ラップに包んだいもを渡し、それを潰すように促す。 ・活動の見通しを持てるように、教師が最初に手本を見せる。 ・教師もいもちを成型し、児童と一緒に食べる。</p>	<p>▲ ○ ○</p>	<p>・じゃがいもを一人で潰すことができた。 ・友達や教師が潰している姿を見て、「俺も潰す」と言っていもち作りに取り組んでいた。</p>	<p>・潰しているうちにラップがゆるみ、じゃがいもがこぼれてしまったので、ジップロックに入れて潰す。</p>
<p>ミニパーティーをしよう (10/9 3・4校時)</p>	<p>・友達や教師と楽しみながらミニパーティーに取り組む。(生活)</p>	<p>・歌を歌ったり、ゲームに取り組んだりする。(生活2段階、カ1カ5)</p>	<p>・教師が楽しい雰囲気づくりをする。</p>	<p>○</p>	<p>・恥ずかしがっている姿が見られたが、招待した先生を友達と一緒に席に案内していた。 ・歌では、友達の肩をたたき、楽しみながら一緒に歌っている姿が見られた。 ・招待した先生にケチャップ味をすすめていた。招待した先生と味の感想を伝え合い、楽しそうにいもちを食べていた。</p>	
<p>いもちパーティーの準備をしよう③ (10/10 3・4校時)</p>	<p>・友達や教師と楽しみながら、できるだけ一人でいもち作りに取り組む。(生活)(自立)</p>	<p>いもちを友達や教師と一緒に作る。(生活2段階、カ5)</p>	<p>・じゃがいもをこぼさず潰すために、ジップロックに包んだものを潰すように促す。 ・活動の見通しを持てるように、教師が最初に手本を見せる。 ・教師もいもちを成型し、児童と一緒に食べる。</p>	<p>○ ○ ○</p>	<p>・じゃがいもを潰す量が多かったため、少々疲れは見られたが、一人で潰すことができた。 ・潰すときに「チョップ」と言い、ジップロックに入ったじゃがいもを何回も力強くじゃがいもを潰していた。 ・いもちの味付けを「チーズ」「ケチャップ」と言い、食べたい味を友達や教師に話していた。 ・招待する友達や自分の食べる分を一人で成型して取り組んでいた。</p>	
<p>いもちパーティーをしよう (10/11 3・4校時)</p>	<p>・招待した友達や教師を席に案内し、楽しみながらパーティーに参加する。(生活)</p>	<p>・招待した友達や教師を迎えに行く。(生活2段階、オ3) ・招待した友達や教師に歌を発表したり、一緒にゲームに取り組む。(生活2段階、カ5)</p>	<p>・案内する友達の座席が確認できるように写真を用意し、座る場所が分かるように机に写真カードを貼る。 ・教師が楽しい雰囲気づくりをする。</p>	<p>○ ○</p>	<p>・招待する友達や教師を理解しており、自分から友達や教師のもとに行き、案内している姿が見られた。 ・招待した教師と会話をしており、楽しそうにパーティーに参加していた。</p>	

4 対象児童・生徒に対する単元の目標は達成できたか。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
じゃがいもを潰して成型し、いももちを作っていた。	自分で考えていももちを好きな形に成型していた。複数ある味付けの中からケチャップ味、チーズ味を選んでいた。	自分のいももちや教師のいももちを焼いたときに、毎時間喜んでる姿が見られた。潰すことや成型することを一人で取り組み、自分から進んでいももち作りに取り組んでいた。ミニパーティーやパーティー当日、恥ずかしがることはあったが、友達や教師を自分から席に案内していた。

5 単元・題材学習後の対象児童・生徒の姿（単元を通して対象児童・生徒にどんな力が身に付いたか）

生活	1段階 オ3	・恥ずかしがっていたが、ミニパーティーで招待した先生を同じ学級の友達と一緒に席に案内していた。
	2段階 オ3	・招待する友達や教師を理解しており、自分から友達や教師のもとに行き、案内している姿が見られた。
	2段階 カ1	・歌では、友達の肩をたたきながら一緒に楽しみながら歌っている姿が見られた。
	2段階 カ5	・友達や教師が潰している姿を見て、「俺も潰す」と言っている姿を見られた。 ・潰すときに「チョップ」と言い、ジップロックに入ったじゃがいもを何回も力強くじゃがいもを潰していた。
音楽	2段階 A表現 18	・テーマソングでは、「いももち」と声に出しながら手話をしていた。
国語	1段階 知・技 音楽の特徴 使い方 4	・パーティーの内容を考えると、友達が「歌」「ゲーム」「ダンス」と発言した中から「ダンス」と真似して言っていた。
	1段階 思判表 聞く話す 5	・友達がいももちを食べ「おいしい」とジェスチャーをしたときに、真似をして教師に伝えていた。
	2段階 知・技 音楽の特徴 使い方 3	・いももちの味付けを「チーズ」「ケチャップ」と言い、食べたい味を友達や教師に話していた。 ○招待した先生にケチャップ味をすすめていた。招待した先生と味の感想を伝えあい、楽しそうにいももちを食べていた。
自立活動	コミュニケーション	・いももちの味付けを「チーズ」「ケチャップ」と言い、食べたい味を友達や教師に話していた。 ○招待した先生にケチャップ味をすすめていた。招待した先生と味の感想を伝えあい、楽しそうにいももちを食べていた。

1 生活
 <教科の目標>

小学部	
教科の目標	具体的な活動や体験を通して、生活に関わる見方・考え方を生かし、自立し生活を豊かにしていくための資質・能力を次のとおり育成することを旨とする。
知識及び技能	(1) 活動や体験の過程において、自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴やよさ、それらの関わり等に気付くとともに、生活に必要な習慣や技能を身に付けるようにする。
思考力、判断力、表現力等	(2) 自分自身や身の回りの生活のことや、身近な人々、社会及び自然と自分との関わりについて理解し、考えたことを表現することができるようにする。
学びに向かう力、人間性等	(3) 自分のことに取り組んだり、身近な人々、社会及び自然に自ら働きかけ、意欲や自信をもって学んだり、生活を豊かにしようとしたりする態度を養う。

<各段階の目標>

	小学部1段階	小学部2段階	小学部3段階
知識及び技能	ア 活動や体験の過程において、自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴に関心をもつとともに、身の回りの生活において必要な基本的な習慣や技能を身に付けるようにする。	ア 活動や体験の過程において、自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴や変化に気付くとともに、身近な生活において必要な習慣や技能を身に付けるようにする。	ア 活動や体験の過程において、自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴やよさ、それらの関わり等に気付くとともに、生活に必要な習慣や技能を身に付けるようにする。
思考力、判断力、表現力等	イ 自分自身や身の回りの生活のことや、身近な人々、社会及び自然と自分との関わりについて関心をもち、感じたことを伝えようとする。	イ 自分自身や身の回りの生活のことや、身近な人々、社会及び自然と自分との関わりについて気付き、感じたことを表現しようとする。	イ 自分自身や身の回りの生活のことや、身近な人々、社会及び自然と自分との関わりについて理解し、考えたことを表現することができるようにする。
学びに向かう力、人間性等	ウ 自分のことに取り組もうとしたり、身近な人々、社会及び自然に関心を持ち、意欲をもって学んだり、生活に生かそうとしたりする態度を養う。	ウ 自分のことに取り組もうとしたり、身近な人々、社会及び自然に自ら働きかけようとしたり、意欲や自信をもって学んだり、生活に生かそうとしたりする態度を養う。	ウ 自分のことに取り組んだり、身近な人々、社会及び自然に自ら働きかけ、意欲や自信をもって学んだり、生活を豊かにしようとしたりする態度を養う。

<内 容>

	小学部1段階	小学部2段階	小学部3段階
ア 基本的な生活習慣	食事や用便等の生活習慣に関わる初歩的な学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	食事、用便、清潔等の基本的な生活習慣に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	身の回りの整理や身なりなどの基本的な生活習慣や日常生活に役立つことに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
	(ア) 簡単な身辺処理に気付き、教師と一緒に行動すること。	(ア) 必要な身辺処理が分かり、身近な生活に役立てようとする。	(ア) 必要な身辺処理や集団での基本的な生活習慣が分かり、日常生活に役立てようとする。
	(イ) 簡単な身辺処理に関する初歩的な知識や技能を身に付けること。	(イ) 身近な生活に必要な身辺処理に関する基礎的な知識や技能を身に付けること。	(イ) 日常生活に必要な身辺処理等に関する知識や技能を身に付けること。

	小学部1段階	小学部2段階	小学部3段階
イ 安全	危ないことや危険な場所等における安全に関わる初歩的な学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	遊具や器具の使い方、避難訓練等の基本的な安全や防災に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	交通安全や避難訓練等の安全や防災に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
	(ア) 身の回りの安全に気付き、教師と一緒に安全な生活に取り組もうとすること。	(ア) 身近な生活の安全に関心を持ち、教師の援助を求めながら、安全な生活に取り組もうとすること。	(ア) 日常生活の安全や防災に関心を持ち、安全な生活をするよう心がけること。
	(イ) 安全に関わる初歩的な知識や技能を身に付けること。	(イ) 安全や防災に関わる基礎的な知識や技能を身に付けること。	(イ) 安全や防災に関わる知識や技能を身に付けること。
ウ 日課・予定	日課に沿って教師と共にする学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	絵や写真カードなどを手掛かりにして、見通しをもち主体的に取り組むことなどに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	一週間程度の子供の予定、学校行事や家庭の予定などに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
	(ア) 身の回りの簡単な日課に気付き、教師と一緒に日課に沿って行動しようとする。	(ア) 身近な日課・予定が分かり、教師の援助を求めながら、日課に沿って行動しようとする。	(ア) 日常生活の日課・予定が分かり、およその予定を考えながら、見通しをもって行動しようとする。
	(イ) 簡単な日課について、関心をもつこと。	(イ) 身近な日課・予定について知ること。	(イ) 日課や身近な予定を立てるために必要な知識や技能を身に付けること。
エ 遊び	自分で好きな遊びをすることなどに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	教師や友達と簡単な遊びをすることなどに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	日常生活の中での遊びに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
	(ア) 身の回りの遊びに気付き、教師や友達と同じ場所で遊ぼうとすること。	(ア) 身近な遊びの中で、教師や友達と簡単なきまりのある遊びをしたり、遊びを工夫しようとしたりすること。	(ア) 日常生活の遊びで、友達と関わりをもち、きまりを守ったり、遊びを工夫し発展させたりして、仲良く遊ぼうとすること。
	(イ) 身の回りの遊びや遊び方について関心をもつこと。	(イ) 簡単なきまりのある遊びについて知ること。	(イ) きまりのある遊びや友達と仲良く遊ぶことなどの知識や技能を身に付けること。
オ 人との関わり	小さな集団での学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	身近な人と接することなどに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	身近なことを教師や友達と話すことなどに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
	(ア) 教師や身の回りの人に気付き、教師と一緒に簡単な挨拶などをしようとする。	(ア) 身近な人を知り、教師の援助を求めながら挨拶や話などをしようとする。	(ア) 身近な人と自分との関わりが分かり、一人で簡単な対応などをしようとする。
	(イ) 身の回りの人との関わり方に関心をもつこと。	(イ) 身近な人との接し方などについて知ること。	(イ) 身近な人との簡単な対応などをするための知識や技能を身に付けること。

	小学部1段階	小学部2段階	小学部3段階
カ 役割	学級等の集団における役割などに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	学級や学年、異年齢の集団等における役割に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	様々な集団や地域での役割に関する学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
	(7) 身の回りの集団に気付き、教師と一緒に参加しようとする事。	(7) 身近な集団活動に参加し、簡単な係活動をしようとする事。	(7) 様々な集団活動に進んで参加し、簡単な役割を果たそうとする事。
	(4) 集団の中での役割に関心をもつこと。	(4) 簡単な係活動などの役割について知ること。	(4) 集団の中での簡単な役割を果たすための知識や技能を身に付けること。
キ 手伝い・仕事	教師と一緒に印刷物を配ることや身の回りの簡単な手伝いなどに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	人の役に立つことのできる手伝いや仕事に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	自分から調理や製作などの様々な手伝いをする事や学級の備品等の整理などに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
	(7) 身の回りの簡単な手伝いや仕事を教師と一緒にしようとする事。	(7) 教師の援助を求めながら身近で簡単な手伝いや仕事をしようとする事。	(7) 日常生活の手伝いや仕事を進んでしようとする事。
	(4) 簡単な手伝いや仕事に関心をもつこと。	(4) 簡単な手伝いや仕事について知ること。	(4) 手伝いや仕事をするための知識や技能を身に付けること。
ク 金銭の扱い	簡単な買い物や金銭を大切に扱うことなどに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	金銭の価値に気付くことや金銭を扱うことなどに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	価格に応じて必要な貨幣を組み合わせるなどの金銭に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
	(7) 身の回りの生活の中で、教師と一緒に金銭を扱おうとする事。	(7) 身近な生活の中で、教師に援助を求めながら買い物をし、金銭の大切さや必要性について気付くこと。	(7) 日常生活の中で、金銭の価値が分かり扱いに慣れること。
	(4) 金銭の扱い方などに関心をもつこと。	(4) 金銭の扱い方などを知ること。	(4) 金銭の扱い方などの知識や技能を身に付けること。
ケ きまり	学校生活の簡単なきまりに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	順番を守ることや信号を守って横断することなど、簡単なきまりやマナーに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	学校のきまりや公共の場でのマナー等に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
	(7) 身の回りの簡単なきまりに従って教師と一緒に行動しようとする事。	(7) 身近で簡単なきまりやマナーに気付き、それらを守って行動しようとする事。	(7) 日常生活の簡単なきまりやマナーが分かり、それらを守って行動しようとする事。
	(4) 簡単なきまりについて関心をもつこと。	(4) 簡単なきまりやマナーについて知ること。	(4) 簡単なきまりやマナーに関する知識や技能を身に付けること。

	小学部1段階	小学部2段階	小学部3段階
コ 社会の仕組みと公共施設	自分の家族や近隣に関心をもつこと及び公園等の公共施設に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	自分の住む地域のことや図書館や児童館等の公共施設に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	自分の地域や周辺の地理などの社会の様子、警察署や消防署などの公共施設に関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
	(ア) 身の回りにある社会の仕組みや公共施設に気づき、それを教師と一緒にみんなに伝えようとする。	(ア) 教師の援助を求めながら身近な社会の仕組みや公共施設に気づき、それらを表現しようとする。	(ア) 日常生活に関わりのある社会の仕組みや公共施設が分かり、それらを表現すること。
	(イ) 身の回りの社会の仕組みや公共施設の使い方などについて関心をもつこと。	(イ) 身近な社会の仕組みや公共施設の使い方などを知ること。	(イ) 日常生活に関わりのある社会の仕組みや公共施設などを知ったり、活用したりすること。
サ 生命・自然	教師と一緒に公園や野山などの自然に触れることや生き物に興味や関心をもつことなどに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	小動物等を飼育し生き物への興味・関心をもつことや天候の変化、季節の特徴に関心をもつことなどに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	身近にいる昆虫、魚、小鳥の飼育や草花などの栽培及び四季の変化や天体の動きなどに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
	(ア) 身の回りにある生命や自然に気づき、それを教師と一緒にみんなに伝えようとする。	(ア) 身近な生命や自然の特徴や変化が分かり、それらを表現しようとする。	(ア) 日常生活に関わりのある生命や自然の特徴や変化が分かり、それらを表現すること。
	(イ) 身の回りの生命や自然について関心をもつこと。	(イ) 身近な生命や自然について知ること。	(イ) 日常生活に関わりのある生命や自然について関心をもって調べること。
シ ものの仕組みと働き	身の回りの生活の中で、物の重さに気付くことなどに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	身近な生活の中で、ものの仕組みなどに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	日常生活の中で、ものの仕組みなどに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
	(ア) 身の回りにあるものの仕組みや働きに気づき、それを教師と一緒にみんなに伝えようとする。	(ア) 身近にあるものの仕組みや働きが分かり、それらを表現しようとする。	(ア) 日常生活の中で、ものの仕組みや働きが分かり、それらを表現すること。
	(イ) 身の回りにあるものの仕組みや働きについて関心をもつこと。	(イ) 身近にあるものの仕組みや働きについて知ること。	(イ) ものの仕組みや働きに関して関心をもって調べること。

<具体的内容>

	小学部1段階 ア 基本的生活習慣	小学部2段階 ア 基本的生活習慣	小学部3段階 ア 基本的生活習慣
食事	<ol style="list-style-type: none"> 1 教師と一緒に食前に手を洗う。 2 配膳のときに行儀よく待つ。 3 教師と一緒に自分の食器を並べたり、片付けたりする。 4 食前・食後のあいさつの仕草をする。 5 スプーン・フォークや自助具を使って支援を受けながら食べる。 6 ストローやコップで飲む。 7 茶碗などをおさえて食べる。 8 好き嫌いをしないで食べる。 	<ol style="list-style-type: none"> 1 一人で食前に手を洗う。 2 自分の食器を並べたり、片付けたりする。 3 食前・食後のあいさつをする。 4 スプーン・フォークや箸を使ってこぼさないように食べる。 5 ストローやコップで上手に飲む。 6 必要があれば、茶碗などを手に持って食べる。 7 主食と副食をとり合わせて食べる。 	<ol style="list-style-type: none"> 1 簡単な食事の準備や後片付けをする。 2 箸で上手に食べる。 3 体の調子を良くするために、好き嫌いをしないで食べる。

	小学部1段階	小学部2段階	小学部3段階
	ア 基本的生活習慣	ア 基本的生活習慣	ア 基本的生活習慣
食事	9 食事の途中で遊ばないで食べる。 10 よく噛んで食べる。 11 口に入れる量を知る。 12 良い姿勢で食べる。 13 食べてはいけないと言われたものは食べない。 14 食後、指示を受けて口の周りを拭く。 15 教師と一緒に、こぼしたものを拭く。	8 行儀よく食べる。 9 食後一人で口のまわりを拭く。 10 簡単な献立の名前を言う。 11 しょうゆやソースなどを上手に使う。 12 教師と一緒に、食事の前後にテーブルを拭く。	4 マナーを守って食事をする。 5 食べたい献立の名前を言う。 6 一人で調味料を上手に使う。
用便	16 一定時刻に、教師と一緒に用便に行く。 17 尿意、便意、相相を告げる。 18 パンツやズボン等を脱がせてもらって、用をたす。 19 教師と一緒に用便後手を洗う。	13 一人で用便に行き、用をたす。 14 トイレの男女のしるしを見て、自分の使用する方が分かり、用をたす。 15 トイレの個室に入るときは、ロックをし、戸を閉めて用をたす。 16 用便後一人で拭き、服装を整える。 17 用便後、水を流す。 18 用便後、手を洗う。	7 便器のまわりを汚さないで用をたす。 8 便器の違いや水洗機能などがわかり用をたす。 9 自分の家や学校以外のトイレを一人で使う。 10 出かける前や休憩時間に自分から用をたす。 11 様々な種類のトイレの鍵の使用方法を知る。
寝起き	20 教師と一緒に、寝る前に用便に行く。 21 教師と一緒に、パジャマに着替える。 22 一人で寝る。 23 朝の挨拶や、寝るときの挨拶を促されてする。	19 指示されて決まった時刻に寝起きする。 20 寝る前に用便に行く。 21 一人でパジャマに着替える。 22 朝の挨拶や、寝るときの挨拶をする。 23 教師と一緒に、寝床の準備や片づけをする。	12 決まった時刻に寝起きする。 13 夜中でも、一人で用便に行く。 14 自分から朝の挨拶や、寝るときの挨拶をする。 15 自分で寝床の準備や片づけをする。
清潔	24 教師と一緒に歯磨きや洗面をする。 25 教師と一緒に手足を洗ったり、拭いたりする。 26 教師と一緒に鼻汁を拭く。 27 いつもハンカチやちり紙を持っている。 28 嫌がらずに髪をとかしてもらう。 29 嫌がらずに爪を切ってもらったり、耳垢を取ってもらったりする。 30 入浴前に用便をすませる。 31 教師と一緒に腕、足、胸などを洗う。	24 一人で歯磨きや洗面をする。 25 一人で手足を洗ったり、拭いたりする。 26 一人で鼻汁をかむ。 27 ハンカチやちり紙を上手に使う。 28 教師と一緒に髪をとかす。 29 教師と一緒に爪を切る。 30 教師の援助を受けながら、体や髪などを洗う。	16 自分から進んで歯磨きや洗面をする。 17 ハンカチやちり紙を自分で用意する。 18 一人で髪をとかす。 19 一人で爪を切る。 20 一人で散髪に行く。 21 湯加減を見てから浴槽に入る。 22 浴槽に入る前に、股間や手足等を洗う。

	小学部1段階	小学部2段階	小学部3段階
	ア 基本的生活習慣	ア 基本的生活習慣	ア 基本的生活習慣
清潔	32 嫌がらずに髪を洗ってもらう。 33 教師と一緒に、自分の体を拭く。	31 入浴後、教師と一緒に用具の片づけをする。	23 一人で入浴し、自分から体を洗う。 24 一人で髪を洗う。 25 入浴後、よく体を拭いて着衣する。 26 入浴後、用具の片づけをする。
身の回りの整理	34 自分の帽子、衣服、靴、鞆などが分かり、教師と一緒に、決められた場所に置く。	32 自分の帽子、衣服、靴、鞆などを決められた場所に置く。 33 自分の脱いだ履物をそろえる。 34 身の回りの用品の名称が分かる。	27 自分の衣服や持ち物を、決められた場所に、整頓して置く。 28 机の引き出しやロッカーなど、上手に使用する。 29 リュックサックやバッグを上手に使い分けて使用する。 30 旅行等に必要な物の準備や後片づけをする。
身なり	35 教師と一緒に、簡単な衣服の着脱をする。 36 靴を一人で履いたり、脱いだりする。 37 教師と一緒に、雨具を使用する。	35 簡単な衣服の着脱をする。 36 教師の援助を受けながら、脱いだ衣服をたたむ。 37 ハンガーを使って、衣服を始末する。 38 衣服の前後、裏表に気を付けて着脱する。 39 教師と一緒に、鏡の前で着脱後の簡単な確認をする。 40 靴の左右を区別して履く。	31 適切な場所で着替えをする。 32 自分の衣服の始末をする。 33 袖、襟、裾などの身だしなみを整える。 34 鏡で身なりの確認をする。 35 衣服の汚れやほころびに気付いて、着替えをする。 36 寒暖や天候に合わせて衣服を調整する。 37 運動や作業のときには、決められた服装をする。 38 いろいろな履物を、場や天候に合わせて履く。 39 雨具を使用し、始末する。
	イ 安全	イ 安全	イ 安全
危険防止	1 ビー玉や硬貨などを口に入れない。 2 階段やストーブのそばで悪ふざけをしない。 3 階段や段差などに注意して歩く。	1 物を投げたり、高いところへ登ったりするなど、危険な遊びをしない。 2 ガスの栓、ライター、刃物などの危険な物にむやみに触れない。 3 知らない人についていかない。	1 危険な場所や状況を自分から回避したり、大人に知らせたりする。 2 電気器具、ガス栓、ライター、刃物などを安全に取り扱うことに慣れる。

	小学部1段階 イ 安全	小学部2段階 イ 安全	小学部3段階 イ 安全
交通安全	<p>4 交通信号に注意しながら教師と一緒に行動する。</p> <p>5 教師と手をつながずに、道路を安全に歩く。</p> <p>6 教師と一緒に横断歩道を渡る。</p>	<p>4 道路を歩くときは、自転車や自動車に気を付ける。</p> <p>5 道路を何人かで歩くときは、横に並んだり、ふざけたりしない。</p> <p>6 道路を横断するときは、左右を確かめ、手を上げて渡る。</p> <p>7 道路を横断するときは、横断歩道や歩道橋を渡る。</p> <p>8 踏切を渡るときは、左右を確かめ、警報機のあるときは、それに従う。</p> <p>9 道路へ急に飛び出さない。</p>	<p>3 交通信号の見方が分かり、信号に従う。</p> <p>4 道路は右側を歩き、歩道のある場合は、歩道を歩く。</p> <p>5 「通行止」「横断禁止」「危険」などの標識が分かり、指示を守る。</p> <p>6 交通の頻繁な道路では遊ばない。</p> <p>7 交通ルールを守り、安全に自転車に乗る。</p>
避難訓練	<p>7 避難訓練のときは、教師と一緒に行動する。</p>	<p>10 避難訓練のときは、教師の指示に従う。</p> <p>11 「火事」「地震」「避難」などの言葉の意味がわかる。</p>	<p>8 避難のときは、進んで教師の指示に従う。</p> <p>9 火災時と地震時の避難の仕方が分かり、適切に行動する。</p>
防災	<p>8 教師と一緒に行動し、地域の危険な場所に気付く。</p>	<p>12 教師や友達と一緒に行動し、地域の安全な場所を知る。</p>	<p>10 火災や地震等の災害に気付き、その場の状況をとらえて適切に行動しようとする。</p> <p>11 地域の安全な場所が分かり、緊急時に移動する。</p>
	ウ 日課・予定	ウ 日課・予定	ウ 日課・予定
日課・予定	<p>1 教師と一緒に、日課に沿って行動し、学校生活に簡単な見通しをもつ。</p>	<p>1 教師の言葉掛けを聞いたり、予定の絵や写真などを見たりして、次に何をすることがわかり、できるだけ一人で日課に沿って行動する。</p> <p>2 明日の予定や身近な予定について知る。</p>	<p>1 日常生活におけるおおよその予定がわかり、主体的に行動する。</p> <p>2 一週間程度の予定がわかる。</p> <p>3 カレンダーや予定表を見て、学校行事や家庭の予定などに従って行動する。</p> <p>4 予定の変更に落ち着いて対応する。</p>
	エ 遊び	エ 遊び	エ 遊び
いろいろな遊び	<p>1 教師や友達と同じ場所で、好きなことをして遊ぶ。</p> <p>2 教師のまねをして、手足を動かして遊ぶ。</p> <p>3 テレビや絵本など、教師と一緒に楽しむ。</p>	<p>1 教師や友達と一緒に、簡単なごっこ遊びをする。</p> <p>2 テレビや絵本に関心を持ち、楽しんで見る。</p> <p>3 じゃんけんの仕草をして遊ぶ。</p>	<p>1 友達と一緒に、いろいろな遊びをする。</p> <p>2 テレビの番組を自分で選んで視聴する。</p> <p>3 遊びにじゃんけんを使う。</p> <p>4 自分で遊びを選んだり考えたりする。</p>

	小学部1段階	小学部2段階	小学部3段階
	エ 遊び	エ 遊び	エ 遊び
いろいろな遊び	4 すもう、かけっこなどをして遊ぶ。 5 おもちゃなど身近にある物で遊ぶ。 6 ぶらんこ、すべり台、砂場等で遊ぶ。 7 三輪車等に乗って遊ぶ。	4 簡単なルールのある遊びをする。 5 順番や交代の意味がわかり、わがままを言わないで遊ぶ。 6 玉入れ、カルタとりなどで遊ぶ。 7 簡単な遊具で遊ぶ。 8 シーンソー、鉄棒等で遊ぶ。 9 補助輪付きの自転車に乗って遊ぶ。 10 指示されて、遊具をゆずる。 11 自分の使っている遊具などを取られそうになったら、返してもらおうとする。	5 グループをつくり、ルールを守って遊ぶ。 6 仲間に入れたい友達を誘って一緒に遊ぶ。 7 自分たちで簡単な遊具を作って遊ぶ。 8 補助輪のない自転車に乗って遊ぶ。 9 道具などをゆずり合って遊ぶ。 10 共同遊具などを大切にする。
遊具の後片付け	8 教師と一緒に、遊具等の後片付けをする。	12 促されて、遊具等の後片付けをする。	11 自分から進んで、遊具等の後片付けをする。
	オ 人との関わり	オ 人との関わり	オ 人との関わり
自分自身と家族	1 自分の名前がわかり、名前を呼ばれたときに、身振りや表情、挙手や発声等で応答する。	1 自分や家族の名前を言う。	1 簡単な自己紹介をする。 2 自分の住所を言う。 3 自分の家の電話番号を言う。
身近な人との関わり	2 教師や友達の名前がわかる。 3 友達と手をつなぐ。 4 教師と一緒に頭を下げたり、握手したりしてあいさつする。 5 表情、身振り、動作、声、絵カードなどで自分の要求を表現する。	2 担任の教師や友達等、身近な人の名前を言う。 3 身近な人に自分から「おはよう」「さようなら」等のあいさつをする。 4 聞かれれば、見たことや聞いたこと、遊んだことを話そうとする。 5 促されて、友達におもちゃや学用品を貸す。 6 促されて、友達の手助けをする。 7 友達から借りた物は、丁寧に返す。 8 手伝ってもらって年賀状などを書く。	4 身近な人に簡単な日常のあいさつをする。 5 見たこと、聞いたこと、遊んだことを教師や友達と話し合う。 6 学用品などを忘れて困っている友達に、自分の物を貸す。 7 友達のあやまちをむやみにとがめない。 8 友達との約束を守る。 9 年賀状や礼状等の手紙を出す。
電話や来客の取次ぎ	6 お客さんが来たことや電話がかかってきたことに気づき、関心をもつ。 7 促されて「ありがとう」「ごめんなさい」の気持ち表現する。	9 人の来訪を教師に告げる。 10 教師の援助を受けて、適切な場面で「ありがとう」「ごめんなさい」を言う。	10 電話や来訪があったときは、適切に取り次ぎをする。 11 「ありがとう」「ごめんなさい」を適切に言う。
	カ 役割	カ 役割	カ 役割
集団内での役割	1 誕生会、遠足、運動会等に参加する。 2 教師と一緒に、あいさつの号令かけや黒板ふきなどの係活動をする。	1 誕生会や学級会等で、簡単な役割をする。 2 運動会や学習発表会等で、教師と一緒に簡単な係活動をする。	1 誕生会や学級会等で、司会などの役割を果たす。 2 運動会や学習発表会等で、簡単な係活動をする。

	小学部1段階	小学部2段階	小学部3段階
	カ 役割	カ 役割	カ 役割
地域での行事への参加・共同での作業と役割分担	3 教師と一緒に、地域の行事に参加する。 4 給食のときに、教師と一緒に食器を並べたり、牛乳を配ったりする等の係活動をする。	3 教師と一緒に、地域の行事に参加し、簡単な役割をする。 4 教材配りや給食運び等の係活動をする。 5 簡単な作業をみんなで一緒にする。	3 友達と一緒に、地域の行事に参加し、簡単な役割をする。 4 日直、給食当番、掃除当番等の係活動をする。 5 簡単な作業を分担して行う。
	キ 手伝い・仕事	キ 手伝い・仕事	キ 手伝い・仕事
手伝い	1 教師と一緒に、配布物を配ったり、教材等を運搬したりする。	1 学級で配りものの手伝いをする。 2 他の教室へ、物を届けたり、取りに行ったりする。 3 仕事に使う簡単な道具や器具の扱いに慣れる。	1 自分から調理や製作などの様々な手伝いをする。 2 仕事に使う道具や器具に慣れる。 3 道具や器具を大切に扱う。 4 調理や製作の手伝いをする。 5 他の教室などへ、伝言に行く。
整理整頓	2 教師と一緒に、学習用具等の整理をする。	4 机やロッカーなどの中を整理する。	6 掃除用具、運動用具、図書等の整理整頓をする。 7 教室や特別教室の椅子や机の整理をする。
戸締まり	3 教師と一緒に、扉や窓の開閉に慣れる。	5 窓の開閉等の手伝いをする。	8 窓の開閉、戸締まり等をする。
	キ 手伝い・仕事	キ 手伝い・仕事	キ 手伝い・仕事
掃除	4 教師と一緒に、ごみを拾ったり、ごみ箱のごみを捨てに行ったりする。 5 教師と一緒に、簡単な掃除をする。	6 掃除用具の使い方や名称が分かり、簡単な掃除をする。	9 場所に適した掃除用具等を選択し、決められた場所の掃除をする。
後片付け	6 教師と一緒に、手伝いや仕事で使った道具や材料等の後片付けをする。	7 友達と協力して、手伝いや仕事で使った道具や材料等の後片付けをする。	10 自分から決められた場所に道具等を片付ける。 11 手伝いや仕事の終了時に報告をする。
	ク 金銭の扱い	ク 金銭の扱い	ク 金銭の扱い
金銭の扱い	1 お金が大切なものであることが分かり、粗末に扱わない。 2 いろいろな種類の硬貨や紙幣があることを知る。 3 教師と一緒に、お店の人にお金を渡したり、お金を財布に入れたりする。	1 お年玉やお小遣いを、財布や貯金箱に大切に保管する。 2 いろいろな種類の硬貨や紙幣を使って買い物をする。	1 日常生活に金銭が必要なことを知り、無駄遣いをしない。 2 お小遣いの遣い道を自分で考えて遣う。 3 今すぐ使用しないお金は、貯金したり、銀行に預金したりする。 4 お金を種類毎に分類して数えたり、必要に応じて両替をする。 5 価格に応じて、紙幣や硬貨を適切に組み合わせて支払う。

	小学部1段階 ク 金銭の扱い	小学部2段階 ク 金銭の扱い	小学部3段階 ク 金銭の扱い
買い物	4 教師と一緒に、品物を選んでレジまで持っていく、お店の人にお金を渡したり、品物を袋に入れる。	3 「これ、ください」など買い物に必要な言葉を使う。 4 少額で、決まった額の買い物を一人です。 5 商店などで品物を選んで買う。	6 「幾らですか」「〇個ください」など買い物に買い物に必要な言葉を使う。 7 簡単なおつりのある買い物をする。 8 値札を見て、おおよその値段が分かって買い物をする。 9 商店などでレジの場所が分かり、代金を支払う。 10 旅先でお土産等を自分で考えて買う。
自動販売機等の利用	5 教師と一緒に、自動販売機を利用する。	6 できるだけ一人で自動販売機を利用する。	11 簡単な自動販売機等を自分で利用する。
	ケ きまり	ケ きまり	ケ きまり
他人の物の物区別	1 教師と一緒に、自他の物を区別する。	1 自他の物を区別する。 2 他人の物や学校の物品を無断で持ち出さない。 3 学校の図書館で借りた本や運動用具等は、必ず返却する。	1 物を適切な方法で貸し借りする。 2 貴重品や書類に触れたり、それらを持ち出ししたりしない。 3 落とし物を拾ったときは、教師に届けたり、持ち主を探して手渡したりする。
学校のきまり	2 教師からの言葉掛けや合図等を聞いて、集合、整列、着席等の指示に従う。 3 上履きと下足の区別をする。 4 むやみに他の教室等に入らない。 5 廊下は静かに歩く。	4 決められた場所で靴を履き替える。 5 廊下を歩くときは、右側を歩く。 6 集会や校外学習等の時は、指示に従って行動する。 7 登校時刻や下校時刻等を知り、守る。	4 学校等で、必要に応じて簡単なきまりを相談してつくる。 5 集会や校外学習等の時は、集団行動に必要な決まりを守る。
日常生活のきまり	1 公共交通機関の中で、歩き回ったり、大きな声で騒いだりしない。	8 停留所や駅等で、並んで順番を待つ。 9 順番を守って乗り物の乗降をする。 10 決められた場所で遊ぶ。 11 火災報知器や消火器等をいたずらしない。	6 公園や図書館等の決まりを守る。 7 火災報知器や消火器等の非常用設備の使用法について、おおよそを理解する。
マナー		12 正しい姿勢で食事をする、食事中は席に座る、口に食物が入っているときは話さない等、身近な生活におけるマナーを身に付ける。	8 公共交通機関や病院、図書館等で静かに行動したり過ごしたりするなど、公共の場におけるマナーを身に付ける。
	コ 社会の仕組みと公共施設	コ 社会の仕組みと公共施設	コ 社会の仕組みと公共施設
家族・親戚・近所の人	1 自分の父母、兄弟姉妹、祖父母が分かり、家族と気持ちを安定させて生活する。 2 隣近所の人に関心をもつ。	1 家族それぞれの役割が分かる。 2 身近な地域で働く人に関心をもつ。	1 家族や親戚、近所の人々の名前が言える。 2 家族の職業が言える。 3 身近に見られる様々な職業の名前が言える。

	小学部1段階	小学部2段階	小学部3段階
	コ 社会の仕組みと公共施設	コ 社会の仕組みと公共施設	コ 社会の仕組みと公共施設
学校	<p>3 校内探検等を通して、自分の教室や音楽室、図書室等に関心をもつ。</p> <p>4 教室や音楽室、図書室等の場所や名称を知る。</p> <p>5 担任の先生や保健室の先生等、自分に身近な先生が分かり、気持ちを安定させて生活する。</p>	<p>3 教室の名称や主な用途が分かる。</p> <p>4 学校で働く様々な人に関心をもつ。</p>	<p>4 学校で働く人の職業名と、およその役割が分かる。</p>
いろいろな店	<p>6 近隣や通学路にある店に関心をもつ。</p>	<p>5 いろいろな種類の店やそこで販売している商品に関心をもつ。</p>	<p>5 いろいろな種類の店の名前が言える。</p> <p>6 いろいろな種類の店で売っている商品の名前が言える。</p> <p>7 工場や農家で作っている物のおよその名前が言える。</p>
社会の様子	<p>7 学校や家の近所の商店や公園、駅等に出掛け、関心をもつ。</p>	<p>6 自分が住む町の公共施設やいろいろな商店、川や山、公園等の様子に関心を持ち、およその名称を知る。</p>	<p>8 自分が住む地域や隣接する市町村の名称が分かる。</p> <p>9 自分が住む地域や周辺の大きな川や商業地等のおよそが分かる。</p> <p>10 テレビや新聞、インターネット等を通して、身近な社会の出来事に関心をもつ。</p> <p>11 国民の祝日のおよその意味が分かる。</p>
公共施設の利用	<p>8 教師と一緒に、公園や図書館、駅等の身近な公共施設を利用する。</p> <p>9 電車やバス等を利用し、乗り降りするときには定期券を見せたり、現金で料金を支払うなど様々な方法があることを知る。</p> <p>10 通学の電車やバスに乗ることに慣れる。</p>	<p>7 教師の支援を受けて、図書館、体育館、児童館等の身近な公共施設を利用する。</p> <p>8 教師の支援を受けて、電車やバス等の切符を購入する。</p> <p>9 いろいろな交通機関がわかる。</p>	<p>12 警察署、消防署等を実際に訪問したり、見学したりして利用の仕方やおよその仕事の様子を知る。</p> <p>13 事故や火事の際は、警察署、消防署に知らせることが分かる。</p> <p>14 教師の支援を受けて、電車やバスの切符を自動券売機等で購入する。</p> <p>15 通学の電車やバスを一人で利用する。</p> <p>16 交通機関が遅延した際の対応方法が分かる。</p> <p>17 校外学習時の目的地までの交通機関がわかる。</p>

	小学部1段階 サ 生命・自然	小学部2段階 サ 生命・自然	小学部3段階 サ 生命・自然
自然との触れ合い	1 教師と一緒に公園や野山、川、海等で遊ぶ。 2 木の実や落ち葉、石や貝殻等を拾って遊ぶ。 3 蟻や蝶、かたつむり等を採ったり、見たりして遊ぶ。	1 木の実や落ち葉、石や貝殻等、拾ったものを使って遊ぶ。 2 身近にいる昆虫や、魚、貝等を見たり採ったりする。 3 蚊やはえ等の害虫に関心をもつ。	1 木の実や落ち葉等を集めたり、形や色などの特徴をつかんだり、植物の変化を捉えたりする。 2 蚊やはえ等の害虫を駆除する。
動物の飼育、植物の栽培	4 身近な小動物に関心をもつ。 5 草花に関心をもつ。	4 身近な小動物をかわいがり、生き物への興味や関心をもつ。 5 草花の種を蒔いたり、球根等を植えて育てる。	3 身近な昆虫や魚、小鳥等を観察したり、飼育したりする。 4 草花や野菜等を栽培し、観察する。 5 飼育や栽培では、タブレット端末等の情報機器を効果的に活用し、特徴や変化に関心をもって観察する。
季節の変化と生活	6 「おひさま」「おつきさま」「おほしさま」等に関心をもつ。 7 晴れや雨などの天候の変化に関心をもつ。	6 「太陽」「月」「星」等と昼夜との関わりに関心をもつ。 7 冬は寒く夏は暑い等の季節の特徴に関心をもつ。	6 太陽の出没の方角や月の満ち欠け等を観察する。 7 四季の変化に関心をもつ。 8 天気予報に関心をもつ。 9 台風に関心をもつ。 10 季節と行事の関係に関心をもつ。
	シ ものの仕組みと働き	シ ものの仕組みと働き	シ ものの仕組みと働き
物と重さ	1 物の重さに関心をもつ。 2 容器に入れた水の量の違いにより、「重い・軽い」という感覚を経験する。	1 物には重いものと軽いものがあることを知る。 2 天秤やばね秤、台秤といった道具を活用し、「重い・軽い」が視覚的に分かる。	1 粘土を広げたり、丸めたりするなどして物の形を変えても、重さは変わらないことを知る。
風やゴムの力の働き	3 風やゴムの力によって物が動く様子に関心をもつ。 4 かざぐるまや紙コップロケット等、風やゴムの力で動く簡単なおもちゃを作り、動く様子に関心をもつ。	3 風やゴムの力は、物を動かすことができることを知る。 4 色紙や色テープを使い、風によって起こる空気の流れに関心をもつ。	2 風やゴムの大きさを変えると、物が動く様子も変化することに関心をもつ。 3 ウインドカー等の風の力を利用したおもちゃを作り、風の強さが変わると動きも変わることを知る。

2 国 語

＜教科の目標＞
小学部

教科の目標	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で理解し表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
知識及び技能	(1) 日常生活に必要な国語について、その特質を理解し使うことができるようにする。
思考力、判断力、表現力等	(2) 日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を身に付け、思考力や想像力を養う。
学びに向かう力、人間性等	(3) 言葉で伝え合うよさを感じるとともに、言語感覚を養い、国語を大切にしてその能力の向上を図る態度を養う。

＜各段階の目標＞

	小学部1段階	小学部2段階	小学部3段階
知識及び技能	ア 日常生活に必要な身近な言葉が分かり使うようになるとともに、いろいろな言葉や我が国の言語文化に触れることができるようにする。	ア 日常生活に必要な身近な言葉を身に付けるとともに、いろいろな言葉や我が国の言語文化に触れることができるようにする。	ア 日常生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に触れ、親しむことができるようにする。
思考力、判断力、表現力等	イ 言葉をイメージしたり、言葉による関わりを受け止めたりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合い、自分の思いをもつことができるようにする。	イ 言葉が表す事柄を想起したり受け止めたりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合い、自分の思いをもつことができるようにする。	イ 出来事の順序を思い出す力や感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を身に付け、思い付いたり考えたりすることができるようにする。
学びに向かう力、人間性等	ウ 言葉で表すことやそのよさを感じるとともに、言葉を使おうとする態度を養う。	ウ 言葉がもつよさを感じるとともに、読み聞かせに親しみ、言葉でのやり取りを聞いたり伝えたりしようとする態度を養う。	ウ 言葉がもつよさを感じるとともに、図書に親しみ、思いや考えを伝えたり受け止めたりしようとする態度を養う。

＜内 容＞

	小学部1段階	小学部2段階	小学部3段階
知識及び技能	ア 言葉の特徴や使い方に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。	ア 言葉の特徴や使い方に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。	ア 言葉の特徴や使い方に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
	(ア) 身近な人の話し掛けに慣れ、言葉が事物の内容を表していることを感じる。	(ア) 身近な人の話し掛けや会話などの話し言葉に慣れ、言葉が、気持ちや要求を表していることを感じる。	(ア) 身近な人との会話や読み聞かせを通して、言葉には物事の内容を表す働きがあることに気付く。
	—	—	(イ) 姿勢や口形に気を付けて話すこと。
	—	(イ) 日常生活でよく使われている平仮名を読むこと。	(イ) 日常生活でよく使う促音、長音などが含まれた語句、平仮名、片仮名、漢字の正しい読み方を知ること。
	(イ) 言葉のもつ音やリズムに触れたり、言葉が表す事物やイメージに触れたりすること。	(イ) 身近な人との会話を通して、物の名前や動作など、いろいろな言葉の種類に触れること。	(イ) 言葉には、意味による語句のまとまりがあることに気付くこと。

	小学部1段階	小学部2段階	小学部3段階
知識及び技能	—	—	(オ) 文の中における主語と述語との関係や助詞の使い方により、意味が変わることを知ること。
	—	—	—
	—	—	(カ) 正しい姿勢で音読すること。
	—	—	イ 話や文章の中に含まれている情報の扱い方に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
	—	—	(フ) 物事の始めと終わりなど、情報と情報との関係について理解すること。
	—	—	(イ) 図書を用いた調べ方を理解し使うこと。
	イ 我が国の言語文化に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。	イ 我が国の言語文化に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。	ウ 我が国の言語文化に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
	(ア) 昔話などについて、読み聞かせを聞くなどして親しむこと。	(ア) 昔話や童謡の歌詞などの読み聞かせを聞いたり、言葉などを模倣したりするなどして、言葉の響きやリズムに親しむこと。	(ア) 昔話や神話・伝承などの読み聞かせを聞き、言葉の響きやリズムに親しむこと。
	(イ) 遊びを通して、言葉のもつ楽しさに触れること。	(イ) 遊びややり取りを通して、言葉による表現に親しむこと。	(イ) 出来事や経験したことを伝え合う体験を通して、いろいろな語句や文の表現に触れること。
	(ウ) 書くことに関する次の事項を理解し使うこと。 ㊦ いろいろな筆記具に触れ、書くことを知ること。 ㊧ 筆記具の持ち方や、正しい姿勢で書くことを知ること。	(ウ) 書くことに関する次の事項を理解し使うこと。 ㊦ いろいろな筆記具を用いて、書くことに親しむこと。 ㊧ 写し書きやなぞり書きなどにより、筆記具の正しい持ち方や書くときの正しい姿勢など、書写の基本を身に付けること。	(ウ) 書くことに関する次の事項を理解し使うこと。 ㊦ 目的に合った筆記具を選び、書くこと。 ㊧ 姿勢や筆記具の持ち方を正しくし、平仮名や片仮名の文字の形に注意しながら丁寧に書くこと。
	(エ) 読み聞かせに注目し、いろいろな絵本などに興味をもつこと。	(エ) 読み聞かせに親しんだり、文字を拾い読みしたりして、いろいろな絵本や図鑑などに興味をもつこと。	(エ) 読み聞かせなどに親しみ、いろいろな絵本や図鑑があることを知ること。

		小学部1段階	小学部2段階	小学部3段階
思考力・判断力・表現力等	A 聞くこと・話すこと	聞くこと・話すことに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。	聞くこと・話すことに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。	聞くこと・話すことに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
		ア 教師の話や読み聞かせに応じ、音声を模倣したり、表情や身振り、簡単な話し言葉などで表現したりすること。	ア 身近な人の話に慣れ、簡単な事柄と語句などを結び付けたり、語句などから事柄を思い浮かべたりすること。	ア 絵本の読み聞かせなどを通して、出来事など話の大体を聞き取ること。
		イ 身近な人からの話し掛けに注目したり、応じて答えたりすること。	イ 簡単な指示や説明を聞き、その指示等に応じた行動をすること。	—
		ウ 伝えたいことを思い浮かべ、身振りや音声などで表すこと。	ウ 体験したことなどについて、伝えたいことを考えること。	イ 経験したことを思い浮かべ、伝えたいことを考えること。
		—	—	ウ 見聞きしたことなどのあらましや自分の気持ちなどについて思い付いたり、考えたりすること。
		—	エ 挨拶をしたり、簡単な台詞などを表現したりすること。	エ 挨拶や電話の受け答えなど、決まった言い方を使うこと。
		—	—	オ 相手に伝わるよう、発音や声の大きさに気を付けること。
	B 書くこと	書くことに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。	書くことに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。	書くことに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
		ア 身近な人との関わりや出来事について、伝えたいことを思い浮かべたり、選んだりすること。	ア 経験したことのうち身近なことについて、写真などを手掛かりにして、伝えたいことを思い浮かべたり、選んだりすること。	ア 身近で見聞きしたり、経験したりしたことについて書きたいことを見付け、その題材に必要な事柄を集めること。
		—	—	イ 見聞きしたり、経験したりしたことから、伝えたい事柄の順序を考えること。
		イ 文字に興味をもち、書こうとすること。	イ 自分の名前や物の名前を文字で表すことができることを知り、簡単な平仮名をなぞったり、書いたりすること。	ウ 見聞きしたり、経験したりしたことについて、簡単な語句や短い文を書くこと。
		—	—	エ 書いた語句や文を読み、間違いを正すこと。
		—	—	オ 文などに対して感じたことを伝えること。
		—	—	—

		小学部1段階	小学部2段階	小学部3段階
思考力・判断力・表現力等 ○ 読むこと		読むことに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。	読むことに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。	読むことに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
	ア	教師と一緒に絵本などを見て、示された身近な事物や生き物などに気付き、注目すること。	教師と一緒に絵本などを見て、登場するものや動作などを思い浮かべること。	絵本や易しい読み物などを読み、挿絵と結び付けて登場人物の行動や場面の様子などを想像すること。
	イ	絵本などを見て、知っている事物や出来事などを指さしなどで表現すること。	教師と一緒に絵本などを見て、時間の経過などの大体を捉えること。	絵本や易しい読み物などを読み、時間的な順序など内容の大体を捉えること。
	ウ	絵や矢印などの記号で表された意味に応じ、行動すること。	日常生活でよく使われている表示などの特徴に気付き、読もうとしたり、表された意味に応じた行動をしたりすること。	日常生活で必要な語句や文、看板などを読み、必要な物を選んだり行動したりすること。
	エ	絵本などを見て、次の場面を楽しみにしたり、登場人物の動きなどを模倣したりすること。	絵本などを見て、好きな場面を伝えたり、言葉などを模倣したりすること。	登場人物になったつもりで、音読したり演じたりすること。
		—	—	—

<具体的内容>

		小学部1段階 知識及び技能	小学部2段階 知識及び技能	小学部3段階 知識及び技能
言葉の特徴や使い方に関する事項	1	日常生活や遊びの中で、声や音のする方に振り向いたり、耳を傾けたりする。	1 教師や友達など、生活の中で関わる様々な人の話し言葉に聞き慣れる。	1 教師や友達との会話や読み聞かせを通して、物事の内容を表す言葉の働きに関心をもつ。
2	教師の話し掛けに表情や身振りで応じる。	2 テレビやラジオなどの媒体を通じた音声の口調や速度に聞き慣れる。	2 背筋を伸ばし、落ち着いた気持ちで話す。	
3	教師の話し掛けに音声模倣などによる発声や発語で応じる。	3 言葉を用いることで、気持ちや要求が相手に伝わるのがわかる。	3 唇や舌などを適切に使って発音する。	
4	教師や友達と一緒に声を出したり、手を叩いたりして、言葉のもつ音やリズムに関心をもつ。	4 平仮名に関心をもつ。 5 平仮名で書かれた自分の名前がわかる。 6 平仮名で書かれた友達の名前がわかる。 7 平仮名で書かれた動物の名前がわかる。	4 絵本や易しい読み物、わらべ歌、テレビやコンピューターの画面に出てくる促音、長音等の含まれた語句や短い文を正しく読む。 5 平仮名を読む。 6 片仮名を読む。 7 簡単な漢字を読む。	

	小学部1段階 知識及び技能	小学部2段階 知識及び技能	小学部3段階 知識及び技能
言葉の特徴や使い方に関する事項		8 身近な人との会話の中で、物の名前や動作等、いろいろな種類の言葉を聞いたり、話したりする。	8 動物や果物の名前を表す語句や、色や形を表す語句など、相互に関係のある語句として意味によるまとまりがあることに興味をもつ。 9 2語文から3語文において、主語や助詞が変わることで、意味が変わることがわかる。 10 なるべく正しい姿勢で文章を読む。 11 なるべく明瞭な発音で文章を読む。 12 ひとまとまりの語や文として音読する。 13 言葉の響きやリズムなどに注意して音読する。
すい情報事に関する事項			1 物事の始めと終わりが分かる。 2 物事を順序立てて捉える。 3 図書を使用して物事を調べる。
我が国の言語文化に関する事項	1 昔話の読み聞かせを聞いたり、わらべ歌等に含まれる言葉の響きやリズムに興味をもったりする。 2 物語の一場面を簡単な言葉で唱えたり、動作化したりする。 3 呼びかけに対する応答遊びや音まね・声まね遊び等を通して、言葉の響きやリズムを楽しむ。 4 クレヨン、チョーク、筆、はけ、鉛筆、ボールペン、水性ペン、油性ペンを使って線などが書けることに興味をもつ。 5 筆記具の正しい持ち方や正しい姿勢を知る。 6 注目して読み聞かせを聞き、いろいろな絵本に興味をもつ。	1 昔話を基にした本や文章、童謡の歌詞等の読み聞かせを聞いたり、昔話の語り始めの一部を真似したりする。 2 わらべ歌遊びや、節を付けたり動きを合わせたりして行う遊びの中で、言葉による表現に親しむ。 3 チョークや鉛筆、フェルトペン、クレヨンなどいろいろな筆記具を用いて線を書く。 4 写し書きやなぞり書きなどで、文字の形を意識する。 5 筆記具の正しい持ち方や正しい姿勢に気を付けて書く。 6 いろいろな線を書く。 7 始点と終点を示し、線を書く。 8 いろいろな絵本や図鑑などに興味をもつ。	1 昔話や神話・伝承などの読み聞かせを聞いて、真似をしたり簡単な劇や音読を発表し合ったりする。 2 教師や友達が使ういろいろな語句や表現に慣れる。 3 読む相手や素材やマス目、行の大きさ、書く量などに合った筆記具を、教師の助言によって自分で選んで書く。 4 平仮名や片仮名の文字の形に注意し、相手に伝わるように、なるべく丁寧に書く。 5 図書には様々な種類があることを知る。

	小学部1段階 知識及び技能	小学部2段階 知識及び技能	小学部3段階 知識及び技能
我が国に関する事項文化に	<p>7 絵本の中の挿絵に注目して読み聞かせを聞く。</p> <p>8 紙芝居やペープサート、写真やビデオ等の映像教材に知っているものが出てくると、それを認めて反応する。</p>	<p>9 絵本の拾い読みをする。</p>	<p>6 過去に読み聞かせなどで見たことのある絵本や図鑑が分かり、読んでみようとする。</p>
	思考力・判断力・表現力等	思考力・判断力・表現力等	思考力・判断力・表現力等
A 聞くこと・話すこと	<p>1 教師の話し掛けや、絵本の挿絵などを手掛かりに、内容を大まかに把握する。</p> <p>2 教師の話し掛けや、絵本の挿絵などを手掛かりに、表情や身振り、簡単な話し言葉で応答する。</p> <p>3 教師や友達、家族など身近な人からの話し掛けに対し、相手に関心をもって見る。</p> <p>4 教師や友達、家族など身近な人からの話し掛けに対し、音声で模倣したり、返事をしたり、簡単な言葉で応じたりする。</p> <p>5 写真を手掛かりに、思いや考えを指さしや表情、身振りで伝える。</p> <p>6 写真を手掛かりに、思いや考えを音声で伝える。</p>	<p>1 身近な人との言葉を用いたやり取りの中で、意味や言葉から連想されるイメージを思い浮かべる。</p> <p>2 「図書室に絵本を返す。」「荷物を出してから、カバンをしまおう。」など3～4語文が分かる。</p> <p>3 3～4語文の簡単な指示を聞き、行動することができる。</p> <p>4 映像や写真などを手掛かりに、相手に伝えたいことを自分の知っている言葉に当てはめようとしたり、表そうとしたりする。</p> <p>5 友達の発表を聞いて、「自分と同じ」や「自分と違う」に関心をもつ。</p> <p>6 日常生活における挨拶や、遊びに必要な言葉のやり取りに慣れる。</p> <p>7 物語などの一場面を取り上げて、友達と一緒に簡単な台詞のある劇をする。</p>	<p>1 絵本の読み聞かせなどを聞いて、おおよその内容が分かる。</p> <p>2 絵や写真などを手掛かりに経験したことを振り返り、伝えたいことを考える。</p> <p>3 見聞きしたことのあらましや、自分の気持ち、物事の話す順番などについて、伝えたいことを考える。</p> <p>4 教師や友達の話聞き、自分の思いや意見を発表する。</p> <p>5 電話の受け答えが分かり、身近な人と話をする。</p> <p>6 なるべく正しい発音で話す。</p> <p>7 距離や場面に応じ、声の大きさに気を付けて話す。</p>

	小学部1段階 思考力・判断力・表現力等	小学部2段階 思考力・判断力・表現力等	小学部3段階 思考力・判断力・表現力等
B 書くこと	<p>1 経験したことを絵や写真などから選んで指さしをしたり、身振り等で表現したりする。</p> <p>2 教師が文字を書く様子を見る。</p> <p>3 身の回りの様々な文字に指さしをする。</p> <p>4 クレヨン、チョーク、筆、はけ、鉛筆、ボールペン、水性ペン、油性ペンなど様々な筆記具を使ってなぐり書きをする。</p>	<p>1 経験したことを具体物や絵、写真などを手掛かりに、思い出したり、考えたり、言葉で表そうとしたりする。</p> <p>2 文字を書くことに興味・関心をもつ。</p> <p>3 具体物や絵、写真等と、単語や文字カードを一致させる。</p> <p>4 点線の上をなぞって書く。</p> <p>5 簡単な図形をまねて書く。</p> <p>6 鉛筆などを正しく持ち、正しい姿勢で書く。</p> <p>7 平仮名の簡単な語句を見て書き写す。</p> <p>8 自分の名前を平仮名で書く。</p> <p>9 物の名前を平仮名で書く。</p>	<p>1 見聞きしたことや経験したことなどを思い出して、ノートやカードに書き出す。</p> <p>2 見聞きしたことや経験したことなどについて、できるだけ順序立てて書けるように、順番を考える。</p> <p>3 簡単な語句や短い文を、平仮名で書く。</p> <p>4 簡単な絵日記を書く。</p> <p>5 自分の名前などを、漢字で書く。</p> <p>6 外国の地名や人名、学習用具（ノート、クレヨン）や給食の献立（パン、カレー）など、日常生活で見聞きする片仮名を書く。</p> <p>7 長音、拗音、促音、撥音などの表記や助詞の使い方が分かる。</p> <p>8 書かれた文について、不明な点を教師に質問する。</p>
C 読むこと	<p>1 絵本や紙芝居などに出てくる身近な事物や生き物などを興味をもって見る。</p> <p>2 絵本や紙芝居などに知っている事物や出来事が出てくると、その対象に指さしをしたり、視線を向ける。</p>	<p>1 好きな絵本の絵や題名を見て、どのような登場人物が出てくるか、場面の様子や行動等について、言葉や身振り等で表す。</p> <p>2 「はじめ」や「さいご」といった言葉を使用し、時間の経過のおおよそを捉える。</p>	<p>1 絵本や易しい読み物について、挿絵を手掛かりに、登場人物の行動や場面の様子などを想像する。</p> <p>2 絵本や易しい読み物について、挿絵を並び替えたり、簡単な小見出しを付ける活動を通して、書かれている内容のおおよそを捉える。</p>

	小学部1段階 思考力・判断力・表現力等	小学部2段階 思考力・判断力・表現力等	小学部3段階 思考力・判断力・表現力等
C 読むこと	<p>3 場所を表す絵や写真から自分の行きたい場所を一つ選ぶ。</p> <p>4 「×」という記号を見て自分の行動を抑制する。</p> <p>5 絵本を見聞きし、言葉のもつ音やリズムを楽しみながら模倣する。</p>	<p>3 校内や登下校等で見かけるシンボルマークや標識の意味が分かり、それに応じた行動をする。</p> <p>4 絵本や自分自身の経験から、好きな場面を教師や友達に伝えたり、好きな言葉を模倣したりする。</p>	<p>3 家庭や学校、地域での生活に必要なきまりや立て札、標識の文字を読んだり、記号や絵が何を表しているかを知り、それに応じた行動をしたりする。</p> <p>4 読み物を音読したり、演じたりして楽しむ。</p> <p>5 学習用具（ノート、クレヨン）や給食の献立（パン、カレー）など、日常生活で見聞きする片仮名を読む。</p> <p>6 自分の名前や曜日、漢数字等の簡単な漢字を読む。</p> <p>7 ローマ字で表記されたお店やお菓子の名前などに関心をもつ。</p>

3 算数

<教科の目標>

小学部	
教科の目標	数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
知識及び技能	(1) 数量や図形などについての基礎的・基本的な概念や性質などに気付き理解するとともに、日常の事象を数量や図形に注目して処理する技能を身に付けるようにする。
思考力、判断力、表現力	(2) 日常の事象の中から数量や図形を直感的に捉える力、基礎的・基本的な数量や図形の性質などに気付き感じ取る力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表したり柔軟に表したりする力を養う。
学びに向かう力、人間性等	(3) 数学的活動の楽しさに気付き、関心や興味をもち、学習したことを結び付けてよりよく問題を解決しようとする態度、算数で学んだことを学習や生活に活用しようとする態度を養う。

<各段階の目標>

		小学部1段階	小学部2段階	小学部3段階
知識及び技能	A 数量の基礎	ア 身の回りのものに気付き、対応させたり、組み合わせたりすることなどについての技能を身に付けるようにする。	—	—
	A 数と計算 (1段階はB)	ア ものの有無や3までの数的要素に気付き、身の回りのものの数に関心をもって関わることについての技能を身に付けるようにする。	ア 10までの数の概念や表し方について分かり、数についての感覚をもつとともに、ものと数との関係に関心をもって関わることについての技能を身に付けるようにする。	ア 100までの数の概念や表し方について理解し、数に対する感覚を豊かにするとともに、加法、減法の意味について理解し、これらの簡単な計算ができるようにすることについての技能を身に付けるようにする。
	B 図形 (1段階はC)	ア 身の回りのものの上下や前後、形の違いに気付き、違いに応じて関わることについての技能を身に付けるようにする。	ア 身の回りのものの形に着目し、集めたり、分類したりすることを通して、図形の違いが分かるようにするための技能を身に付けるようにする。	ア 身の回りのものの形の観察などを通して、図形についての感覚を豊かにするとともに、ものについて、その形の合同、移動、位置、機能及び角の大きさの意味に関わる基礎的な知識を理解することなどについての技能を身に付けるようにする。
	C 測定 (1段階はD)	ア 身の回りにあるものの量の大きさに気付き、量の違いについての感覚を養うとともに、量に関わることについての技能を身に付けるようにする。	ア 身の回りにある具体物の量の大きさに注目し、量の大きさの違いが分かるとともに、二つの量の大きさを比べることについての技能を身に付けるようにする。	ア 身の回りにある長さや体積などの量の単位と測定の意味について理解し、量の大きさについての感覚を豊かにするとともに、測定することなどについての技能を身に付けるようにする。
	C 変化と関係	—	—	—
	D データの活用	—	ア 身の回りのものや身近な出来事をつながりに関心をもち、それを簡単な絵や記号などを用いた表やグラフで表したり、読み取ったりする方法についての技能を身に付けるようにする。	ア 身の回りにある事象を、簡単な絵や図を用いて整理したり、記号に置き換えて表したりしながら、読み取り方について理解することについての技能を身に付けるようにする。

		小学部1段階	小学部2段階	小学部3段階
思考力、判断力、表現力等	A 数量の基礎	イ 身の回りにあるもの同士を対応させたり、組み合わせたりするなど、数量に関心をもって関わる力を養う。	—	—
	A 数と計算(1段階はB)	イ 身の回りのものの有無や数的要素に注目し、数を直感的に捉えたり、数を用いて表現したりする力を養う。	イ 日常生活の事象について、ものの数に着目し、具体物や図などを用いながら数の数え方を考え、表現する力を養う。	イ 日常の事象について、ものの数に着目し、具体物や図などを用いながら数の数え方や計算の仕方を考え、表現する力を養う。
	B 図形(1段階はC)	イ 身の回りのものの形に注目し、同じ形を捉えたり、形の違いを捉えたりする力を養う。	イ 身の回りのものの形に関心をもち、分類したり、集めたりして形の性質に気付く力を養う。	イ 身の回りのものの形に着目し、ぴったり重なる形、移動、ものの位置及び機能的な特徴等について具体的に操作をして考える力を養う。
	C 測定(1段階はD)	イ 身の回りにあるものの大きさや長さなどの量の違いに注目し、量の大きさにより区別する力を養う。	イ 量に着目し、二つの量を比べる方法が分かり、一方を基準にして他方と比べる力を養う。	イ 身の回りにある量の単位に着目し、目的に応じて量を比較したり、量の大小及び相等関係を表現したりする力を養う。
	C 変化と関係	—	—	—
	D データの活用	—	イ 身の回りのものや身近な出来事につながりなどの共通の要素に着目し、簡単な表やグラフで表現する力を養う。	イ 身の回りの事象を、比較のために簡単な絵や図に置き換えて簡潔に表現したり、データ数を記号で表現したりして、考える力を養う。
	A 数量の基礎	ウ 数量や図形に気付き、算数の学習に関心をもって取り組もうとする態度を養う。	—	—
	A 数と計算(1段階はB)	ウ 数量に気付き、算数の学習に関心をもって取り組もうとする態度を養う。	ウ 数量に関心を持ち、算数で学んだことの楽しさやよさを感じながら興味をもって学ぶ態度を養う。	ウ 数量の違いを理解し、算数で学んだことのよさや楽しさを感じながら学習や生活に活用しようとする態度を養う。
	B 図形(1段階はC)	ウ 図形に気付き、算数の学習に関心をもって取り組もうとする態度を養う。	ウ 図形に関心を持ち、算数で学んだことの楽しさやよさを感じながら興味をもって学ぶ態度を養う。	ウ 図形や数量の違いを理解し、算数で学んだことのよさや楽しさを感じながら学習や生活に活用しようとする態度を養う。
	C 測定(1段階はD)	ウ 数量や図形に気付き、算数の学習に関心をもって取り組もうとする態度を養う。	ウ 数量や図形に関心を持ち、算数で学んだことの楽しさやよさを感じながら興味をもって学ぶ態度を養う。	ウ 数量や図形の違いを理解し、算数で学んだことのよさや楽しさを感じながら学習や生活に活用しようとする態度を養う。
C 変化と関係	—	—	—	
D データの活用	—	ウ 数量や図形に関心を持ち、算数で学んだことの楽しさやよさを感じながら興味をもって学ぶ態度を養う。	ウ 数量や図形の違いを理解し、算数で学んだことのよさや楽しさを感じながら学習や生活に活用しようとする態度を養う。	
学びに向かう力、人間性等	A 数量の基礎	イ 身の回りにあるもの同士を対応させたり、組み合わせたりするなど、数量に関心をもって関わる力を養う。	—	—
	A 数と計算(1段階はB)	イ 身の回りのものの有無や数的要素に注目し、数を直感的に捉えたり、数を用いて表現したりする力を養う。	イ 日常生活の事象について、ものの数に着目し、具体物や図などを用いながら数の数え方を考え、表現する力を養う。	イ 日常の事象について、ものの数に着目し、具体物や図などを用いながら数の数え方や計算の仕方を考え、表現する力を養う。
	B 図形(1段階はC)	イ 身の回りのものの形に注目し、同じ形を捉えたり、形の違いを捉えたりする力を養う。	イ 身の回りのものの形に関心をもち、分類したり、集めたりして形の性質に気付く力を養う。	イ 身の回りのものの形に着目し、ぴったり重なる形、移動、ものの位置及び機能的な特徴等について具体的に操作をして考える力を養う。
	C 測定(1段階はD)	イ 身の回りにあるものの大きさや長さなどの量の違いに注目し、量の大きさにより区別する力を養う。	イ 量に着目し、二つの量を比べる方法が分かり、一方を基準にして他方と比べる力を養う。	イ 身の回りにある量の単位に着目し、目的に応じて量を比較したり、量の大小及び相等関係を表現したりする力を養う。
	C 変化と関係	—	—	—
	D データの活用	—	イ 身の回りのものや身近な出来事につながりなどの共通の要素に着目し、簡単な表やグラフで表現する力を養う。	イ 身の回りの事象を、比較のために簡単な絵や図に置き換えて簡潔に表現したり、データ数を記号で表現したりして、考える力を養う。
	A 数量の基礎	ウ 数量や図形に気付き、算数の学習に関心をもって取り組もうとする態度を養う。	—	—
	A 数と計算(1段階はB)	ウ 数量に気付き、算数の学習に関心をもって取り組もうとする態度を養う。	ウ 数量に関心を持ち、算数で学んだことの楽しさやよさを感じながら興味をもって学ぶ態度を養う。	ウ 数量の違いを理解し、算数で学んだことのよさや楽しさを感じながら学習や生活に活用しようとする態度を養う。
	B 図形(1段階はC)	ウ 図形に気付き、算数の学習に関心をもって取り組もうとする態度を養う。	ウ 図形に関心を持ち、算数で学んだことの楽しさやよさを感じながら興味をもって学ぶ態度を養う。	ウ 図形や数量の違いを理解し、算数で学んだことのよさや楽しさを感じながら学習や生活に活用しようとする態度を養う。
	C 測定(1段階はD)	ウ 数量や図形に気付き、算数の学習に関心をもって取り組もうとする態度を養う。	ウ 数量や図形に関心を持ち、算数で学んだことの楽しさやよさを感じながら興味をもって学ぶ態度を養う。	ウ 数量や図形の違いを理解し、算数で学んだことのよさや楽しさを感じながら学習や生活に活用しようとする態度を養う。
C 変化と関係	—	—	—	
D データの活用	—	ウ 数量や図形に関心を持ち、算数で学んだことの楽しさやよさを感じながら興味をもって学ぶ態度を養う。	ウ 数量や図形の違いを理解し、算数で学んだことのよさや楽しさを感じながら学習や生活に活用しようとする態度を養う。	

<内 容>

	小学部1段階	小学部2段階	小学部3段階
A 数量の基礎	ア 具体物に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	—	—
	(ア) 次のような知識及び技能を身に付けること。 ㉞ 具体物に気付いて指を差したり、つかもうとしたり、目で追ったりすること。 ㉟ 目の前で隠されたものを探したり、身近にあるものや人の名を聞いて指を差したりすること。	—	—
	(イ) 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。 ㉞ 対象物に注意を向け、対象物の存在に注目し、諸感覚を協応させながら捉えること。	—	—
	イ ものともとの対応させることに関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	—	—
	(ア) 次のような知識及び技能を身に付けること。 ㉞ ものともとの対応させて配ること。 ㉟ 分割した絵カードを組み合わせること。 ㊱ 関連の深い絵カードを組み合わせること。	—	—
	(イ) 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。 ㉞ ものともとの関連付けることに注意を向け、ものの属性に注目し、仲間であることを判断したり、表現したりすること。	—	—
A 数と計算（1段階はB）	ア 数えることの基礎に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	ア 10までの数の数え方や表し方、構成に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	ア 100までの整数の表し方に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
	(ア) 次のような知識及び技能を身に付けること。 ㉞ ものの有無に気付くこと。 ㉟ 目の前のものを、1個、2個、たくさんで表すこと。 ㊱ 5までの範囲で数唱をすること。 ㊲ 3までの範囲で具体物を取ること。 ㊳ 対応させてものを配ること。 ㊴ 形や色、位置が変わっても、数は変わらないことについて気付くこと。	(ア) 次のような知識及び技能を身に付けること。 ㉞ ものともとの対応させることによって、ものの個数を比べ、同等・多少が分かること。 ㉟ ものの集まりと対応して、数詞が分かること。 ㊱ ものの集まりや数詞と対応して数字が分かること。	(ア) 次のような知識及び技能を身に付けること。 ㉞ 20までの数について、数詞を唱えたり、個数を数えたり書き表したり、数の大小を比べたりすること。 ㉟ 100までの数について、数詞を唱えたり、個数を数えたり書き表したり、数の系列を理解したりすること。 ㊱ 数える対象を2ずつや5ずつのまとまりで数えること。

	小学部1段階	小学部2段階	小学部3段階
		<ul style="list-style-type: none"> ㊸ 個数を正しく数えたり書き表したりすること。 ㊹ 二つの数を比べて数の大小が分かること。 ㊺ 数の系列が分かり、順序や位置を表すのに数を用いること。 ㊻ 0の意味について分かること。 ㊼ 一つの数を二つの数に分けたり、二つの数を一つの数にまとめたりして表すこと。 ㊽ 具体的な事物を加えたり、減らしたりしながら集合数を一つの数と他の数と関係付けてみること。 ㊾ 10の補数が分かること。 	<ul style="list-style-type: none"> ㊿ 数を10のまとまりとして数えたり、10のまとまりと端数に分けて数えたり書き表したりすること。 ㊽ 具体物を分配したり等分したりすること。
A 数と計算（1段階はB）	<p>(イ) 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。</p> <p>㊿ 数詞とものとの関係に注目し、数のまとまりや数え方に気付き、それらを学習や生活で生かすこと。</p>	<p>(イ) 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。</p> <p>㊿ 数詞と数字、ものとの関係に着目し、数の数え方や数の大きさの比べ方、表し方について考え、それらを学習や生活で興味をもって生かすこと。</p>	<p>(イ) 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。</p> <p>㊿ 数のまとまりに着目し、数の数え方や数の大きさの比べ方、表し方について考え、学習や生活で生かすこと。</p>
	—	—	イ 整数の加法及び減法に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
	—	—	<p>(ア) 次のような知識及び技能を身に付けること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ㊿ 加法が用いられる合併や増加等の場合について理解すること。 ㊽ 加法が用いられる場面を式に表したり、式を読み取ったりすること。 ㊼ 1位数と1位数との加法の計算ができること。 ㊻ 1位数と2位数との和が20までの加法の計算ができること。 ㊺ 減法が用いられる求残や減少等の場合について理解すること。 ㊹ 減法が用いられる場面を式に表したり、式を読み取ったりすること。 ㊸ 20までの数の範囲で減法の計算ができること。

	小学部1段階	小学部2段階	小学部3段階
A 数と計算 (1段階はB)	—	—	(イ) 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。 (㉗) 日常の事象における数量の関係に着目し、計算の意味や計算の仕方を見付け出したり、学習や生活で生かしたりすること。
B 図形 (1段階はC)	ア ものの類別や分類・整理に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	ア ものの分類に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	ア 身の回りにあるものの形に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
	(ア) 次のような知識及び技能を身に付けること。 (㉗) 具体物に注目して指を差したり、つかもうとしたり、目で追ったりすること。 (㉘) 形を観点に区別すること。 (㉙) 形が同じものを選ぶこと。 (㉚) 似ている二つのものを結び付けること。 (㉛) 関連の深い一対のものや絵カードを組み合わせること。 (㉜) 同じもの同士の集合づくりをすること。	(ア) 次のような知識及び技能を身に付けること。 (㉗) 色や形、大きさに着目して分類すること。 (㉘) 身近なものを目的、用途及び機能に着目して分類すること。	(ア) 次のような知識及び技能を身に付けること。 (㉗) ものの形に着目し、身の回りにあるものの特徴を捉えること。 (㉘) 具体物を用いて形を作ったり分解したりすること。 (㉙) 前後、左右、上下など方向や位置に関する言葉を用いて、ものの位置を表すこと。
	(イ) 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。 (㉗) 対象物に注意を向け、対象物の存在に気付き、諸感覚を協応させながら具体物を捉えること。 (㉘) ものの属性に着目し、様々な情報から同質なものや類似したものに気付き、日常生活の中で関心をもつこと。 (㉙) ものともとの関係に注意を向け、ものの属性に気付き、関心をもって対応しながら、表現する仕方を見付け出し、日常生活で生かすこと。	(イ) 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。 (㉗) ものを色や形、大きさ、目的、用途及び機能に着目し、共通点や相違点について考えて、分類する方法を日常生活で生かすこと。	(イ) 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。 (㉗) 身の回りにあるものから、いろいろな形を見付けたり、具体物を用いて形を作ったり分解したりすること。 (㉘) 身の回りにあるものの形を図形として捉えること。 (㉙) 身の回りにあるものの形の観察などをして、ものの形を認識したり、形の特徴を捉えたりすること。

	小学部1段階	小学部2段階	小学部3段階
B 図形（1段階はC）	—	イ 身の回りにあるものの形に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	イ 角の大きさに関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
	—	(ア) 次のような知識及び技能を身に付けること。 ㉞ 身の回りにあるものの形に関心をもち、丸や三角、四角という名称を知ること。 ㉟ 縦や横の線、十字、△や□をかくこと。 ㊱ 大きさや色など属性の異なるものであっても形の属性に着目して、分類したり、集めたりすること。	(ア) 次のような知識及び技能を身に付けること。 ㉞ 傾斜をつくると角ができることを理解すること。
	—	(イ) 次のような思考力・判断力・表現力等を身に付けること。 ㉞ 身の回りにあるものの形に関心を向け、丸や三角、四角を考えながら分けたり、集めたりすること。	(イ) 次のような思考力・判断力・表現力等を身に付けること。 ㉞ 傾斜が変化したときの斜面と底面の作り出す開き具合について、大きい・小さいと表現すること。
C 測定（1段階はD）	ア 身の回りにある具体物のもつ大きさに関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	ア 身の回りにある具体物の量の大きさに注目し、二つの量の大きさに関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	ア 身の回りのものの量の単位と測定に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
	(ア) 次のような知識及び技能を身に付けること。 ㉞ 大きさや長さなどを、基準に対して同じか違うかによって区別すること。 ㉟ ある・ない、大きい・小さい、多い・少ない、などの用語に注目して表現すること。	(ア) 次のような知識及び技能を身に付けること。 ㉞ 長さ、重さ、高さ及び広さなどの量の大きさが分かること。 ㉟ 二つの量の大きさについて、一方を基準にして相対的に比べること。 ㊱ 長い・短い、重い・軽い、高い・低い及び広い・狭いなどの用語が分かること。	(ア) 次のような知識及び技能を身に付けること。 ㉞ 長さ、広さ、かさなどの量を直接比べる方法について理解し、比較すること。 ㉟ 身の回りにあるものの大きさを単位として、その幾つかで大きさを比較すること。
	(イ) 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。 ㉞ 大小や多少等で区別することに関心をもち、量の大きさを表す用語に注目して表現すること。	(イ) 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。 ㉞ 長さ、重さ、高さ及び広さなどの量を、一方を基準にして比べることに関心をもち、量の大きさを用語を用いて表現したりすること。	(イ) 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。 ㉞ 身の回りのものの長さ、広さ及びかさについて、その単位に着目して大小を比較したり、表現したりすること。

	小学部1段階	小学部2段階	小学部3段階
C 測定（1段階はD）	—	—	イ 時刻や時間に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
	—	—	(ア) 次のような知識及び技能を身に付けること。 ㊦ 日常生活の中で時刻を読むこと。 ㊧ 時間の単位（日、午前、午後、時、分）について知り、それらの関係を理解すること。
	—	—	(イ) 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。 ㊦ 時刻の読み方を日常生活に生かして、時刻と生活を結び付けて表現すること。
C 変化と関係	—	—	—
D データの活用	—	ア ものの分類に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	ア 身の回りにある事象を簡単な絵や図、記号に置き換えることに関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
	—	(ア) 次のような知識及び技能を身に付けること。 ㊦ 身近なものを目的、用途、機能に着目して分類すること。	(ア) 次のような知識及び技能を身に付けること。 ㊦ ものともとの対応やものの個数について、簡単な絵や図に表して整理したり、それらを読んだりすること。 ㊧ 身の回りにあるデータを簡単な記号に置き換えて表し、比較して読み取ること。
	—	(イ) 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。 ㊦ 身近なものの色や形、大きさ、目的及び用途等に関心を向け、共通点や相違点を考えながら、興味をもって分類すること。	(イ) 次のような思考力・判断力・表現力等を身に付けること。 ㊦ 個数の把握や比較のために簡単な絵や図、記号に置き換えて簡潔に表現すること。

	小学部1段階	小学部2段階	小学部3段階
D データの活用	—	イ 同等と多少に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	—
	—	(ア) 次のような知識及び技能を身に付けること。 ⑦ ものともとの対応させることによって、ものの同等や多少が分かること。	—
	—	(イ) 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。 ⑦ 身の回りにあるものの個数に着目して絵グラフなどに表し、多少を読み取って表現すること。	—
	—	ウ ○×を用いた表に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	—
	—	(ア) 次のような知識及び技能を身に付けること。 ⑦ 身の回りの出来事から○×を用いた簡単な表を作成すること。 ⑧ 簡単な表で使用する○×の記号の意味が分かること。	—
	—	(イ) 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。 ⑦ 身の回りの出来事を捉え、○×を用いた簡単な表で表現すること。	—
(数学的活動)	ア 内容の「A数量の基礎」、「B数と計算」、「C図形」及び「D測定」に示す学習については、次のような数学的活動に取り組むものとする。	ア 内容の「A数と計算」、「B図形」、「C測定」及び「Dデータの活用」に示す学習については、次のような数学的活動に取り組むものとする。	ア 内容の「A数と計算」、「B図形」、「C測定」及び「Dデータの活用」に示す学習については、次のような数学的活動に取り組むものとする。
	(ア) 身の回りの事象を観察したり、具体物を操作したりして、数量や形に関わる活動	(ア) 身の回りの事象を観察したり、具体物を操作したりする活動	(ア) 身の回りの事象を観察したり、具体物を操作したりして、算数に主体的に関わる活動
	(イ) 日常生活の問題を取り上げたり算数の問題を具体物などを用いて解決したりして、結果を確かめる活動	(イ) 日常生活の問題を具体物などを用いて解決したり、結果を確かめたりする活動	(イ) 日常生活の事象から見いだした算数の問題を、具体物、絵図、式などを用いて解決し、結果を確かめる活動
	—	(ウ) 問題解決した過程や結果を、具体物などを用いて表現する活動	(ウ) 問題解決した過程や結果を、具体物や絵図、式などを用いて表現し、伝え合う活動

＜具体的内容＞

	小学部1段階	小学部2段階	小学部3段階
A 数量の基礎	1 具体物の「ある」、「ない」が分かる。 2 具体物を指したり、つかもうとする。 3 目の前で隠されたものを探す。 4 身近にあるものや人の名前を聞いて、そのものを見る。 5 身近にあるものや人の名前を聞いて、そのものを指差す。 6 身近にあるものや人の名前を聞いて、そのものに触れる。 7 身近にあるものや人の名前を聞いて、そのものを取り上げる。 8 盆や皿などを一人に一つずつ配る。 9 分割した絵カードを組み合わせる。 10 キリンとゾウ、みかんとバナナなど、関連の深い絵カードを組み合わせる。		
A 数と計算（1段階はB）	1 お皿にのせた具体物を1個ずつ別の容器に入れていき、具体物の数が減少していくこと、お皿の中の具体物がなくなることが分かる。 2 具体物の数を1個、2個、たくさんで表現する。 3 数の唱え方に関心を持ち、5までの範囲で数を唱える。（4は「し」と唱えることを基本とする。「よん」の読み方は2段階で学習する。） 4 3までの範囲で、問われた数の具体物をとる。 5 3までの範囲で、数に対応させて物を配る。 6 りんごの「3個」も、積み木の「3個」も同じ「3」で表すことが分かる。 7 具体物の位置や置き方を変えても、数は変わらないことが分かる。	1 10までの範囲で、1対1の対応により、数の多少が分かり、多い方（少ない方）を指差す。 2 10までの範囲で、数詞ともを対応させて個数を正しく数え、最後の数詞を集合数として表す。 3 10までの範囲で、雑然としたものを整理して数える。 4 10までの範囲で、指差しをせずに目で追いながら数える。 5 10までの範囲で、いろいろなものの中から仲間集めをして数える。	1 20までの範囲で、数唱したり、個数を数えたり書き表したり、数の大きさを比べたりする。 2 100までの範囲で、数唱したり、個数を数えたり書き表したりする。 3 数を2ずつ、5ずつ、10ずつなどのまとまりで数える。

	小学部1段階	小学部2段階	小学部3段階
A 数と計算（1段階はB）		<p>6 10までの範囲で、ものの個数を正しく数えたり書き表したりする。</p> <p>7 10までの範囲で、二つの数を比べ、数の大小が分かる。</p> <p>8 「1, 2, 3, 4, 5, …」のように、1から順に数が並んでいることが分かる。</p> <p>9 輪投げなどのゲームにおいて得点がない場合や、手元の輪がなくなるなどの体験から、何も「ない」状態を「0」で表すことが分かる。</p>	<p>4 数を10のまとまりと端数に分けて数えたり、書き表したりする。</p> <p>5 具体物を同じ数になるように分配したり、1つを等分したりする。</p> <p>6 10までの数の合成、分解をする。</p> <p>7 加法を用いる場合が分かり、1位数と1位数との加法の計算ができる。</p> <p>8 減法を用いる場合が分かり、繰り下がりのない減法など、初歩的な計算をする。</p> <p>9 記号（+、-、=）を用いて式に表したり、式を読み取ったりする。</p>
B 図形（1段階はC）	<p>1 玩具の中から興味のあるものを取り出す。</p> <p>2 身近なものを利用したスタンプ遊びや型抜きなどを通して形に関心をもつ。</p> <p>3 形に着目したり、同じ形を選ぶ。</p> <p>4 形に着目し、「おなじ」、「ちがう」で区別したり、似ているものを集めたりする。</p>	<p>1 身の回りにあるものを色や形、大きさなどで分類する。</p> <p>2 身近なものを目的や用途などで分類する。（皿やコップ、スプーンなど普段使用している食器類を「食べるときに使うもの」、「飲むときに使うもの」で分けたり、「食べ物をのせるために使うもの」、「飲み物や汁物を入れるために使うもの」で分けたりすること）</p> <p>3 丸、三角、四角という名称を言ったり、指を差したりする。</p> <p>4 身の回りにある具体物（例えば、時計、皿、サンドイッチ、標識、本、ノートなど）の形に着目し、「丸の仲間」、「三角の仲間」、「四角の仲間」で分類する。</p>	<p>1 身の回りにある具体物（タイルや敷石の敷き詰めなど）の中から、丸、三角、四角を見つけて、角があることや、角の個数などの形状の特徴を捉える。</p>

	小学部1段階	小学部2段階	小学部3段階
B 図形（1段階はC）	5 身の回りのものには上下や前後、形の違いがあることに興味をもつ。	5 縦や横の線，十字，△や□をか く。	2 積み木や箱などの立体を用いて、身の回りにある具体物の形を作ったり、色板等を組み合わせたり点を結んで身の回りにあるものの形を作ったりする。 3 積み木や箱などの立体や色板等を用いて作った形から、三角や四角などを見つける。 4 前後、左右、上下などが分かり、ものの位置を言い表す。 5 傾斜をつくって物を転がしたり、滑らせたりする活動を通して、傾斜をつくると角ができることが分かる。 6 傾斜によって角の大きさを変化させられることに気づき、角の大きさを「大きい」、「小さい」などの用語を使って表現する。
C 測定（1段階はD）	1 身の回りにある具体物のもつ量の大きさに関心をもち、二つの量がある・ない、大きい・小さい、多い・少ないなどの用語を用いて区別する。	1 長さ、重さ、高さ及び広さなどの量に関心をもち、二つの量を比べ、その結果について長い・短い、重い・軽い、高い・低い及び広い・狭いなどの用語を用いて表現する。	1 長さを比べるときに、一方の端を揃えて、他方の端の位置によって長い・短いについて直接比べる直接比較や、長さを紙テープ等に置き換えて長さを比較する間接比較が分かる。 2 机の縦と横の長さを、鉛筆の長さの幾つ分かに置き換えて、どちらが幾つ分長いかを比べる。 3 同じ数値であっても、単位とする量の大きさを見て大小を考えたり、違う数値であっても、単位の大きさによって同じ大きさがあることが分かる。 4 正時を示すアナログ時計の短針と長針の位置を読み取る。 5 時は短針で決まること、分は長針で決まることを知り、アナログ時計で大体の時刻を読む。 6 時間の単位（日、午前、午後、時、分）が分かる。 7 日課表を読んだり、作ったりすることや、日常生活における時間についての計画を立てるなど、生活の中で時刻に関心をもつ。

	小学部1段階	小学部2段階	小学部3段階
D データの活用		<p>1 身の回りにある具体物を色や形、大きさに加えて、目的や用途等の属性の中から、共通点や相違点を考えながら分類する。</p> <p>2 身の回りにある具体物を題材にし、コップと歯ブラシなどの「粗になるもの」を結びつけて1対1の対応をし、数の同等や多少が分かる。</p> <p>3 給食の配膳やプリント配布等で、「足りない」、「余っている」といった多少や「同じ」といった同等が分かる。</p> <p>4 的当てゲーム等の活動の中で、当たったら○、当たらなかったら×など、簡単な記号を用いた表を作成し、記号の意味を理解したり、記入したりする。</p>	<p>1 ものの個数に着目し、数えたり比べたりする際に、簡単な絵や図に表して整理する。(あひる、ねこ、うさぎなどの幾つかの種類のものについて、種類ごとに分類したり、整頓して並べたりしながら、数の大小を比べる等)</p> <p>2 天気調べ等の日常生活に関連する記録方法やボウリング遊び等のゲーム結果などを簡単な記号を用いた表で表し、数を数えたり、「～より多い、少ない」や「～と同じ」などと比較したりする。</p>
(数学的活動)	<p>1 見たり、触れたりするなど視覚や触覚等で判断し、表現する。</p> <p>2 生活の中で、人に対応させて同数の具体物を配り、1対1に対応させることで、全体に配ることができるよさを味わったり、手元に具体物がなくなったという事実で確かめたりする。</p>	<p>1 生活の中で、ものの個数を比較する際に、数えなくても1対1に対応させることで多少を知ることができたり、念頭で考えて得た結果が正しいことを1対1に対応させることで確かめたりする。</p> <p>2 問題に対してどのような解決策をとったかということを、具体物を操作して再現し、考えたことや解決の仕方を振り返る。</p>	<p>1 問題状況を整理したり、問題の所在を明らかにしたりして、解決の手掛かりを発見し、それを解決に役立て、その解決方法が正しかったことや修正の必要性について考える。</p> <p>2 問題に対してどのような解決策をとったかということを、具体物や絵図、式などで表して再現し、考えたことや解決の仕方について振り返り、そのよさについて認め合う。</p>

4 音楽
 <教科の目標>

小学部	
教科の目標	表現及び鑑賞の活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活の中の音や音楽に興味や関心をもって関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
知識及び技能	(1) 曲名や曲想と音楽のつくりについて気付くとともに、感じたことを音楽表現するために必要な技能を身に付けるようにする。
思考力、判断力、表現力等	(2) 感じたことを表現することや、曲や演奏の楽しさを見いだしながら、音や音楽の楽しさを味わって聴くことができるようにする。
学びに向かう力、人間性等	(3) 音や音楽に楽しく関わり、協働して音楽活動をする楽しさを感じるとともに、身の回りの様々な音楽に親しむ態度を養い、豊かな情操を培う。

<各段階の目標>

	小学部1段階	小学部2段階	小学部3段階
知識及び技能	ア 音や音楽に注意を向けて気付くとともに、関心に向け、音楽表現を楽しむために必要な身体表現、器楽、歌唱、音楽づくりにつながる技能を身に付けるようにする。	ア 曲名や曲想と簡単な音楽のつくりについて気付くとともに、音楽表現を楽しむために必要な身体表現、器楽、歌唱、音楽づくりの技能を身に付けるようにする。	ア 曲名や曲想と音楽のつくりについて気付くとともに、音楽表現を楽しむために必要な身体表現、器楽、歌唱、音楽づくりの技能を身に付けるようにする。
思考力、判断力、表現力等	イ 音楽的な表現を楽しむことや、音や音楽に気付きながら関心や興味をもって聴くことができるようにする。	イ 音楽表現を工夫することや、表現することを通じて、音や音楽に興味をもって聴くことができるようにする。	イ 音楽表現に対する思いをもつことや曲や演奏の楽しさを見いだしながら音楽を味わって聴くことができるようにする。
学びに向かう力、人間性等	ウ 音や音楽に気付いて、教師と一緒に音楽活動をする楽しさを感じるとともに、音楽経験を生かして生活を楽しいものにしようとする態度を養う。	ウ 音や音楽に関わり、教師と一緒に音楽活動をする楽しさに興味をもちながら、音楽経験を生かして生活を明るく楽しいものにしようとする態度を養う。	ウ 音や音楽に楽しく関わり、協働して音楽活動をする楽しさを感じながら、身の回りの様々な音楽に興味をもつとともに、音楽経験を生かして生活を明るく潤いのあるものにしようとする態度を養う。

<内 容>

	小学部1段階	小学部2段階	小学部3段階
A 表現	ア 音楽遊びの活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	ア 歌唱の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	ア 歌唱の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
	(ア) 音や音楽遊びについての知識や技能を得たり生かしたりしながら、音や音楽を聴いて、自分なりに表そうとすること。	(ア) 歌唱表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、好きな歌ややさしい旋律の一部分を自分なりに歌いたいという思いをもつこと。	(ア) 歌唱表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、歌唱表現に対する思いをもつこと。
	(イ) 表現する音や音楽に気付くこと。	(イ) 次の㉗及び㉘について気付くこと。 ㉗曲の特徴的なリズムと旋律 ㉘曲名や歌詞に使われている特徴的な言葉	(イ) 次の㉗及び㉘について気付くこと。 ㉗曲の雰囲気と曲の速さや強弱との関わり ㉘曲名や歌詞に使われている言葉から受けるイメージと曲の雰囲気との関わり

	小学部1段階	小学部2段階	小学部3段階
A 表現	(ウ) 思いに合った表現をするために必要な次の⑦から⑨までの技能を身に付けること。 ⑦音や音楽を感じて体を動かす技能 ⑧音や音楽を感じて楽器の音を出す技能 ⑨音や音楽を感じて声を出す技能	(ウ) 思いに合った表現をするために必要な次の⑦から⑨までの技能を身に付けること。 ⑦範唱を聴いて、曲の一部を模唱する技能 ⑧自分の歌声に注意を向けて歌う技能 ⑨教師や友達と一緒に歌う技能	(ウ) 思いに合った歌い方で歌うために必要な次の⑦から⑨までの技能を身に付けること。 ⑦範唱を聴いて歌ったり、歌詞やリズムを意識して歌ったりする技能 ⑧自分の歌声の大きさや発音などに気を付けて歌う技能 ⑨教師や友達と一緒に声を合わせて歌う技能
	—	イ 器楽の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	イ 器楽の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
	—	(ア) 器楽表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、身近な打楽器などに親しみ音を出そうとする思いをもつこと。	(ア) 器楽表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、器楽表現に対する思いをもつこと。
	—	(イ) 次の⑦及び⑧について気付くこと。 ⑦拍や曲の特徴的なリズム ⑧楽器の音色の違い	(イ) 次の⑦及び⑧について気付くこと。 ⑦リズム、速度や強弱の違い ⑧演奏の仕方による楽器の音色の違い
	—	(ウ) 思いに合った表現をするために必要な次の⑦から⑨までの技能を身に付けること。 ⑦範奏を聴き、模倣をして演奏する技能 ⑧身近な打楽器を演奏する技能 ⑨教師や友達と一緒に演奏する技能	(ウ) 思いに合った表現をするために必要な次の⑦から⑨までの技能を身に付けること。 ⑦簡単な楽譜などを見てリズム演奏などをする技能 ⑧身近な打楽器や旋律楽器を使って演奏する技能 ⑨教師や友達の楽器の音を聞いて演奏する技能
	—	ウ 音楽づくりの活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	ウ 音楽づくりの活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
	—	(ア) 音楽づくりについての知識や技能を得たり生かしたりしながら、次の⑦及び⑧をできるようにすること。 ⑦音遊びを通して、音の面白さに気付くこと。 ⑧音や音楽で表現することについて思いをもつこと。	(ア) 音楽づくりについての知識や技能を得たり生かしたりしながら、次の⑦及び⑧をできるようにすること。 ⑦音遊びを通して、音の面白さに気付いたり、音楽づくりの発想を得たりすること。 ⑧どのように音を音楽にしていかについて思いをもつこと。
	—	(イ) 次の⑦及び⑧について、それらが生み出す面白さなどに触れて気付くこと。 ⑦声や身の回りの様々な音の特徴 ⑧音のつなげ方の特徴	(イ) 次の⑦及び⑧について、それらが生み出す面白さなどと関わって気付くこと。 ⑦声や身の回りの様々な音の特徴 ⑧簡単なリズム・パターンの特徴

	小学部1段階	小学部2段階	小学部3段階
A 表現	—	(ウ) 気付きを生かした表現や思いに合った表現をするために必要な次の⑦及び①の技能を身に付けること。 ⑦音を選んだりつなげたりして、表現する技能 ①教師や友達と一緒に簡単な音や音楽をつくる技能	(ウ) 気付きや発想を生かした表現や、思いに合った表現をするために必要な次の⑦及び①の技能を身に付けること。 ⑦音を選んだりつなげたりして表現する技能 ①教師や友達と一緒に音楽の仕組みを用いて、簡単な音楽をつくる技能
	—	エ 身体表現の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	(イ) 身体表現の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
	—	(ア) 身体表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、簡単なリズムの特徴を感じ取り、体を動かすことについて思いをもつこと。	(ア) 身体表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、簡単なリズムや旋律の特徴、歌詞を感じ取り、体を動かすことについて思いをもつこと。
	—	(イ) 次の⑦及び①について、気付くこと。 ⑦拍や曲の特徴的なリズム ①曲名と動きとの関わり	(イ) 次の⑦及び①の関わりについて気付くこと。 ⑦曲のリズム,速度,旋律 ①曲名、拍やリズムを表す言葉やかけ声、歌詞の一部
	—	(ウ) 思いに合った動きで表現するために必要な次の⑦から②までの技能を身に付けること。 ⑦示範を見て模倣したり、拍や特徴的なリズムを意識したりして手足や身体全体を動かす技能 ①音や音楽を聴いて、手足や身体全体を自然に動かす技能 ②教師や友達と一緒に体を動かす技能	(ウ) 思いに合った体の動きで表現するために必要な次の⑦から②までの技能を身に付けること。 ⑦示範を見たり、拍やリズム、旋律を意識したりして、身体表現をする技能 ①音や音楽を聴いて、様々な体の動きで表現する技能 ②教師や友達と一緒に体を使って表現する技能
B 鑑賞	ア 音楽遊びの活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	ア 鑑賞の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	ア 鑑賞の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
	(ア) 音や音楽遊びについての知識や技能を得たり生かしたりしながら、音や音楽を聴いて、自分なりの楽しさを見付けようとする。	(ア) 鑑賞についての知識を得たり生かしたりしながら、身近な人の演奏を見たり、体の動きで表したりしながら聴くこと。	(ア) 鑑賞についての知識を得たり生かしたりしながら、曲や演奏の楽しさを見いだして聴くこと。
	(イ) 聞こえてくる音や音楽に気付くこと。	(イ) 身近な人の演奏に触れて、好きな音色や楽器の音を見付けること。	(イ) 曲想や楽器の音色、リズムや速度、旋律の特徴に気付くこと。
共通事項	(1) 「A 表現」及び「B 鑑賞」の指導を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。		
	ア 音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考えること。		
	イ 絵譜や色を用いた音符、休符、記号や用語について、音楽における働きと関わらせて、その意味に触れること。		

＜具体的内容＞

	小学部1段階	小学部2段階	小学部3段階
A 表現	<p>1 音楽が流れる中で手足を動かしたり、体を揺すったり、じっと動きを止めるなど、体の動きで反応し、音に気付いたり、関心を示したりする。</p> <p>2 CDプレーヤーや電子機器から聞こえてくる音楽や音に関心を示す。</p> <p>3 教師などの歌や楽器の演奏に興味を示したり、関心をもつ。</p> <p>4 音楽や音を聞いて、教師と一緒に身体部位を動かす、歩く、走る、止まるなどの動きをする。</p> <p>5 音楽が流れる中で、それに合わせて声を出したり、音楽が止まった時に声を出したりする。</p> <p>6 手足を使って楽器を鳴らしたり、ばちを使って音を出したりする。</p> <p>7 鈴、マラカス、鳴子、ハンドベルなどの振る楽器で音を鳴らして楽しむ。</p> <p>8 ツリーチャイムやカバサなどをこすったり、揺らしたり、つかんで離したりして、音を出して楽しむ。</p> <p>9 コンガ、ボンゴ、大太鼓、小太鼓、ティンパニー、和太鼓などを手やばちを使って音を出して楽しむ。</p>	<p>1 好きな歌やなじみの歌、特徴的で分かりやすいところのある歌を楽しんで聴く。</p> <p>2 歌詞に繰り返しがあったり、リズムとして分かりやすいものに関心をもつ。</p> <p>3 曲名に出てくる具体的な事物に気付いたり、「ぐるぐる」や「キューキュー」などの擬声語や擬態語、繰り返しや抑揚の面白さのある言葉などに関心をもつ。</p> <p>4 教師の歌声を聴き、まねをして声を出したり、曲の歌詞の一部分を歌ったり、抑揚をまねて声を出したりする。</p> <p>5 意図的に声を出したり、出した声を聴く。</p> <p>6 教師や友達の歌声を聴いて、声を合わせて歌う。</p> <p>7 身近な打楽器などに親しみ、自分で楽器をたたいたり振ったりして音を出そうとする。</p> <p>8 両手で操作するタンバリン、ウッドブロック、ギロなどの楽器を鳴らす。</p> <p>9 音階や和音を鳴らすことができる木琴やキーボードなどの楽器を鳴らす。</p> <p>10 曲の拍子やリズムを感じながら楽器を鳴らす。</p> <p>11 楽器によって音が違うことや、鳴らし方、たたき方等によって音が変わることに関心をもつ。</p> <p>12 合図に合わせて楽器を鳴らしたり、止めたりする。</p> <p>13 教師の演奏する様子を見たり、演奏を聴いたりして、音の強弱や鳴らし方などを模倣しようとする。</p>	<p>1 歌詞に使われている言葉からその名前や風景などのイメージをふくらませたり、曲の雰囲気と速さや強弱の関係に関心をもって曲を聴く。</p> <p>2 楽しんで声を出したり、うれしそうな表情で歌う。</p> <p>3 教師による演奏や視聴覚教材、専門家による演奏等の範唱を聴いて歌ったり、歌詞やリズムを意識して歌う。</p> <p>4 自分の歌声や発音などに注意を向けて歌う。</p> <p>5 教師や友達の歌声や伴奏を聴いて、声を合わせて歌う。</p> <p>6 音の強弱の違いや速度の違い、「♪（タンタン）」や「♪♪（タタタタ）」などのリズムの違いが分かる。</p> <p>7 そっと音を出したときと、強く音を出したときの楽器の音色の違いが分かる。</p>

	小学部1段階	小学部2段階	小学部3段階
A 表現		<p>14 友達と関わりながら、声や身の回りの様々な音に親しみ、様々な音を選んだりつなげたりする。</p> <p>15 音楽に合わせて、リズムを模倣しながら体の各部を叩いたりして動かす。</p> <p>16 「花いちもんめ」などのわらべうたに使われている音を用いて、「よびかけ」と「こたえ」になるような短い旋律をつくる。</p> <p>17 教師や友達が発する声や音の特徴を聴いて、音を簡単な音楽にする。</p> <p>18 簡単なリズムの特徴を感じ取り、身体を動かす。</p> <p>19 覚えやすい特徴のあるリズムの曲を聴き、繰り返し身体を動かすことで、リズムの特徴を身体で感じる。</p> <p>20 「マーチ」、「タンゴ」、「ぞうさん」、「うさぎのダンス」などの曲に見られる特徴的なリズムや固有名詞等から、ゆったりと歩く、リズムカルに跳ねるなどという動きを想起し、表現する。</p> <p>21 示範をまねして動いたり、拍や特徴的なリズムを感じ取った動きで表現する。</p>	<p>8 楽器の絵を順番に並べて描いた絵譜や「どれみ」のように文字で音符やリズム等を描いた文字譜を見て、楽器を鳴らしたり、簡単な合奏などをする。</p> <p>9 鍵盤楽器やリコーダーなどの旋律楽器や、有音程の打楽器（単音グロッケンやハンドベルなど）を使って曲や旋律の一部を演奏する。</p> <p>10 教師の演奏を模倣したり、合図に合わせてたりしながら、さぐり弾きや旋律の一部を演奏する。</p> <p>11 指揮や合図に合わせて「♪♪♪♪（タンタンタン）」や「♪・♪・（タンウンタンウン）」などのリズムを意識して演奏する。</p> <p>12 教師や友達の演奏を聴きながら、楽器を演奏する。</p> <p>13 声や身の回りの様々な音の特徴や、「♪♪♪・（タンタンタンウン）」や「♪♪♪・（タン・タタ・タン・ウン）」などの簡単なリズム・パターンの特徴が分かる。</p> <p>14 「よびかけ」と「こたえ」になるようなリズムや旋律をつくり、それを反復させたり変化させたりする活動や、擬声語や擬態語など、言葉のリズムに乗せて反復したり組み合わせたりする。</p> <p>15 簡単なリズムに合わせて、自発的に身体を動かす。</p> <p>16 動物名が付いている曲名やその歌詞の一部に出てくる動きを表す言葉と、それらを表すリズムや速度、旋律のつながりに気付く。</p> <p>17 示範の表現を見て、拍やリズム、旋律を意識した動きで表現する。</p>

	小学部1段階	小学部2段階	小学部3段階
A 表現		<p>22 音や音楽を聴いて、感じた思いに合った手足の動きで表現したり、身体全体を使って表現したりする。</p> <p>23 教師や友達と手をつないで、揺れる動きを徐々に大きくしていくことで動きの広がりによる豊かな表現にする。</p>	<p>18 音や音楽を聴いて、拍を足踏みで表現したり、旋律を腕の動きで表現したりする。</p> <p>19 旋律やリズム、和音の響きなどを友達と一緒に感じながら表現する。</p> <p>20 簡単なリズムの面白さなどを感じ取って、体を動かす。</p>
B 鑑賞	<p>1 やさしいメロディーや分かりやすいリズムを聴いて楽しむ。</p>	<p>1 音楽に合わせて体を揺らしたり、声を出したり、手を動かしたり、体を使って表現する。</p> <p>2 身近な人の演奏や自分の生活に身近な音を聴いて、好きな音色や音を見付ける。</p>	<p>1 曲のリズムや速度の面白さに気づき、自然と身体が動いたり、自分の好きな部分を口ずさんだり、手拍子などでリズムをまねしたり、踊ったりしながら聴く。</p> <p>2 動きを止め、じっと耳を傾けて好きな曲を聴く。</p>

5 図画工作

<教科の目標>

小学部	
教科の目標	表現及び鑑賞の活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の形や色などと豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
知識及び技能	(1) 形や色などの造形的な視点に気付き、表したいことに合わせて材料や用具を使い、表し方を工夫してつくり出すことができるようにする。
思考力、判断力、表現力等	(2) 造形的なよさや美しさ、表したいことや表し方などについて考え、発想や構想をしたり、身の回りの作品などから自分の見方や感じ方を広げたりすることができるようにする。
学びに向かう力、人間性等	(3) つくりだす喜びを味わうとともに、感性を育み、楽しく豊かな生活を創造しようとする態度を養い、豊かな情操を培う。

<各段階の目標>

	小学部1段階	小学部2段階	小学部3段階
知識及び技能	ア 形や色などに気付き、材料や用具を使おうとするようにする。	ア 形や色などの違いに気付き、表したいことを基に材料や用具を使い、表し方を工夫してつくり出すようにする。	ア 形や色などの造形的な視点に気付き、表したいことに合わせて材料や用具を使い、表し方を工夫してつくり出すようにする。
思考力、判断力、表現力等	イ 表したいことを思い付いたり、作品を見たりできるようにする。	イ 表したいことを思い付いたり、作品などの面白さや楽しさを感じ取ったりすることができるようにする。	イ 造形的なよさや美しさ、表したいことや表し方などについて考え、発想や構想をしたり、身の回りの作品などから自分の見方や感じ方を広げたりすることができるようにする。
学びに向かう力、人間性等	ウ 進んで表したり見たりする活動に取り組む、つくりだすことの楽しさに気付くとともに、形や色などに関わることににより楽しい生活を創造しようとする態度を養う。	ウ 進んで表現や鑑賞の活動に取り組む、つくりだす喜びを感じるとともに、形や色などに関わることににより楽しく豊かな生活を創造しようとする態度を養う。	ウ 進んで表現や鑑賞の活動に取り組む、つくりだす喜びを味わうとともに、感性を育み、形や色などに関わることににより楽しく豊かな生活を創造しようとする態度を養う。

<内 容>

	小学部1段階	小学部2段階	小学部3段階
A 表現	ア 線を引く、絵をかくなどの活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	ア 身近な出来事や思ったことを基に絵をかく、粘土で形をつくるなどの活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	ア 日常生活の出来事や思ったことを基に絵をかいたり、作品をつくったりする活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
	(ア) 材料などから、表したいことを思い付くこと。	(ア) 材料や、感じたこと、想像したこと、見たことから表したいことを思い付くこと。	(ア) 材料や、感じたこと、想像したこと、見たこと、思ったことから表したいことを思い付くこと。
	(イ) 身の回りの自然物などに触れながらかく、切る、ぬる、はるなどすること。	(イ) 身近な材料や用具を使い、かいたり、形をつくったりすること。	(イ) 様々な材料や用具を使い、工夫して絵をかいたり、作品をつくったりすること。
B 鑑賞	ア 身の回りにあるものや自分たちの作品などを鑑賞する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	ア 身の回りにあるものや自分たちの作品などを鑑賞する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	ア 自分たちの作品や身の回りにある作品などを鑑賞する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
	(ア) 身の回りにあるものなどを見ること。	(ア) 身近にあるものなどの形や色の面白さについて感じ取り、自分の見方や感じ方を広げること。	(ア) 自分たちの作品や、日常生活の中にあるものなどの形や色、表し方の面白さなどについて、感じ取り、自分の見方や感じ方を広げること。
	—	—	—

	小学部1段階	小学部2段階	小学部3段階
共通事項	ア 「A 表現」及び「B 鑑賞」の指導を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	ア 「A 表現」及び「B 鑑賞」の指導を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	ア 「A 表現」及び「B 鑑賞」の指導を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
	(ア) 自分が感じたことや行ったことを通して、形や色などについて気付くこと。	(ア) 自分が感じたことや行ったことを通して、形や色などの違いに気付くこと。	(ア) 自分の感覚や行為を通して、形や色などの感じに気付くこと。
	(イ) 形や色などを基に、自分のイメージをもつこと。	(イ) 形や色などを基に、自分のイメージをもつこと。	(イ) 形や色などを基に、自分のイメージをもつこと。

<具体的内容>

	小学部1段階	小学部2段階	小学部3段階
A 表現	<p>1 土、粘土、砂等の身近にあるものに関わり、目で見たり、手で触れたり、力を加えたりして、体全体で自由に遊ぶ。</p> <p>2 いろいろな素材に触れ、握ったり押ししたり、ちぎったり丸めたりして形を変えたり、簡単な形をつくったりして遊ぶ。</p> <p>3 いろいろな素材に触れ、同じ形や色のものを並べたり、つないだりして遊ぶ。</p> <p>4 小石、木の葉、小枝、木の実等を集めたり、分けたり、並べたりして遊ぶ。</p> <p>5 土、粘土、砂、小石、木の葉、小枝、木の実、貝殻、雪や氷、水等の自然物の材料に触れ、大きさや長さ、形や質感、色に関心をもつ。</p> <p>6 手指やペン、クレヨン等を使って好きな色で自由に描いて遊ぶ。</p> <p>7 好きな色、形等を選んで集めたり、貼ったりする。</p> <p>8 紙や布等をちぎったり、丸めたり、貼ったり、つないだりして遊ぶ。</p> <p>9 積み木などで、いろいろな形を作ったり、高く積み上げたり、崩したりして遊ぶ。</p>	<p>1 身近なものや、うれしかったこと、不思議に感じたこと、驚いたことなど体験したことを絵に描く。</p> <p>2 身近な人、動物や植物、体験したことなどを題材にして、クレヨンやクレパス、水彩絵の具、カラーペンなどを使って描く。</p> <p>3 粘土などを使って、感じたこと、想像したこと、見たことなどから、自分で表現したいものを作る。</p> <p>4 へらなどの身近な用具を使って、粘土を切ったり、筋をつけたりする。</p>	<p>1 身近なものや、うれしかったこと、不思議に感じたこと、驚いたこと、思ったことなど体験したことを、形や色に着目して絵に描く。</p> <p>2 感じたことや想像したこと等、何を表したいのかを明確にして、描いたり作ったりする。</p> <p>3 ものを表現する際に、クレヨンやクレパスの色や紙の切り方、粘土を丸めたりひねりだしたりするなど、表し方を工夫する。</p>

	小学部1段階	小学部2段階	小学部3段階
	<p>10 手や体を使って、粘土をのぼしたり、穴を開けたりする。</p>	<p>5 木の葉や野菜などの身近な自然物や、段ボールやひも、スチレンボードなどの人工の材料に絵の具を付けてスタンプング(型押し)をしたり、連続して模様を作ったりする。</p> <p>6 はさみやのりを使って、貼り絵や工作をする。</p> <p>7 はさみやのり、粘着剤、ステープラー等の身近な用具を使って、身の回りや教室の装飾をする。</p> <p>8 土、紙材、草木、アルミ箔、箱、空き缶等の身近な材料を使って、表現したい形を作る。</p>	<p>4 学校行事などで使う飾りや用具を、友達と協力して作る。</p> <p>5 かなづち、ベンチ、のこぎり、彫刻刀、くぎ、ねじ、接着剤など簡易な木材加工用具や金属加工用具を使って、作品などいろいろなものを作る。</p> <p>6 材料や用具を繰り返し経験し、材料の性質や用具の使い方を理解する。</p> <p>7 土、砂、石、粘土、草木などの自然物や、紙、布、積み木、アルミ箔、空き缶、スチレンボード、針金、プラスチック、ゴムなどの人工物を使って、動くおもちゃなどをつくって遊ぶ。</p>
B 鑑賞	<p>1 自分の作品や友達の作品、身近な材料などに関心をもつ。</p> <p>2 自分の作品を教師に見せる。</p>	<p>1 身近にあるものを見つめたり、触ったり、手に取ったりすることを通して、おもしろさや心地よさを感じる。</p> <p>2 材料や触れてもよい作品などを鑑賞し、指先、手のひらで包みこむ、抱きかかえる、持ち上げるなど様々な方法で作品に触れる。</p> <p>3 自分の作品や友達の作品をお互いに見せ合う。</p>	<p>1 自分の作品に題名や名前を付ける。</p> <p>2 作品で表現した内容を自分の言葉で説明したり、友達の説明を聞いたりして形や色、表現方法の面白さなどを感じる。</p> <p>3 自分と友達の作品の表現方法の違いに関心をもって見る。</p>

6 体育

<教科の目標>

小学部

教科の目標	体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題に気付き、その解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
知識及び技能	(1) 遊びや基本的な運動の行い方及び身近な生活における健康について知るとともに、基本的な動きや健康な生活に必要な事柄を身に付けるようにする。
思考力、判断力、表現力等	(2) 遊びや基本的な運動及び健康についての自分の課題に気付き、その解決に向けて自ら考え行動し、他者に伝える力を養う。
学びに向かう力、人間性等	(3) 遊びや基本的な運動に親しむことや健康の保持増進と体力の向上を目指し、楽しく明るい生活を営む態度を養う。

<各段階の目標>

	小学部1段階	小学部2段階	小学部3段階
知識及び技能	ア 教師と一緒に、楽しく体を動かすことができるようにするとともに、健康な生活に必要な事柄ができるようにする。	ア 教師の支援を受けながら、楽しく基本的な運動ができるようにするとともに、健康な生活に必要な事柄ができるようにする。	ア 基本的な運動の楽しさを感じ、その行い方を知り、基本的な動きを身に付けるとともに、健康や身体の変化について知り、健康な生活ができるようにする。
思考力、判断力、表現力等	イ 体を動かすことの楽しさや心地よさを表現できるようにするとともに、健康な生活を営むために必要な事柄について教師に伝えることができるようにする。	イ 基本的な運動に慣れ、その楽しさや感じたことを表現できるようにするとともに、健康な生活に向け、感じたことを他者に伝える力を養う。	イ 基本的な運動の楽しみ方や健康な生活の仕方について工夫するとともに、考えたことや気付いたことなどを他者に伝える力を養う。
学びに向かう力、人間性等	ウ 簡単な合図や指示に従って、楽しく運動をしようとしたり、健康に必要な事柄をしようとしたりする態度を養う。	ウ 簡単なきまりを守り、友達とともに安全に楽しく運動をしようとしたり、健康に必要な事柄をしようとしたりする態度を養う。	ウ きまりを守り、自分から友達と仲よく楽しく運動をしたり、場や用具の安全に気を付けたりしようとするとともに、自分から健康に必要な事柄をしようとする態度を養う。

<内容>

	小学部1段階	小学部2段階	小学部3段階
A 体づくり運動遊び(1段階) 体づくり運動(2,3段階)	体づくり運動遊びについて、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	体づくり運動について、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	体づくり運動について、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
	ア 教師と一緒に、手足を動かしたり、歩いたりして楽しく体を動かすこと。	ア 教師の支援を受けながら、楽しく基本的な体づくり運動をすること。	ア 基本的な体づくり運動の楽しさを感じ、その行い方を知り、基本的な動きを身に付けること。
	イ 手足を動かしたり、歩いたりして体を動かすことの楽しさや心地よさを表現すること。	イ 基本的な体づくり運動に慣れ、その楽しさや感じたことを表現すること。	イ 基本的な体づくり運動の楽しみ方を工夫するとともに、考えたことや気付いたことなどを他者に伝えること。
	ウ 簡単な合図や指示に従って、体づくり運動遊びをしようとする事。	ウ 簡単なきまりを守り、友達とともに安全に楽しく、基本的な体づくり運動をしようとする事。	ウ きまりを守り、自分から友達と仲よく楽しく基本的な体づくり運動をしたり、場や用具の安全に気を付けたりしようとする事。

	小学部1段階	小学部2段階	小学部3段階
B 器械・器具を使 つての遊び (1段階) 器械・器具を使 つての運動 (2・3段階)	器械・器具を使つての遊びについて、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	器械・器具を使つての運動について、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	器械・器具を使つての運動について、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
	ア 教師と一緒に、器械・器具を使つて楽しく体を動かすこと。	ア 教師の支援を受けながら、楽しく器械・器具を使つての基本的な運動をすること。	ア 器械・器具を使つての基本的な運動の楽しさを感じ、その行い方を知り、基本的な動きを身に付けること。
	イ 器械・器具を使つて体を動かすことの楽しさや心地よさを表現すること。	イ 器械・器具を使つての基本的な運動に慣れ、その楽しさや感じたことを表現すること。	イ 器械・器具を使つての基本的な運動の行い方を工夫するとともに、考えたことや気付いたことなどを他者に伝えること。
	ウ 簡単な合図や指示に従って、器械・器具を使つての遊びをしようとするこ と。	ウ 簡単なきまりを守り、友達とともに安全に楽しく、器械・器具を使つての基本的な運動をしようとするこ と。	ウ きまりを守り、自分から友達と仲よく楽しく器械・器具を使つての基本的な運動をしたり、場や器械・器具の安全に気を付けたりしようとするこ と。
C 走・跳の運動 遊び(1段階) 走・跳の運動 (2・3段階)	走・跳の運動遊びについて、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	走・跳の運動について、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	走・跳の運動について、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
	ア 教師と一緒に、走ったり、跳んだりして楽しく体を動かすこと。	ア 教師の支援を受けながら、楽しく走・跳の基本的な運動をすること。	ア 走・跳の基本的な運動の楽しさを感じ、その行い方を知り、基本的な動きを身に付けること。
	イ 走ったり・跳んだりして体を動かすことの楽しさや心地よさを表現すること。	イ 走・跳の基本的な運動に慣れ、その楽しさや感じたことを表現すること。	イ 走・跳の基本的な運動の楽しみ方を工夫するとともに、考えたことや気付いたことなどを他者に伝えること。
	ウ 簡単な合図や指示に従って、走・跳の運動遊びをしようとするこ と。	ウ 簡単なきまりを守り、友達とともに安全に楽しく、走・跳の基本的な運動をしようとするこ と。	ウ きまりを守り、自分から友達と仲よく楽しく走・跳の基本的な運動をしたり、場や用具の安全に気を付けたりしようとするこ と。
D 水遊び (1段階) 水の中での運 動(2・3段階)	水遊びについて、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	水の中での運動について、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	水の中での運動について、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
	ア 教師と一緒に、水の特性を生かした簡単な水遊びを楽しむこと。	ア 教師の支援を受けながら、楽しく水の中での基本的な運動をすること。	ア 水の中での基本的な運動の楽しさを感じ、その行い方を知り、基本的な動きを身に付けること。
	イ 水の中で体を動かすことの楽しさや心地よさを表現すること。	イ 水の中での基本的な運動に慣れ、その楽しさや感じたことを表現すること。	イ 水の中での基本的な運動の楽しみ方を工夫するとともに、考えたことや気付いたことなどを他者に伝えること。
	ウ 簡単な合図や指示に従って、水遊びをしようとするこ と。	ウ 簡単なきまりを守り、友達とともに安全に楽しく、水の中での基本的な運動をしようとするこ と。	ウ きまりを守り、自分から友達と仲よく楽しく水の中での基本的な運動をしたり、場や用具の安全に気を付けたりしようとするこ と。

	小学部1段階	小学部2段階	小学部3段階
E ボール遊び(1段階) ボールを使った運動やゲーム(2,3段階)	ボール遊びについて、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	ボールを使った運動やゲームについて、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	ボールを使った運動やゲームについて、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
	ア 教師と一緒に、ボールを使って楽しく体を動かすこと。	ア 教師の支援を受けながら、楽しくボールを使った基本的な運動やゲームをすること。	ア ボールを使った基本的な運動やゲームの楽しさを感じ、その行い方を知り、基本的な動きを身に付けること。
	イ ボールを使って体を動かすことの楽しさや心地よさを表現すること。	イ ボールを使った基本的な運動やゲームに慣れ、その楽しさや感じたことを表現すること。	イ ボールを使った基本的な運動やゲームの楽しみ方を工夫するとともに、考えたことや気付いたことなどを他者に伝えること。
	ウ 簡単な合図や指示に従って、ボール遊びをしようとする。	ウ 簡単なきまりを守り、友達とともに安全に楽しく、ボールを使った基本的な運動やゲームをしようとする。	ウ きまりを守り、自分から友達と仲良く楽しくボールを使った基本的な運動やゲームをしたり、場や用具の安全に気を付けたりしようとする。
F 表現遊び(1段階) 表現運動(2,3段階)	表現遊びについて、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	表現運動について、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	表現運動について、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
	ア 教師と一緒に、音楽の流れている場所で楽しく体を動かすこと。	ア 教師の支援を受けながら、音楽に合わせて楽しく表現運動をすること。	ア 基本的な表現運動の楽しさを感じ、その行い方を知り、基本的な動きを身に付け、表現したり踊ったりすること。
	イ 音楽の流れている場所で体を動かすことの楽しさや心地よさを表現すること。	イ 基本的な表現運動に慣れ、その楽しさや感じたことを表現すること。	イ 基本的な表現運動の楽しみ方を工夫するとともに、考えたことや気付いたことなどを他者に伝えること。
	ウ 簡単な合図や指示に従って、表現遊びをしようとする。	ウ 簡単なきまりを守り、友達とともに安全に楽しく、基本的な表現運動をしようとする。	ウ きまりを守り、自分から友達と仲よく楽しく表現運動をしたり、場や用具の安全に気を付けたりしようとする。
G 保健	健康な生活に必要な事柄について、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	健康な生活に必要な事柄について、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	健康な生活に必要な事柄について、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
	ア 教師と一緒に、うがいなどの健康な生活に必要な事柄をすること。	ア 教師の支援を受けながら、健康な生活に必要な事柄をすること。	ア 健康や身体の変化について知り、健康な生活に必要な事柄に関する基本的な知識や技能を身に付けること。
	イ 健康な生活に必要な事柄に気づき、教師に伝えること。	イ 健康な生活に必要な事柄に慣れ、感じたことを他者に伝えること。	イ 健康な生活に必要な事柄について工夫するとともに、考えたことや気付いたことなどを他者に伝えること。

<具体的内容>

	小学部1段階 ＜体づくり運動遊び＞	小学部2段階 ＜体づくり運動＞	小学部3段階 ＜体づくり運動＞
A 体づくり運動遊び／体づくり運動	1 教師と一緒に手足を動かす。 2 教師と一緒に歩く。	1 一人で歩いたり、走ったりする。	1 動きや人数などの条件を整えて、歩いたり走ったりする運動をする。
	3 低い台に上ったり、下りたりする。 4 階段を上ったり、下りたりする。 5 様々な運動をする中で、手足を十分に伸ばしたり曲げたりする。	2 伸び伸びとした動作で運動する。	2 伸び伸びとした動作で用具などを用いて運動する。
	6 様々な運動をする中で、脚を前後左右に開いたり、腕を振ったり回したりする。	3 リズムに乗って運動する。	3 リズムに乗って弾むような動作で運動する。
	7 教師の支援を受けて、バランスを取りながら片足で立つ。	4 片足を軸にして、バランスを取りながら、右回り・左回りに回転する。 5 片足立ちでバランスを保つ。	4 伝承遊びや集団による運動をする。 5 立った姿勢からリズムよく跳ねながら、右回り・左回りに回転などをする。 6 押し合いずもうで、重心を低くして相手を押ししたり、相手から押されないように踏ん張ったりする。
	8 シャがんだり立ったりする動きを取り入れた運動遊びをする。	6 大また小またなどの歩き方をする。 7 直線上を歩く。 8 一列に並んで歩く。	7 友達と手をつないだり、肩を組んだり、背中を合わせたりして、立ったり座ったりする。 8 後ろ歩き、横歩きなどいろいろな歩き方をしたり、リズムに合わせて行進したりする。
	9 転がる動きを取り入れた運動遊びをする。	9 大きな円を右回りや左回りに這ったり、歩いたり、走ったりする。 10 無理のない速さでかけ足をする。	9 横や後ろ、斜めに走ったり、曲線やジグザグなどの走路や細い走路を走ったりする。 10 無理のない速さでかけ足を3～4分程度続ける。
	10 その場跳びを取り入れた運動遊びをする。	11 大きさや重さの異なるボールを両手でつかんだり、持ち上げたり、下ろしたりする。	11 大きさや種類の異なる用具（ボールと棒など）を片手や両手で投げたり、捕ったりする。
	11 縄やテープの上を歩いたり、踏まないようにまたいで歩いたりするなどの運動遊びをする。	12 長縄で大波・小波などの遊びをする。 13 縄を引きながら、力比べをする。	12 短い縄を揺らしたり、回旋したりしながら、連続両足跳び（前跳び・後ろ跳び）をする。 13 友達をおんぶする。 14 友達をおんぶして歩く。

	小学部1段階 ＜器械・器具を使つての遊び＞	小学部2段階 ＜器械・器具を使つての運動＞	小学部3段階 ＜器械・器具を使つての運動＞
B 器械・器具を使つての遊び／器械・器具を使つての運動	1 トランポリンの上に乗り、上下の揺れを楽しみながら遊ぶ。 2 低い跳び箱によじ登ったり、飛び下りたり、またがったりして遊ぶ。 3 ジャンブルジムで登り下りや、ぶら下がったりして遊ぶ。 4 低い鉄棒にぶら下がったりして遊ぶ。 5 ブランコに乗り、前後の揺れを楽しみながら遊ぶ。 6 マットに背中や腹などをつけて転がったり、移動したりして遊ぶ。	1 ジャンピングボードやトランポリンの上に乗り、上下に跳ねる。 2 低い平均台の上を歩いたり、飛び下りなどをする。 3 跳び箱に両手を着いてまたぎ乗ったり、またいだ姿勢で手を視点に体重を移動させて、またぎ下りたりする。 4 低い鉄棒で、飛び上がりや飛び下りをする。 5 マットに背中を順番に接触させるなどして、ゆりかごや前転、後転をする。	1 細い平均台を前向きに歩いたり、後ろ向きに歩く。 2 教師の支援を受けながら、跳び箱に両手を着いて跳び乗ったり、跳び下りたりする。 3 鉄棒にぶら下がり、体を前後に振ったりする。 4 低い鉄棒に跳び上がり、前回り下りをする。 5 手を上にあげて体をまっすぐ伸ばした状態でマットの上に寝転がり、連続横転をする。
	＜器械・器具を使つての遊び＞	＜器械・器具を使つての運動＞	＜器械・器具を使つての運動＞
日 器械・器具を使つての遊び／器械・器具を使つての運動			6 しゃがんだ姿勢から手で支えながら腰を上げ、体を丸めながら後頭部、背中、尻、足裏の順にマットに接し、前方に回転して立ち上がり、前転する。
	＜走・跳の運動遊び＞	＜走・跳の運動＞	＜走・跳の運動＞
C 走・跳の運動遊び／走・跳の運動	1 教師が向かい合って両手で介助したり、手をつないだり、並んだりして一緒に走る。 2 音楽を流したり、言葉掛けを聞いて、楽しみながら走ったり、跳んだりする。 3 教師の言葉掛けのリズムに合わせて、一定の時間や距離を一緒にゆっくり走ったり、早く走ったりする。 4 正面や横で教師が介助し、教師の合図や言葉掛けに合わせてその場で両足や片足で跳んだり、前方に跳んだりする。	1 教師の手拍子や言葉掛けに合わせて一定の速度で走る。 2 30m程度のかけっこやトラックなど緩やかなカーブを走る。 3 折り返しのリレーなどで、教師や友達と手のひらを向けてタッチする。 4 教師の言葉掛けなどでタイミングを計りながら、一人で片足や両足で連続して上方に跳んだり、前方に跳んだりする。	1 一定の速さで3～4分程度ゆっくり走る。 2 30～50m程度の距離を全力で走る。 3 ジグザグ、S字のコースに沿って走る。 4 バトンパスによるリレーをする。 5 ケンパー跳びで片足や両足で連続して前方に跳ぶ。

	小学部1段階 ＜走・跳の運動遊び＞	小学部2段階 ＜走・跳の運動＞	小学部3段階 ＜走・跳の運動＞
C 走・跳の運動		5 低い障害物を、歩いたり走ったりしながらまたいだり、飛び越えたりする。	6 輪や段ボールなどの低い障害物を、助走をつけて飛び超える。
	＜水遊び＞	＜水の中での運動＞	＜水の中での運動＞
D 水遊び／水の中での運動	<p>1 プールの周りでじょうろを使って遊ぶ。</p> <p>2 浅い深さのプールの中で、遊具を浮かべたり沈めたりして遊ぶ。</p> <p>3 水をすくったりかけたりして遊ぶ。</p> <p>4 水をすくって体の様々な部分にかけたり、様々な方向に飛ばしたり、友達や教師と水をかけ合ったりして遊ぶ。</p>	<p>1 水の中で様々な動物（アヒル、カニ、カエル、ワニなど）の真似をしながら、腰やひざを伸ばした一直線の姿勢になり手を使って歩く。</p> <p>2 自分で水を頭や顔にかけたり、友達や教師と水をかけ合ったりする。</p> <p>3 教師の言葉かけに合わせて、息を止めて顔や頭を水の中に入れてたり、水の中で目を開けたりする。</p> <p>4 プールサイドを走らないことや、順番を守って、水の中で運動する。</p>	<p>1 じゃんけんやにらめっこ、石拾い、輪くぐり等をして、もぐったり、目を開けたり、浮いたり、水中で息を吐いたりする。</p> <p>2 大きく息を吸ってもぐり、水中で息を止めたり吐いたりする。</p> <p>3 息を止めてもぐり、口や鼻から少しづつ息を吐きながら水面まで跳び上がって息をまとめて吐いた後、空中で息を吸ってから再び水中にもぐる。</p> <p>4 手を上げながら膝を曲げてもぐり、手を下げて膝を伸ばして跳び上がる動きを繰り返す。</p> <p>5 壁や補助具につかまり、ももの付け根からのばた足をする。</p> <p>6 壁や補助具につかまり、足の裏で水を押すかえる足をする。</p>
	＜ボール遊び＞	＜ボールを使った運動やゲーム＞	＜ボールを使った運動やゲーム＞
E ボール遊び／ボールを使った運動やゲーム	<p>1 ボールを転がしたり、投げたり、蹴ったりする。</p> <p>2 ボールを捕ったり、止めたりする。</p> <p>3 ボールを転がしたり、投げたり、蹴ったりして、的に当てる。</p>	<p>1 ボールの大小、弾む・弾まないなど、いろいろなボールで、つく、転がす、投げる、当てる、捕るなどの簡単なボール操作をする。</p> <p>2 教師や友達にボールを転がしたり、投げたり、教師や友達が転がしたり、投げたりしたボールを止めたり、捕ったりする。</p> <p>3 教師や友達とボールを蹴ったり、止めたり、蹴り合いをする。</p>	<p>1 友達と一緒にボールを投げる、捕る、蹴る、止めるなどの動きで、キャッチボールやパスをしたり、ゴールに向かってシュートをしたりする。</p>

	小学部1段階 ＜ボール遊び＞	小学部2段階 ＜ボールを使った運動やゲーム＞	小学部3段階 ＜ボールを使った運動やゲーム＞
E ボール遊び／ボールを使った運動やゲーム		<p>4 ねらったところにボールを転がしたり、投げたり、蹴ったりして的に当てたり、得点形式の的に当てゲームをしたりする。</p> <p>5 教師や友達にボールを手渡したり投げたりして、ゴールにボールを運ぶボール送りゲームをする。</p> <p>6 教師や友達など逃げる相手を追いかけてタッチしたり、鬼にタッチされないように、速く走ったり、急に曲がったり、身をかわしたりする。</p> <p>7 教師や友達と手をつないで、鬼にタッチされないように走ったり、身をかわしたりする手つなぎ鬼をする。</p>	<p>2 ねらったところにボールを転がしたり、投げる、蹴るなどしてゴールにシュートをして得点したりするシュートゲームをする。</p> <p>3 一定の区域内で、相手が転がしたり、投げたりしたボールに当たらないように避けたり、逃げたりする円形ドッジボールをする。</p> <p>4 静止しているボールを手で打つ。</p> <p>5 攻めがボールを手で打ったり、蹴ったり、守りが捕ったり、止めたりするベースボール型ゲームをする。</p> <p>6 ベースボール型ゲームにおいて、ボールが飛んだり、転がったりしてくるコースに入る。</p> <p>7 逃げる相手を追いかけて、しっぽ（マーク）を捕ったり、相手にしっぽ（マーク）を捕られないように、速く走ったり、急に曲がったり、身をかわしたりするしっぽ取りゲームをする。</p>
	＜表現遊び＞	＜表現運動＞	＜表現運動＞
F 表現遊び／表現運動	<p>1 音楽を感じながら、自由に体を動かす。</p> <p>2 音楽を感じながら、歩いたり、走ったりする。</p> <p>3 音楽を感じながら、はねたり、跳んだりする。</p>	<p>1 身近な動物や車、飛行機などの乗り物等の特徴を捉えやすい動きを含む題材を設定し、教師の真似をしたり、全身の動きで自由に表現したりする。</p> <p>2 弾む、回る、ねじるなどの動きで自由に踊る。</p> <p>3 音楽やリズムに合わせて歩く、走る、弾む、回る、ねじるなどの運動をする。</p>	<p>1 家事やスポーツなど身近な生活の中から題材（衣服が洗濯で洗われたり、干されたりする等）を設定し、全身の動きで自由に表現する。</p> <p>2 大空を自由に飛び回る様子や、海の中を深く潜ったり泳いだり波に揺られたりする様子、風に吹かれているいろいろな動きをしながら舞う様子など想像が広がる題材を設定し、自由に表現する。</p> <p>3 リズムに乗って、スキップなどで弾む動きを中心に、回る、ねじる、移動するなどの動きを繰り返して踊る。</p> <p>4 友達と手をつないだり、友達の真似をしたりして踊る。</p> <p>5 友達と向かい合って手をつなぎ、スキップしながら回ったり、ねじったり、手を叩き合ったりして踊る。</p>

	小学部1段階	小学部2段階	小学部3段階
	<保健>	<保健>	<保健>
G 保 健	<p>1 教師と一緒に「うがい」、「のど」、「せき」といった言葉に触れながら、教師と一緒にうがいをしたり、うがいに関心をもったりする。</p> <p>2 遊びや運動のあとに、「かお」、「むね」、「せなか」といった言葉に触れながら、タオルやハンカチ等で汗をふき取る。</p> <p>3 体調が悪い時やけがをしたときに、教師と一緒に保健室へ行き、保健室の雰囲気慣れる。</p> <p>4 自分の体調の変化に気付き、教師にことばや表情、サイン、絵カードなどで伝える。</p>	<p>1 教師の言葉掛けや日課の流れ、手の汚れの状態を見て、手洗いをする。</p> <p>2 身体測定による体重や身長の変化に興味や関心をもつ。</p> <p>3 身体測定や健康診断などの場の雰囲気慣れたり、身体測定や健康診断に必要な態度を身に付ける。</p> <p>4 自分の体調について意識し、体調の悪いときやけがをして痛みを感じていることや痛い部位を、ことばやサイン、絵カードなどで教師等に知らせたり、伝えたりする。</p>	<p>1 身体測定の結果や身体の変化などから、自分の身体の成長に関心をもつ。</p> <p>2 むし歯の予防について関心をもつ。</p> <p>3 発熱や咳、排便の状態などについて自分から意識し、治療や休養が必要なことを教師等に知らせる。</p> <p>4 病気やけがをしたときは、落ち着いて簡単な手当てを受ける。</p> <p>5 友達のけがや、体調の変化を教師等に告げる。</p>

7 外国語活動

(※小学部3学年以上の児童を対象とし、国語科の3段階の目標及び内容を学習する児童が学ぶことができるように目標及び内容を設定)

<教科の目標>

小学部	
教科の目標	外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語や外国の文化に触れることを通して、コミュニケーションを図る素地となる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
知識及び技能	(1) 外国語を用いた体験的な活動を通して、日本語と外国語の音声の違いなどに気付き、外国語の音声に慣れ親しむようにする。
思考力、判断力、表現力等	(2) 身近で簡単な事柄について、外国語に触れ、自分の気持ちを伝え合う力の素地を養う。
学びに向かう力、人間性等	(3) 外国語を通して、外国の文化などに触れながら、言語への関心を高め、進んでコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

<内 容>

小学部(外国語活動)	
知識及び技能	(1) 英語の特徴等に関する事項 具体的な言語の使用場面や具体的な状況における言語活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
	ア 言語を用いてコミュニケーションを図ることの楽しさを知ること。
	イ 日本と外国の言語や文化について、以下の体験を通して慣れ親しむこと。
	(7) 英語の歌や日常生活になじみのある語などを聞き、音声やリズムに親しむこと。
思考力・判断力・表現力等	(4) 外国の生活や行事などに触れ、日本と外国の生活や違いを知ること。
	(2) 自分の考えや気持ちなどを表現したり、伝えたりする力の素地に関する事項 具体的な課題等を設定し、コミュニケーションを行う目的や場面などに応じて表現することを通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
	ア 身近で簡単な事柄について、注目して見聞きしようとする事。
	イ 身近で簡単な事柄について、相手の働きかけに応じようとする事。
	(3) 言語活動及び言語の働きに関する事項
	① 言語活動に関する事項 (2)に示す事項については、(1)に示す事項を活用して、例えば、次のような言語活動を取り上げるようにする。
	ア 聞くこと
	(7) 既に経験している活動や場面で、英語の挨拶や語などを聞き取る活動。
	(4) 既に知っている物や事柄に関する語などを聞き、それが表す内容を実物や写真などと結びつける活動。
	イ 話すこと
	(7) 既に経験している活動や場面で、実物や写真などを示しながら自分の名前や好きなものなどを簡単な語などを用いて伝える活動。
	(4) 既に知っている歌やダンス、ゲームで、簡単な語や身振りなどを使って表現する活動。
	② 言語の働きに関する事項 言語活動を行うに当たり、主として次に示すような言語の使用場面や言語の働きを取り上げるようにする。
	ア 言語の使用場面の例
(7) 児童の遊びや身近な暮らしに関わる場面	
㉞ 歌やダンスを含む遊び	
① 家庭での生活	
② 学校での学習や活動 など	
(4) 特有の表現がよく使われる場面	
㉞ 挨拶	
① 自己紹介 など	
イ 言語の働きの例	
(7) コミュニケーションを円滑にする	
㉞ 挨拶をする	
(4) 気持ちを伝える	
㉞ 礼を言う など	

＜具体的内容＞

小学部		
知識及び技能		
英語の特徴等に関する事項	1 言葉を使ってやり取りをする様子を見る。	
	2 知っている遊びや活動の中で相手とやり取りをしたりする体験を通して、言葉を使ってコミュニケーションを図ることを楽しむ。	
	3 外国語のもつ音声やリズムなどに親しむ。	
	4 具体物や絵カードを見ながら英語の音声聞き、英語特有のリズムやイントネーションに慣れる。	
	5 ALTなどネイティブ・スピーカーや地域に住む外国人に関心を持ち、交流（簡単な遊びやゲームなど）を楽しむ。	
	6 ALTなどネイティブ・スピーカーや地域に住む外国人との交流において、食生活や遊び、行事等の違いが分かる。	
思考力、判断力、表現力等		
現しつたり、業地に關する事項 自分の考えや気持ちなどを表したり、伝えたりする力の	1 英語で話しかけられたり、英語でのやり取りを見たりすることに慣れる。	
	2 よく知っているものや事柄、身近な人を簡単な英語で表すことができることに興味をもつ。	
	3 コミュニケーションの相手や、動画や音声等の教材から流れる映像や英語の音声に興味や関心をもって見たり聞いたりする。	
	4 コミュニケーションの相手や、身近な人が話している英語をまねて話す。	
	5 コミュニケーションの相手や、身近な人からの英語を使った質問や要求にうなずいたり、表情や動作、発話などで応じたりする。	
言語活動及び言語の働きに関する事項		
言語活動に関する事項	ア 聞くこと	1 経験したことのある活動や場面で使用される挨拶や言葉を、英語の挨拶や言葉などにして聞く。 2 知っている物や事柄に関する英語を聞き、それを表す実物や写真、絵などを選ぶ。
	イ 話すこと	1 自分の名前や、好きなものなどを簡単な英語、実物や写真、身振りや表情で示したりして相手に伝える。 2 音楽や体育、特別活動などの他教科等で学習した内容を、簡単な英語や身振りなどを使って表現したり、これまでに経験した活動を簡単な英語や身振りなどを使って行ったりする。
言語の働きに関する事項	1 季節の行事に関する歌や誕生日を祝う歌などの英語の歌を聴いて楽しんだり、簡単なアルファベットを使ったゲームをしたりする。 2 身体の一部を英語の言葉に替えて歌うなどの簡単な手遊び歌やゲームなどを行う。 3 食事や遊びなど日常的に行っている動作や起床・着替え・朝食などの一日の生活の流れに関する言葉を簡単な英語で話したり、聞いたりする。 4 他教科等で学習したことや身に付けたことを簡単な英語で表す。（授業の挨拶、生活：衣類や持ち物、算数：数の数え方など） 5 英語で簡単な挨拶をする。（Good morning/afternoon. Hello. Hi. Goodbye. See you. など） 6 英語で簡単な自己紹介をする。（Hello, I am ○○. I like △△. など） 7 英語でお礼を伝える。（Thank you.）	

引用文献

- 文部科学省(2018), 『特別支援学校小学部・中学部学習指導要領解説 各教科等編(小学部・中学部)』, 開隆堂, p.20, pp.26-27
- 文部科学省(2018), 『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編(幼稚部・小学部・中学部)』, 開隆堂, p.45, p.50
- 全国特別支援学校知的障害教育校長会編著(2010), 『新しい教育課程と学習活動Q&A特別支援教育 知的障害教育』, 東洋館出版社, pp.150-182

参考文献等

- 文部科学省 中央教育審議会 教育課程部会 特別支援教育部会(2016), 『知的障害のある児童生徒のための各教科に関連する資料』
- 山口県教育委員会(2013), 『特別支援学校新着任者用研修テキスト』
- 東京都教育委員会(2015), 『各教科等を合わせた指導の充実』
- 京都府総合教育センター(2014), 『「各教科等を合わせた指導」ガイドブック』
- 名古屋恒彦(2016), 『わかる!できる!「各教科等を合わせた指導」どの子も本気になれる特別支援教育の授業づくり』, 教育出版
- 名古屋恒彦(2019), 『「各教科等を合わせた指導」エッセンシャルブック 子ども主体の学校生活と確かな学びを実現する「リアルの教育学」』, シアース教育新社



各教科等を合わせた指導での
目標・内容・方法・学習評価の一体化を目指す
授業づくりガイドブック